

教 養 教 育 授 業 案 内

令 和 2 年 度

群 馬 大 学

目 次

荒牧地区 初年次	1
荒牧地区 高年次	83
昭和地区	89
桐生地区 高年次	93
桐生地区（理工学部 総合理工学科）	101
開放専門科目	105

選択・必修別欄の説明

必：必修科目です。必修科目は、卒業するために、必ず履修し、単位を修得しなければならない授業科目です。

②：選択必修科目です。選択必修科目は、卒業するために、複数開講されている授業科目の中から選択して履修し、単位を修得しなければならない授業科目です。

選：選択科目です。選択科目は、学部・学科等で指定する区分に従って、自由に選択して履修し、単位を修得する授業科目です。

（注）学部・学科等により、卒業に必要な授業科目、単位数、履修方法等が異なりますので、「教養教育履修手引」及び「各学部で作成している履修案内」等で確認して、履修してください。

荒 牧 地 区
授 業 案 内
(初 年 次)

目 次（荒牧地区）

初 年 次

(注) : (非) は非常勤講師

〔教養教育科目〕

教養基盤科目

学びのリテラシー(1)

学びのリテラシー(1)	濱田 秀行…9
学びのリテラシー(1)	小谷 英生…9
学びのリテラシー(1)	三原 智子…9
学びのリテラシー(1)	澤田麻衣子…9
	(他)
学びのリテラシー(1)	日置 英彰…9
学びのリテラシー(1)	片柳 雄大…9
学びのリテラシー(1)	中里 南子…9
学びのリテラシー(1)	林 耕史…9
	(他)
学びのリテラシー(1)	西園 大実…10
学びのリテラシー(1)	島 孟留…10
学びのリテラシー(1)	佐藤 浩一…10
学びのリテラシー(1)	中村 保和…10
学びのリテラシー(1)	永野 清仁…10
	(他)
学びのリテラシー(1)	松崎 利行…10
	(他)
学びのリテラシー(1)	山延 健…10
	(他)
学びのリテラシー(1)	荘司 郁夫…11
	(他)
学びのリテラシー(1)	中川 紳好…11
	(他)
学びのリテラシー(1)	関 庸一…11
	(他)

学びのリテラシー(2)

宮沢賢治を読む	河内 昭浩…12
子どもの発達と生活環境	上里 京子…12
日本語の歴史と現在	小林 正行…12
音楽教育を考える	吉田 秀文…12
データ解析の手法と論理	杉山 学…12
日常生活を社会学で読む	森谷 健…12
生命科学研究の前線	鯉淵 典之…12
感染と免疫の話	鈴江 一友…12
微生物を理解する	富田 治芳…13
	(他)
虫の名前を調べてみよう	上宮 英之…13
「知る」ということ	村田 祥子…13
フォトエレクトロニクス入門	後藤 民浩…13
分子の形と対称性	住吉 吉英…13
数学の英語表現・	
コミュニケーション	高江洲俊光…13
ことばを学ぶ・教える	船橋 瑞貴…13
科学入門―要約する技術	
(科学・技術・社会)―	松元 宏行…14
数理技術と社会制度設計	吉良 知文…14
群馬の地域性と生活空間	田中 麻里…14

地域社会と行政法	西村 淑子…14
虫の名前を調べてみよう	上宮 英之…14
ウェブサービス入門	濱元 信州…14
わかりやすい伝え方を学ぶ	大和 啓子…14
学生のための仕事術	
「多文化共生のまちづくり」	結城 恵…14
現代国際政治	野田 岳人…15
みんなの国際協力	森 淑江…15
	辻村 弘美
シェイクスピアを読む	服部 健司…15
神経科学総論	中村 和裕…15
男女共同参画社会における	
「自分らしさ」とは何か	長安めぐみ…15
ブレイクスルー	
ー医学・生命科学に	山下 孝之…15
おける発見のドラマー	畑田 出穂
クラウド入門	横山 重俊…15
研究を立案して議論する	豊村 暁…15
遺伝と遺伝子、その情報管理	小澤 厚志…16
キャリアデザインに	恩幣 宏美…16
ついて考えてみよう	
現代社会と学校教育	新藤 慶…16
数独を数学する	大塚 岳…16
身近な医学Ⅱ	和田 直樹…16
	(他)
研究倫理と社会	大庭 志野…16
結晶と結晶育成	京免 徹…16
音と音楽のサイエンス	高橋 浩…16
物質化学入門	尾崎 広明…17
	山田 圭一
細胞から病気を考える	佐藤 幸市…17
日本語のしくみを考える	小林 英樹…17
データの利活用	高木 理…17
身の回りの化学	日置 英彰…17

英 語

英語101 (教)	金田 仁秀…19 コントラス・ジェフリー 19 ネウパネ・プラミラ…19 フーゲンブーム・レイモンド…19 (非) 小野澤千恵子…19 (非) サンプソン・リチャード…19
英語102 (教)	飯島 睦美…19 コントラス・ジェフリー…19 ネウパネ・プラミラ…19 フーゲンブーム・レイモンド…19 (非) 小野澤千恵子…19 (非) サンプソン・リチャード…19
英語101 (社)	河島 基弘…20 末松美知子…20 (非) ナガタニ・ルズイネテ ・デ・リマ …20
英語102 (社)	河島 基弘…20 (非) 遠藤真知子…20 (非) ナガタニ・ルズイネテ ・デ・リマ …20
英語101 (医)	(非) 清水 真紀…20 (非) クローズ・ディアナ …20
英語102 (医)	(非) 清水 真紀…21 (非) クローズ・ディアナ …21
英語101 (保)	柴田知薫子…22 (非) 岡田 和子…22 (非) クローズ・ ステイシー・マリー …22 (非) ソーバー・ティモシー・ ロドリック …22 (非) ムラモト エリカ マリア …22 (非) ラドキー・ローリー …22
英語102 (保)	飯田 敦史…23 柴田知薫子…23 (非) ウメヤマ キヤサリン 23 (非) クローズ・ ステイシー・マリー …23 (非) ソーバー・ティモシー・ ロドリック …23 (非) ムラモト エリカ マリア …23
英語101 (理)	井門 亮…24 越智 貴子…25 コントラス・ジェフリー…24 ネウパネ・プラミラ…25 ベルジュロン・ シルバン…25 (非) ウメヤマ キヤサリン …24 (非) 遠藤真知子…24 (非) 菊池 玲子…24 (非) キメル・キアナ…24 (非) サンプソン・リチャード…24 (非) ソーバー・ティモシー・ ロドリック …25 (非) 高橋 栄作…24 (非) ナガタニ・ルズイネテ ・デ・リマ …24 (非) 中村 さよ…25 (非) 春山デュアンサモン…24 (非) フェリアー・ ステイブン・ジョン…24 (非) 藤枝 豊…24

英語111 (理)

飯田 敦史…26 コントラス・ジェフリー…26 ネウパネ・プラミラ…26 フーゲンブーム・レイモンド…26 ベルジュロン・ シルバン…26 (非) 岡田 和子…25 (非) 小野澤千恵子…25 (非) 菊池 玲子…25 (非) クローズ・ディアナ …26 (非) ソーバー・ティモシー・ ロドリック …26 (非) ナガタニ・ルズイネテ ・デ・リマ …25 (非) マッカラク・ヘザー…25 (非) ムラモト エリカ マリア …26 (非) ラドキー・ローリー …26
--

英語102 (理)

越智 貴子…28 コントラス・ジェフリー 27 ネウパネ・プラミラ…27 ベルジュロン・ シルバン…27 (新規採用) (非) ウメヤマ キヤサリン …27 (非) 遠藤真知子…27 (非) 菊池 玲子…27 (非) キメル・キアナ…27 (非) サンプソン・リチャード…27 (非) ソーバー・ティモシー・ ロドリック …27 (非) 高橋 栄作…28 (非) ナガタニ・ルズイネテ ・デ・リマ …27 (非) 中村 さよ…28 (非) 春山デュアンサモン…27 (非) フェリアー・ ステイブン・ジョン…27 (非) 藤枝 豊…27 (非) マッカラク・ヘザー…27
--

英語112 (理)

コントラス・ジェフリー…30 フーゲンブーム・レイモンド…29 ベルジュロン・ シルバン…30 (新規採用) (非) ウメヤマ キヤサリン …29 (非) 岡田 和子…29 (非) 小野澤千恵子…28 (非) 菊池 玲子…28 (非) クローズ・ディアナ …30 (非) ソーバー・ティモシー・ ロドリック …29 (非) ナガタニ・ルズイネテ ・デ・リマ …29 (非) 藤枝 豊…29 (非) マッカラク・ヘザー…28 (非) ムラモト エリカ マリア …29
--

スポーツ・健康

健康教育	木山 慶子…31 (他)
	中雄 勇人…31 (他)
	新井 淑弘…32 (他)
スポーツ科学(実習)	中雄 勇人…33
	木山 慶子…33
	新井 淑弘…33
	田井健太郎…33
	鬼澤 陽子…33
	島 孟留…33
	(非) 狩野 豊…33
	(非) 櫻岡 広…33
	(非) 一階 千絵…33
	(非) 樹森 大介…33
	(非) 高橋美穂子…33
	(非) 柵木 聖也…33
	(非) 倉林愛一郎…33
	(非) 近藤 照彦…33
	(非) 永井 真紀…33
スポーツ科学(講義)	
健康教育	島 孟留…34
スポーツ栄養学(非)	後藤 香織…34
スポーツ科学(シーズンスポーツ)	
テニスⅠ	中雄 勇人…35
テニスⅡ	(非) 倉林愛一郎
キャンプ	中雄 勇人…35
	島 孟留
	田井健太郎
	(非) 藤井 和彦
ゴルフ	木山 慶子…35
	(非) 櫻岡 広
スケート	中雄 勇人…35
	(非) 黒岩 敏幸

データ・サイエンス

データ・サイエンス	寺嶋 容明…36
	松井 猛…36
	鳥飼 幸太…36
	荒木 徹也…36
	山延 健…36
	莊司 郁夫…36
	河原 豊…36
	横山 重俊…36
	濱元 信州…36
	井上 仁…36
	高橋 啓…36
	井手野由季…36
	上宮 英之…36
	豊村 暁…36
	(非) 松井 洋子…36
	(非) 菅原 一晴…36
	(非) 佐渡 一広…36
	(非) 白石 洋一…36
	(非) 中村 賢治…36
	(非) 井田 憲一…36
	(非) 関口 達也…36
	(非) 張 鳴…36

就業力

キャリア計画	松元 宏行…37
学びを構築する	高山 利弘…37 (他)
キャリア設計	松元 宏行…37

教養育成科目

人文科学科目群

教養の心理学	村田 祥子…38
哲学	服部 健司…39
日本の倫理思想	山内 春光…39
現代ドイツ哲学Ⅰ	
ハイデガー講読	服部 健司…38
現代ドイツ哲学Ⅱ	
ニーチェ講読	服部 健司…39
現代フランス哲学	
レヴィナス講読	服部 健司…38
歴史学	今井 就稔…38
考古学	(非) 桜岡 正信…39
近代日本の戦争と	
戦没者の歴史	(非) 今井 昭彦…40
地誌学	関戸 明子…40
心理学的コミュニケーション論	柿本 敏克…40
平安時代の文学	藤本 宗利…40
比較芸術論	菅生 千穂…40
	林 耕史
Classic音楽を聴く	西田 直嗣…39
ドイツ歌曲概説	山崎 法子…38
外国語としての	
日本語を考える	牧原 功…38
外国語としての	
日本語を教える	舩橋 瑞貴…38
言語としての	
日本手話Ⅰ	(非) 中野 聡子…38 (他)
言語としての	
日本手話実践Ⅰ	(非) 中野 聡子…39 (他)
言語としての	
日本手話Ⅱ	(非) 中野 聡子…40 (他)
言語としての	
日本手話実践Ⅱ	(非) 中野 聡子…40 (他)

社会科学科目群

政治学入門	北村 純…41
国際政治学	野田 岳人…41
日本国憲法	齋藤 周…41
日本国憲法	(非) 岡田 大助…43
日本国憲法	高橋 望…43
日本国憲法	藤井 正希…41
日本国憲法	藤井 正希…45
家族生活と法	前田 泰…41
現代社会と法	(非) 竹嶋 千穂…41
情報法Ⅰ	松宮 広和…42
生活経済政策	坂本 和靖…43

地理学	(非) 堤 純…41
災害・環境と地理学	青山 雅史…43
社会学入門	伊藤 賢一…42
教養の教育学	村田 祥子…42
教養の教育学	村田 祥子…43
社会学：	
アンケート入門	牧野 孝俊…43
文化人類学	(非) 志村 真幸…43
社会学との出会い	豊泉 周治…43

自然科学科目群

論理と計算	岩井 淳…44
フーリエ解析入門	渡辺 秀司…45
方程式の話	照屋 保…45
幾何学の歴史	山本 亮介…45
線形代数学入門	(非) 都丸 正…44
微分積分学入門	(非) 福島 博…44
化学現象を司る原理	山田 圭一…45
生体分子化学	尾崎 広明…44
微生物学入門	松本 竹久…44
植物細胞学	佐野 史…45
動物の分類と進化	上宮 英之…45
高次脳機能と生理計測	豊村 暁…45
生命と地球の共進化	(非) 野村 正弘…44
生態系と環境	西村 尚之…44
材料の化学	京免 徹…44
雲と降水を伴う大気	岩崎 博之…44

健康科学科目群

かしこく健康に生きる	田村 遵一…46 (他)
身近な医学Ⅰ	齋藤 繁…46
知っておきたい肺と	
アレルギーの話	久田 剛志…46
チーム医療	松井 弘樹…46 (他)
脳の科学	宮田 茂雄…46 (他)
こころとからだの健康	近藤 浩子…47 柳 奈津子
神経心理学の歩み	村田 祥子…47
これから始める健康管理	池田 佳生…47
がん予防・治療・ケア	二渡 玉江…47 (他)
推理する医学	林 邦彦…47
心と脳の健康管理	山崎 恆夫…47 菊地 千一郎
多文化共生と心のケア	任 龍在…47
医学と社会	田村 遵一…48 (他)

外国語教養科目群

ドイツ語基礎Ⅰ	(非) 小林 大志…49
ドイツ語基礎Ⅱ	(非) 小林 大志…49
ドイツ語基礎実践Ⅰ	田中 一嘉…49
ドイツ語基礎実践Ⅱ	田中 一嘉…49
ドイツ語基礎Ⅰ	田中 一嘉…50
ドイツ語基礎Ⅱ	田中 一嘉…50
ドイツ語基礎実践Ⅰ	(非) 小林 大志…50
ドイツ語基礎実践Ⅱ	(非) 小林 大志…50
ドイツ語基礎Ⅰ	(非) 荒木 詳二…50
ドイツ語基礎Ⅱ	(非) 荒木 詳二…50
ドイツ語基礎実践Ⅰ	(非) 荒木 詳二…50
ドイツ語基礎実践Ⅱ	(非) 荒木 詳二…50
ドイツ語基礎Ⅰ	(非) 糸瀬 龍…51
ドイツ語基礎Ⅱ	(非) 糸瀬 龍…51
ドイツ語基礎実践Ⅰ	(非) 荒木 詳二…51
ドイツ語基礎実践Ⅱ	(非) 荒木 詳二…51
ドイツ語基礎Ⅰ	(非) 二瓶 尚…51
ドイツ語基礎Ⅱ	(非) 二瓶 尚…51
ドイツ語基礎Ⅰ	田中 一嘉…51
ドイツ語基礎Ⅱ	田中 一嘉…51
ドイツ語基礎Ⅰ	(非) 荒木 詳二…52
ドイツ語基礎Ⅱ	(非) 荒木 詳二…52
ドイツ語基礎実践Ⅰ	(非) 二瓶 尚…52
ドイツ語基礎実践Ⅱ	(非) 二瓶 尚…52
ドイツ語基礎Ⅰ	(非) 糸瀬 龍…52
ドイツ語基礎Ⅱ	(非) 糸瀬 龍…52
ドイツ語基礎実践Ⅰ	(非) 二瓶 尚…53
ドイツ語基礎実践Ⅱ	(非) 二瓶 尚…53
フランス語基礎Ⅰ	(非) 北村 真澄…53
フランス語基礎Ⅱ	(非) 北村 真澄…53
フランス語基礎実践Ⅰ	三原 智子…53
フランス語基礎実践Ⅱ	三原 智子…53
フランス語基礎Ⅰ	三原 智子…53
フランス語基礎Ⅱ	三原 智子…53
フランス語基礎実践Ⅰ	(非) 北村 真澄…53
フランス語基礎実践Ⅱ	(非) 北村 真澄…53
フランス語基礎Ⅰ	(非) 佐藤 公彦…53
フランス語基礎Ⅱ	(非) 佐藤 公彦…53
フランス語基礎実践Ⅰ	三原 智子…53
フランス語基礎実践Ⅱ	三原 智子…53
フランス語基礎Ⅰ	三原 智子…53
フランス語基礎Ⅱ	三原 智子…53
フランス語基礎実践Ⅰ	(非) 佐藤 公彦…54
フランス語基礎実践Ⅱ	(非) 佐藤 公彦…54
フランス語基礎Ⅰ	(非) 辻村 永樹…54
フランス語基礎Ⅱ	(非) 辻村 永樹…54
フランス語基礎Ⅰ	(非) 北村 真澄…54
フランス語基礎Ⅱ	(非) 北村 真澄…54
フランス語基礎実践Ⅰ	(非) 佐藤 公彦…54
フランス語基礎実践Ⅱ	(非) 佐藤 公彦…54
中国語基礎Ⅰ	(非) 小澤 光恵…54
中国語基礎Ⅱ	(非) 小澤 光恵…54
中国語基礎Ⅰ	(非) 小澤 光恵…54
中国語基礎Ⅱ	(非) 小澤 光恵…54
中国語基礎Ⅰ	(非) 小澤 光恵…55
中国語基礎Ⅱ	(非) 小澤 光恵…55
中国語基礎実践Ⅰ	(非) 小澤 光恵…55
中国語基礎実践Ⅱ	(非) 小澤 光恵…55

中国語基礎実践Ⅰ	(非)	小澤 光恵…55
中国語基礎実践Ⅱ	(非)	小澤 光恵…55
中国語基礎Ⅰ	(非)	桑原奈智子…55
中国語基礎Ⅱ	(非)	桑原奈智子…55
中国語基礎実践Ⅰ	(非)	劉 森…55
中国語基礎実践Ⅱ	(非)	劉 森…55
中国語基礎実践Ⅰ	(非)	劉 森…56
中国語基礎実践Ⅱ	(非)	劉 森…56
スペイン語基礎Ⅰ	(非)	大高由美子…56
スペイン語基礎Ⅱ	(非)	大高由美子…56
スペイン語基礎Ⅰ	(非)	新津 厚子…56
スペイン語基礎Ⅱ	(非)	新津 厚子…56
スペイン語基礎実践Ⅰ	(非)	新津 厚子…56
スペイン語基礎実践Ⅱ	(非)	新津 厚子…56
スペイン語基礎実践Ⅰ	(非)	大高由美子…57
スペイン語基礎実践Ⅱ	(非)	大高由美子…57
イタリア語基礎Ⅰ	(非)	中村 勝己…57
イタリア語基礎Ⅱ	(非)	中村 勝己…57
イタリア語基礎実践Ⅰ	(非)	安田 晴美…57
イタリア語基礎実践Ⅱ	(非)	安田 晴美…57
ポルトガル語基礎Ⅰ	(非)	伊勢島セリア明美…57
ポルトガル語基礎Ⅱ	(非)	伊勢島セリア明美…57
ポルトガル語基礎実践Ⅰ	(非)	伊勢島セリア明美…57
ポルトガル語基礎実践Ⅱ	(非)	伊勢島セリア明美…57
韓国語基礎実践Ⅰ	(非)	辛 大基…58
韓国語基礎実践Ⅱ	(非)	辛 大基…58
韓国語基礎Ⅰ	(非)	杉山 明枝…58
韓国語基礎Ⅱ	(非)	杉山 明枝…58
選択英語A①	(非)	長 和重…58
選択英語A②	(非)	長 和重…58
選択英語A③		マツカタク・ヘザー…58
選択英語A④		越智 貴子…58
選択英語B①		フーゲンブーム・レイモンド…59
		越智 貴子
選択英語B②		ベルジュロン・
		シルバン…59
選択英語B③		コントラス・
		ジェフリー…59
		越智 貴子
選択英語C①	(非)	長 和重…59
選択ドイツ語A		田中 一嘉…59
選択ドイツ語B		田中 一嘉…59
選択ドイツ語C		田中 一嘉…59
選択ドイツ語D		田中 一嘉…59
A S L Ⅰ	(非)	山本 綾乃…59
A S L Ⅱ	(非)	山本 綾乃…59

総合科目群

海外短期研修③ (リュブリャナ大学 春期講習会)	越智 貴子…61
海外短期研修⑤ (国立台北教育大学 短期プログラム)	越智 貴子…61
海外短期研修⑥ (泰日工業大学 スプリングプログラム)	越智 貴子…61
海外短期研修⑨ (ベトナム国際 インターンシップ)	越智 貴子…65
海外短期研修⑩ (ヤギェウオ大学 スプリングプログラム)	越智 貴子…62
地域社会実践論	吉田 浩之…60 (他)
ぐんま未来学	和田 直樹…60 (他)
ぐんま未来学2 まちづくりと	小竹 裕人…64
グローバル・コミュニケーション	結城 恵…62
グローバル地域創生と企業	結城 恵…65
グローバル・インター シップ・プログラムⅠ	結城 恵…65
グローバル・インター シップ・プログラムⅡ	結城 恵…65
LaTeXによる 文書処理入門	濱元 信州…63
コンピュータネットワークと セキュリティ	横山 重俊…61
インターネット入門 (非)	目黒 雅昭…62
パズルで学ぶ 計算論的思考法	山崎 浩一…64
サービスビジネス入門	大野 富彦…60
入門知的財産講座	佐藤 和浩…61
手話とろう文化	金澤 貴之…61
	(非) 下島 恭子
手話と情報 アクセシビリティ	二神 麗子…63 (他)
科学技術—歴史と発達—	松元 宏行…63
若者と社会	二宮 祐…61
昆虫の科学	上宮 英之…61
鍵盤音楽の歴史	三國 正樹…62
視覚の世界	村田 祥子…62
ジェンダー論	齋藤 周…62 (他)
環境法Ⅱ	西村 淑子…64
原発事故と放射能汚染	早川由紀夫…63
切断と結合の世界	楠元 一臣…64
数概念について	伊藤 隆…64
現代社会を知る	松元 宏行…61
現代社会状況論B	野田 岳人…63
生命保険の仕組みと 利活用を考える	杉山 学…60
異文化理解と コミュニケーション	陳 雲蓮…63

海外フィールドワークの
方法と実践 陳 雲蓮…64
Python入門 井上 仁…64
スポーツ科学 中雄 勇人…65

基盤教育科目

【共同教育学部】

ジェンダー論

ジェンダー論 齋藤 周…66
(他)

防災・安全教育

防災・安全教育 青山 雅史…66
(他)

人文科学科目群

言語と教育 河内 昭浩…66
(他)

社会科学科目群

エスニック・マイノリティの
子どもと教育 新藤 慶…66

〔日本語・日本事情〕

(留学生対象)

日 本 語

日本語口頭表現Ⅱ (非) 渡邊 知釈…67
日本語口頭表現Ⅰ (非) 吉田 好美…67
日本語総合 船橋 瑞貴…67
日本語総合 牧原 功…67
日本語読解Ⅱ 野田 岳人…67
日本語文章作成Ⅱ 野田 岳人…67
日本語読解Ⅰ 野田 岳人…68
日本語文章作成Ⅰ 野田 岳人…68
日本語作文Ⅱ (非) 高橋 裕輔…68
日本語作文Ⅰ (非) 高橋 裕輔…68
日本語聴解 大和 啓子…68
ビジネス日本語Ⅰ 結城 恵…68
(他)
ビジネス日本語Ⅱ 結城 恵…68
(他)

日本事情

Jプログラム
日本入門特別講義 野田 岳人…69
(他)
日本事情B 野田 岳人…69
日本事情C：
まちづくりとグローバル・
コミュニケーション 結城 恵…69
(他)
日本事情D：
グローバル地域創生と企業 結城 恵…69
(他)

日本事情A 陳 雲蓮…69
日本事情E：
グローバル・インターン
シップ・プログラムⅠ 結城 恵…70
(他)

日本事情F：
グローバル・インターン
シップ・プログラムⅡ 結城 恵…70
(他)

入門日本語・伝統文化実践

入門日本語(総合Ⅰ) 牧原 功…71
(他)
入門日本語(総合Ⅱ) 牧原 功…71
(他)
入門日本語漢字A (非) 落合美佐子…71
入門日本語漢字B (非) 瀬間 亮子…71
入門日本語作文 (非) 渡邊 知釈…71
入門日本語会話 (非) 渡邊 知釈…71
日本美術演習Ⅰ (非) 原 誠二…71
日本美術演習Ⅱ (非) 原 誠二…71
日本美術演習Ⅲ (非) 原 誠二…72
日本美術演習Ⅳ (非) 原 誠二…72
邦楽器演習Ⅰ (非) 中畝 詩歩…72
邦楽器演習Ⅱ (非) 中畝 詩歩…72
邦楽器演習Ⅲ (非) 中畝 詩歩…72
邦楽器演習Ⅳ (非) 中畝 詩歩…72

〔専門教育科目〕

専門基礎

【医学科】

物理学演習

物理学演習 未 定…73
高橋 浩…73

化学演習

化学演習 米山 賢…73
山田 圭一…73

物 理 学

物理学 倉知 正…73
(他)

化 学

化 学 南嶋 洋司…73
(他)

生 物 学

生物学 鯉淵 典之…73
(他)

専門科目

【保健学科】

物理学

物理学 豊村 暁…74

生物学Ⅰ

生物学Ⅰ 上宮 英之…74

基礎的な専門教育科目

【理工学部】

概論系科目

物理学概論 後藤 民浩…75
高橋 浩…75
山本 隆夫…75
(非)五十嵐睦夫…75
(非)土橋 敏明…75
(非)松岡 昭男…75
高橋 学…76
(非)平井 光博…76
櫻井 浩…76
化学概論 白石 壮志…76
久新莊一郎…76
飛田 成史…76
京免 徹…76
住吉 吉英…76
尾崎 広明…76
(非)平井 里香…76
(非)平 靖之…76

数物系科目

微分積分学Ⅰ 照屋 保…77
大塚 岳…77
高江洲俊光…77
渡辺 秀司…77
(非)山田 正人…77
(非)黒田 覚…77
微分積分学Ⅱ 田沼 一実…77
渡辺 秀司…77
高江洲俊光…77
石井 基裕…77
(非)伊藤 公智…77
(非)福島 博…77
(非)山田 正人…77
線形代数学Ⅰ 高江洲俊光…77
渡辺 秀司…77
(非)植松 盛夫…77
(非)黒田 覚…77
(非)伊藤 公智…77
(非)渡辺 雅之…77
(非)福島 博…77
線形代数学Ⅱ 高江洲俊光…77
大塚 岳…77
(非)植松 盛夫…77
(非)渡辺 雅之…77
(非)都丸 正…77

力学

後藤 民浩…78
座間 淑夫…78
モハメド・アブドス・
サマド・カマル …78
矢野 絢子…78
河井 貴彦…78
(非)青木 利澄…78
(非)松岡 昭男…78
(非)土橋 敏明…78
長尾 辰哉…78
高橋 佳孝…78

実験系科目

基礎物理実験

高橋 浩…79
(非)平井 光博…79
後藤 民浩…79
(非)伊藤 正久…79
(非)星 和志…79
(非)小野里好邦…79
(非)青木 利澄…79
(非)松岡 昭男…79
(非)箱田 優…79

基礎化学実験

工藤 貴子…79
山田 圭一…79
尾崎 広明…79
京免 徹…79
住吉 吉英…79
(非)相澤 省一…79
(非)星 和志…79
(非)進藤 修光…79
(非)箱田 優…79

物理学入門

物理学入門 (非)猪熊 仁…80

数学入門

数学入門 渡辺 秀司…80

[専門教育科目]

専門科目

基礎生物学	粕谷 健一 …81 (他)
化学・生物化学原論Ⅰ	山延 健 …81 (他)
化学・生物化学原論Ⅱ	化学・生物 化学科教員 …81
化学・生物化学基礎Ⅰ	京免 徹 …81 花屋 実 …81
化学・生物化学基礎Ⅱ	住吉 吉英 …81 奥津 哲夫 …81 上原 宏樹 …81
化学・生物化学基礎Ⅲ	網井 秀樹 …81 山田 圭一 …81 武田 亘弘 …81
化学・生物化学基礎Ⅳ	松尾 一郎 …81 園山 正史 …81 尾崎 広明 …81
基礎微分方程式 (非)	山田 正人 …81
機械知能システム概論	荘司 郁夫 …81 (他)
工業力学	荘司 郁夫 …82
環境創生理工学概論	中川 紳好 …82 (他)
環境創生のための 基礎化学工学	板橋 英之 …82 (他)
環境創生のための 基礎力学	若井 明彦 …82 (他)
電子情報理工学入門	電子情報 理工学科教員 …82
基礎電子情報理工学Ⅰ	花泉 修 …82 (他)
基礎電子情報理工学Ⅱ	荒木 徹也 …82 (他)
国際コミュニケーション 実習Ⅰ	海野 雅史 …82 (他)

[教養教育科目]

科目区分：教養基盤科目／授業科目：学びのリテラシー（1）

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
学びのリテラシー（1）	学びのリテラシー（1）	前	金 5－6	濱田 秀行	2	必	教(国語)	大学で学ぶ上で必要なリテラシーを高めることを目標とする。受講生は、自身が設定したテーマにかかわって情報を収集し、それをもとに説得的な意見をまとめる方法について学ぶ。
	学びのリテラシー（1）	前	金 5－6	小谷 英生	2	必	教(社会)	本授業では思考力と、それを他人に伝えるための表現力を養うことを目標とする。思考力の面では「問題発見能力（適切な問いを立てる力）」を表現力の面では「論理的に書き、話す力」および「他人の議論をきちんと聞き、適切に応答する力」をとくに重視する。 題材は新聞やネット記事、短編の文学や論評など身近なものを用いる。授業の中でレポート形式、プレゼンテーション、ディベートなどを行う。積極的・能動的に授業に参加してもらうこととなりますが、参加しやすい雰囲気をつくっていかうと考えているので、よろしくお願いします。
	学びのリテラシー（1）	前	月 9－10	三原 智子	2	必	教(英語)	「学びの基礎」として、論理的思考能力とコミュニケーション能力の育成を目指す。具体的には、「情報を集めるための読む能力」「伝えるための書く能力」「発表するための話す能力」の3つを向上させるための講義と演習を行う。
	学びのリテラシー（1）	前	金 7－8	澤田麻衣子 照屋 保 小泉 健輔	2	必	教(数学)	大学で学ぶ上で必要な「読む能力」「書く能力」「話す能力」を養うことを目標とし、講義と演習を行う。受講生は、提示された課題や問題に関する内容から適切に情報を読み取ったり、論理的な表現方法を用いて表現（書く、話す）したり、さらに、他者の表現に対し適切に応答したりすることを通して、これらの力を養っていく。
	学びのリテラシー（1）	前	火 3－4	日置 英彰	2	必	教(理科)	学生が自ら選んだテーマに関する情報を集め、吟味し、他者と議論することにより様々なものの見方に出会い、さらに得た情報を体系化して自分の考えを確立するという過程を経験する。そのために、日本語を読み・書き・話し・聞くことを中心に、講義と演習を行う。
	学びのリテラシー（1）	前	金 7－8	片柳 雄大	2	必	教(技術)	提示された課題や学生が自ら選んだテーマに関して、各自で情報を集め、吟味し、発表したり、他者と議論することにより、ものの見方や考え方を深め、得られた情報を体系化して自分の考えを確立する過程を経験する。そのために、日本語を読み、書き、話し、聞くことを中心に、講義と演習を行う。
	学びのリテラシー（1）	前	木 3－4	中里 南子	2	必	教(音楽)	各自で興味を持っている内容で、主体的にテーマを設定し、そのテーマに関する疑問や課題を文献等で情報収集、追究し、内容を深化させる。そして、そこで深化させた内容をまとめ、レポートを作成する。また、随時発表を経験することで、互いに質疑応答を行い、研究をより深めていく。
	学びのリテラシー（1）	前	木 3－4	林 耕史 茂木 一司 齋江 貴志 喜多村徹雄 市川 寛也	2	必	教(美術)	提示された課題や、学生が自ら選んだテーマに関し、各自で情報を集め、吟味し他者と議論することにより様々なものの見方に出会い、得た情報を体系化して自分の考えを確立する過程を経験する。そのために、日本語を読み・書き・話し・聞くことを中心に、講義と演習を行う。

[教養教育科目]

科目区分：教養基盤科目／授業科目：学びのリテラシー（1）

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 クラス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
学びのリテラシー（1）	学びのリテラシー(1)	前	月 9－10	西 園 大 実	2	必	教(家政)	提示された課題や学生が自ら選んだテーマについて、各自で情報を集め、吟味し、他者と議論することにより様々なものの見方に出会い、さらに得た情報を体系化して自分の考えを構築する過程を体験する。そのために、日本語を読み、書き、話し、聞くことを中心に、講義と演習を行う。
	学びのリテラシー(1)	前	金 5－6	鳥 孟 留	2	必	教(保健体育)	学習スタイルに関して、高校時代までの「受け身の勉強」から、大学での「自主的な学び」に転換を図る必要がある。本授業では、学習スキル（ノートの取り方、レポートの書き方、図書館の利用法など）の習得や望ましい学習態度、健全な学生生活リズムの構築などについて幅広く学習する。また、日本語の読み書きなどの基礎的な技能に加え、プレゼンテーションやグループワークなどを通じて、自らの意見を表現する方法や、他者の意見を柔軟に取り入れるなど、人との関わりを通じてコミュニケーション能力も身に付ける。
	学びのリテラシー(1)	前	金 1－2	佐 藤 浩 一	2	必	教 (教育・教育心理)	大学学部における文献講読、卒業論文執筆などの準備として必要なリテラシー全般を養成することを授業目標とする。学習スキル、日本語リテラシー全般、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方等を扱う。
	学びのリテラシー(1)	前	金 1－2	中 村 保 和	2	必	教 (特別支援)	学生が障害児教育に関する情報を集め、吟味し、他者とディスカッションすることにより、多様なものの見方・捉え方に出会い、さらに収集した情報を体系化して、自身の思考を構築し洗練させていく過程を経験する。そのために、障害児教育に関する図書、新聞記事、論文等を読み、それらについて内容や自身の意見を書き・語り・傾聴することを中心にした講義・演習を行う。
	学びのリテラシー（1）	前	水 5－6	永野 清仁 高山 利弘 山内 春光	2	必	社(AI1) 社(ΔL2) 社(AL3)	人文科学および社会科学にかかわる教材を用いて、読むこと、考えること、表現することを学ぶ。レポート作成や口頭発表を通して、自己の意見を的確に表現できる能力を身につけることをめざす。
	学びのリテラシー（1）	前	水 9－10	松崎 利行 服部 健司 鯉淵 典之 鈴木 啓 岸 美紀子 青木 敏男 山下 実 矢島 正	2	必	医	医師として必要不可欠な、「文章を読んで内容を理解し、適切に要約できる」能力、および「(会話や文脈から)患者の心情を理解し、共感を表現できる」能力、および「文章の内容や自分の意見を、的確に相手に伝えることができる」能力を育成するため、少人数グループで評論や小説の吟味と、要約や感想などの文章作成のトレーニングを行う。
	学びのリテラシー（1）	前	水 1－2	山延 健 中村 洋介 花屋 実 園山 正史 若松 馨 白石 壮志 浅野 素子	2	必	理工CB	大学での勉学に必要な様々な基礎知識と基礎技術を学ぶ。特に、「論理的思考能力」および「コミュニケーション能力」の涵養を目的とする。全学科共通の内容として、日本語を中心とした表現方法の基礎（文章の種類、構成、要約の方法、推敲の方法など）、科学情報の取得方法とその取り扱い、科学技術倫理などを学ぶ他、各科ごとに、それぞれ、講義、実験、実習に必要な基礎的事項を学ぶ。演習を交えた講義を中心とする授業形態とする。

[教養教育科目]

科目区分：教養基盤科目／授業科目：学びのリテラシー（1）

授業科目	授 業 題 目	学期	曜日・時限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
学びのリテラシー（1）	学びのリテラシー（1）	前	月1－2	莊司 郁夫 座間 淑夫 モハメド アブドス サマド カマル (Md Abdus Samad Kamal) 矢野 絢子	2	必	理工MS	大学4年間の学修に必要な様々な基礎知識と基礎技術を学ぶ。特に、「論理的思考能力」および「コミュニケーション能力」を学ぶことを目的とする。日本語を中心とした表現方法の基礎、科学情報の取得方法と取扱い、科学技術倫理を学ぶほか、講義、演習、実験、実習に必要な基礎的事項を学ぶ。演習を交えた講義を中心とする授業形態とする。
	学びのリテラシー（1）	前	月1－2	中川 紳好 桂 進司 鵜崎 賢一 伊藤 司 樋山みやび	2	必	理工ES	(1) イントロダクション、(2) ノートの取り方、(3) 整った日本語を書く・話す：文章作法1、(4) 文章作法2、(5) 文章を批判的に吟味する、(6) レポートとは？その書き方、(7) 科学・技術の基本ルール、(8) 文章作法3、(9) 文章作法4、(10) 11頭発表の仕方、について学ぶ。
	学びのリテラシー（1）	前	水1－2	関 庸一 栗田 伸幸 加田 渉	2	必	理工EI	本講義は、大学での勉学に必要な基礎知識と基礎技術を学ぶ。特に、「論理的思考能力」、「レポート能力」の滋養を目的とする。日本語を中心とした表現方法の基礎として、文章の種類、構成、要約、推敲の方法に加え、敬語の使い方や電子メールの書き方等を習得する。さらに、見やすいレポートの書き方、データのまとめ方等、講義、実験、実習に必要な基礎的事項も学ぶ。演習を交えた講義を中心とする授業形態とする。

[教養教育科目]

科目区分：教養基盤科目／授業科目：学びのリテラシー（2）

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 クラス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
学びのリテラシー（2）	宮沢賢治を読む	後	火1－2	河内 昭浩	2	㊤		少人数で宮沢賢治の作品を読みあい、議論をしながら作品理解を深めていく。その中で文章読解力や論理的に意見を記述する力を養っていく。「銀河鉄道の夜」をはじめとしたいいくつかの作品の熟読を経て、議論や調査の内容の発表を行う。
	子どもの発達と生活環境	後	火7－8	上里 京子	2	㊤		目標：乳幼児から児童期における心身の発達と、家族や生活環境との関係について理解を深める。 内容：子どもの発達が、文化・社会的コンテキストの中でどのように規定されているのか、そのメカニズムに関する諸説の整理を行い、あわせて現代の子どもたちの育ちの状況について、幾つかのトピックを取り上げて検討する。 教育学部家政専攻生は、履修できません。（受入数：30名）
	日本語の歴史と現在	後	水3－4	小林 正行	2	㊤		目標：普段使っている日本語の歴史の変遷について知る。 内容：音声、音韻、文字、語彙の諸分野について、現代と比較しつつ学習し、受講者相互に説明し合う活動を通じ、「説明する」スキルを高める。
	音楽教育を考える	後	火1－2	吉田 秀文	2	㊤		音楽教育の現状と課題を基調に、その本質を解き明かしながら実態に迫り、問題解決に向けての手掛かりや解決方法について考えます。授業では、様々な文献の講読、議論などを通して幅広い知見の獲得を目指します。学期末には、音楽教育を考察するために必要な様々な知識や情報等を踏まえ、各自レポートを作成し、発表・提出します。
	データ解析の手法と論理	後	火7－8	杉山 学	2	㊤		現実の問題に対して、適正な意思決定を下すためにも、その根拠を他人に理解してもらうためにも、科学的な問題解決の考え方や方法によるアプローチは必要であり、重要である。本講義では、身近な問題を通じてデータ解析の基礎手法をアクティブ・ラーニング形式で身に付けてもらう予定である。なお、金融のプロをゲスト講師として迎え、身近な問題として「金融リテラシー」を一部解説してもらう予定である。
	日常生活を社会学で読む	後	金3－4	森谷 健	2	㊤		日常生活に関わる話題を社会学で考える。入門的なテキストから、「親密な関係」「家族」「アイデンティティ」「学校」などについて読む。読んで考えたことを、自分の言葉でまとめること、まとめた内容を他の人に伝えること、他の人の発表を聞き、自分の意見をまとめることなど、大学での学修の基本を身につける。
	生命科学研究の前線	後	火1－2	鯉淵 典之	2	㊤		授業はアクティブラーニング形式でおこなう。まず、生命科学研究をそれぞれの研究者がわかりやすい言葉で解説する。そして、解説した内容につき課題を設定し、グループごとに発表する。評価は発表内容・態度および発表者への質問内容などを総合的に判断しておこなう。授業は、文系の学生にも配慮して実施する。
	感染と免疫の話	後	火7－8	鈴江 一友	2	㊤		皆さんは食事の前に手を洗いますか？毎日風呂に入りますか？常日頃から清潔にしている私たちですが、実は私たちの身体にはヒト細胞数を遥かに没駕する100兆個以上の微生物が定着しています。そして、その微生物に対して免疫系が絶え間なく働いています。難しそうで実はとても身近な感染と免疫というテーマについて、皆さんと考えていきましょう。文系出身者や生物未履修者も歓迎します。私からの講義と並行して、学部横断的なグループをつくり、そのグループが決めたテーマで発表を行います。

[教養教育科目]

科目区分：教養基盤科目／授業科目：学びのリテラシー（2）

初
年
次
牧

学
2

授業科目	授 業 題 目	学期	曜日・時間	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
学びのリテラシー（2）	微生物を理解する	後	火7-8	富田 治芳 (他)	2	㊤		微生物には細菌、真菌、ウイルス、寄生虫など多様な生物種が含まれる。地球は「微生物の惑星」と言えるほど多くの微生物が私達の体を含め、あらゆる環境中に存在している。この地球環境を形成する重要な生命体を、最もシンプルなモデル生物として理解する。また微生物とヒトや環境との関わりについて学ぶ。毎回の課題、レポート、小テスト、出席、授業態度を総合し、成績を判定する。 参考図書：ブラック微生物学（丸善出版）
	虫の名前を調べてみよう	後	火7-8	上宮 英之	2	㊤		昆虫学の基本は「昆虫採集」です。この講義では、簡単な昆虫採集をして、採集した虫の名前を図鑑などで調べる講義・実習です。昆虫採集の方法と、昆虫の名前を調べる方法は、講義で詳しく説明します。教科書として受講者全員に昆虫図鑑を入手してもらう予定ですが、講義で説明する前に購入しないでください。
	「知る」ということ	後	火7-8	村田 祥子	2	㊤		私たちは、「知る」という言葉を、理解すること、認識すること、憶えること、見分けること、経験すること、修得することなどの意味で用いる。「知る」とは、どのような過程によって支えられているのか。また、「知る」内容とは何か。先行研究で使われた課題や「知る」ことに関する文献とむきあい「知る」ということについて考える。
	フォトエレクトロニクス入門	後	火7-8	後藤 民浩	2	㊤		インターネットや携帯電話の急速な発展は人間の生活様式を大きく変えている。技術的な背景として、光や電子を高速で自由自在に操れるようになってきたことが挙げられる。そこで、光電子工学“フォトエレクトロニクス”の基礎的な学習を通じて、社会全体における科学技術の役割を考える。具体的には太陽電池や光メモリー、さらにホログラフィー（立体像の記録・再生技術）を取り上げ、①資料収集、②動作原理の理解、③実験・映像学習をおこなう。各テーマについて理解を深めた後、レポートをまとめる。科学的な思考と幅広い情報収集の重要性を学ぶ。
	分子の形と対称性	後	火7-8	住吉 吉英	2	㊤		分子の示す多様な光学的特性は、その形と密接に関連している。分子を形に基づいて分類する事により、光と分子が相互作用する現象の中に規則性を見出すことができる。本講義では点群を例に群の基本的な概念について説明し、点群による分子の分類の仕方を学ぶ。更に、物質の色や旋光性など身近な自然現象について、分子の形という観点から考察する。
	数学の英語表現・コミュニケーション	後	火7-8	高江洲俊光	2	㊤		数学の英語表現について学んでいく。受講者は準備した課題に関して、英語発表を行っていく。質問・返答の形式も取り入れていくが、その際も英語のみを使用する。数学的内容としては、数式の表現から微分積分までである。英語全般に興味があり、意欲的に取り組める人を歓迎したい。
	ことばを学ぶ・教える	後	火7-8	船橋 瑞貴	2	㊤		受講者の国語学習や他言語学習の経験と関連付けしながら、ことばの学習・教育に関するトピックを紹介し、その背景や影響について意見を交換する。また、実際のコミュニケーションにおけることば（日本語）の振る舞いを検討することにより、コミュニケーションを達成するためのことばの学習・教育について考える。

[教養教育科目]

科目区分：教養基盤科目／授業科目：学びのリテラシー（2）

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
学びのリテラシー（2）	科学入門 ー要約する技術 (科学・技術・社会)ー	後	火7－8	松元 宏行	2	㊤		本講義では増大する科学技術の情報をどのように取捨選択、処理し、それをいかに要約していくかについての基礎を学ぶ。講義では、科学映像を見てその内容を要約することを行うが、その過程で科学技術的知識の習得を合わせて行う。毎回テーマをかえることで学生諸君の興味を引くよう工夫している。なお、授業の性格上、出席が重要である。
	数理技術と 社会制度設計	後	火7－8	吉良 知文	2	㊤		近年、社会的課題を解決するための制度や施策の設計において、数理技術の活用が期待されている。本講義では、事例を紹介しながら、数理技術が果たす役割だけでなく、社会実装のための一連の研究プロセスを学ぶ。これらを学びながら、受講生一人一人に大学で学ぶ知識をどう社会に生かしていくかを考えてもらうことが目的である。
	群馬の地域性と 生活空間	後	水3－4	田中 麻里	2	㊤		住まいをはじめとする生活空間は、地域の環境や文化と深く関わっている。授業を通して、さまざまな視点から群馬の地域性と生活空間について学ぶ。そして、理解したことを子どもたちに伝える創作絵本または郷土トランプづくりを行う。
	地域社会と行政法	後	水3－4	西村 淑子	2	㊤		本授業では、行政法の観点から地域社会が抱える問題（災害・環境汚染、貧困・格差、人権侵害など）を取り上げます。受講生は、社会問題の調査方法、レポートの書き方、発表やディスカッションの方法を学びます。本授業の目標は、受講生が、地域社会が抱える課題を調査し、その解決を探ることを通して、学修の基本を修得することです。
	虫の名前を調べてみよう	後	水3－4	上宮 英之	2	㊤		昆虫学の基本は「昆虫採集」です。この講義では、簡単な昆虫採集をして、採集した虫の名前を図鑑などで調べる講義・実習です。昆虫採集の方法と、昆虫の名前を調べる方法は、講義で詳しく説明します。教科書として受講者全員に昆虫図鑑を入手してもらう予定ですが、講義で説明する前に購入しないでください。
	ウェブサービス入門	後	水3－4	濱元 信州	2	㊤		我々が日常利用しているウェブサービスの土台となるウェブサーバやウェブコンテンツを記述するための言語（HTML, CSS）を利用した情報の表現技術を学ぶ。グループでのウェブサイトの構築と発表を通じて、ウェブ上での情報の表現方法を身につける。
	わかりやすい 伝え方を学ぶ	後	水3－4	大和 啓子	2	㊤		留学生との交流を通し、日本の言語・社会・文化について再検討すると同時に、非母語話者にもわかりやすい日本語で情報を伝達する方法（プレゼンテーション）を学ぶ。留学生には、複数回にわたり、ゲストとして参加してもらう。
	学生のための仕事術 「多文化共生の まちづくり」	後	水3－4	結城 恵	2	㊤		【グローバル・リーダーシップ・プログラム開講科目】 生まれ育った文化や社会が異なる人々が、共に生きる社会を築く力は、人口減少社会に対応するグローバル地域創生時代に不可欠な資質となる。本講義ではこの資質を磨くため、グローバル地域創生時代に必要となるダイバーシティの視点を学ぶ。そして、生まれ育った文化や社会が異なる多様な人々がともに知恵を出し合い、地域実践を作り上げる現場に参加し、ダイバーシティのあり方を体験的に学ぶ。さらに、これらの学びから得られる知見を整理し、レポートにまとめるための手法を学ぶ。週末等を利用した地域実践への参加が数回程度ある予定。予定については講義中に早めに伝達する。

[教養教育科目]

科目区分：教養基盤科目／授業科目：学びのリテラシー（2）

初
年
次
牧

学
2

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
学びのリテラシー（2）	現代国際政治	後	水3－4	野田 岳人	2	㊤		現代国際政治において注目される諸問題について考えます。最初は、教員が国際政治の基本構造について解説します。それに基づいて、最近の国際問題を題材に議論します。その後、近年の国際政治上の諸問題を取り上げ、報告会を行います。中間報告会では、関心のある国際関係のトピックによりグループ分けをして発表をします。期末報告会では、受講者全員が個別に発表します。また、アカデミック・ライティングについても講義します。
	みんなの国際協力	後	水3－4	森 淑江 辻村 弘美	2	㊤		各国が抱える問題の解決や、更なる発展を目指して持続可能な開発目標(SDGsエスディーズ)が2015年の国連サミットで設定され、世界各国は2030年の目標達成を目指して取り組んでいます。そのためには国際協力を欠かすことはできません。グローバル化が進む中で日本が、そして一人一人がどのような役割を果たすべきを考えて行きます。
	シェイクスピアを読む	後	水5－6	服部 健司	2	㊤		小説とちがって、戯曲には登場人物の心の動きについて作者による説明は書き込まれていない。ただ台詞があるばかり。台詞の読み方ひとつで解釈が大きく変わってくる。さまざまな監督・俳優による映画や舞台映像の、解釈や演出のちがいをしながら、仕掛けがいっぱい盛り込まれたシェイクスピアの作品を、履修者それぞれが読み込んできて発表し、他の人の読みとぶつけ合う中で、洞察力と想像力を磨いていく。レベルはやや高い。
	神経科学総論	後	水5－6	中村 和裕	2	㊤		神経生理学、神経病理学に関する総論を学ぶことを目標とする。方法は上記分野に関係する英文論文を読み、内容を理解し、発表するという形式を取る。
	男女共同参画社会における「自分らしさ」とは何か	後	水5－6	長安めぐみ	2	㊤		自分は大学で何がしたいのか、自分の興味関心は何なのかについて、男女共同参画やジェンダーの視点に立ったグループディスカッションで深めていく。文献検索や映像等の視聴を通して、様々な生き方に触れる中で、性別にかかわらず自らの能力を発揮しながら、相手も自分も尊重する共生的な生き方やコミュニケーションのあり方について考える。
	ブレイクスルー－医学・生命科学における発見のドラマ－	後	木3－4	山下 孝之 畑田 出穂	2	㊤		皆さんが大学で最も伸ばすべき能力に、発見力や創造力があります。そのためには、知識の体系を学ぶだけでなく、それが形成された「プロセス」を知ることが重要です。この授業では、医学や生命科学における様々なブレイクスルーの事例を紹介し、発見や創造に何が必要なのかについて考えます。
	クラウド入門	後	水5－6	横山 重俊	2	㊤		我々が利用する機会が増えて来ているクラウドサービスについてその成り立ちやその動作原理について学ぶ。グループでのクラウドサービスを使ったアプリケーションの構築と発表を通じて、クラウドサービスの利用方法を身につける。
	研究を立案して議論する	後	水7－8	豊村 暁	2	㊤		ヒトを対象とした心理生理研究に関して、文献調査を行い、英語の原著論文を読み込む。プレゼンテーションとディスカッションを通じて、将来、研究を行うための基礎力を身につけることを目標とする。

[教養教育科目]

科目区分：教養基盤科目／授業科目：学びのリテラシー（2）

授業科目	授 業 題 目	学期	曜日・時限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
学びのリテラシー（2）	遺伝と遺伝子、 その情報管理	後	水7－8	小澤 厚志	2	㊤		遺伝子は生命の設計図であり、これを組み替えることにより生命操作も可能となることで、従来の科学を超えた社会的な問題も生じ始めている。遺伝子にまつわる科学情報について、情報管理の重要性などを考える。授業は、グループワークを中心にを行い、情報収集やプレゼンテーション方法を学ぶ。
	キャリアデザインについて考えてみよう	後	木3－4	恩幣 宏美	2	㊤		今後、社会で活動、活躍する皆さんにとって、今までの経験を活かして仕事をする、どのような生き方をするかについて考えることは重要となる。そこで、本講義では、社会で活動するにあたり必要となる知識やスキルについて、文献や資料、フィールドワーク、プレゼンテーションを通して理解する。
	現代社会と学校教育	後	火1－2	新藤 慶	2	㊤		本授業では、大学での学びの基本となる「学術論文を読む」、「自分で問いを立てる」、「立てた問いに対して先行研究や調査をもとに答えをまとめる」、「自分の研究成果を発表する」といった作業の初歩を体験し、基本的な技法を身につけることを目標とする。具体的には、教育社会学の入門書を読み進め、教育と社会に関わるテーマで研究発表をまとめていく。
	数独を数学する	後	木3－4	大塚 岳	2	㊤		数独とそのバリエーション、またはその基礎にあたるラテン方陣などを通じて、数学の根底にある推論による考察の方法論を学ぶ。本講義では数独の専門書を輪読し、数学とパズルの歴史、数独の解法、数独やラテン方陣などの盤の構成法とその応用、盤が何通りあるのか、盤の分類法、パズルを構成するアルゴリズムなど、数独に潜む数学の諸概念を学ぶ。
	身近な医学Ⅱ	後	木3－4	和田 直樹 (他)	2	㊤		医学部医学科の教員が、専門とする臨床分野について、わかりやすく説明する。様々な病気についてとその発症機序について理解を深める。
	研究倫理と社会	後	木3－4	大庭 志野	2	㊤		人を対象とした研究の倫理について、社会、歴史、福祉、医学の発展、ジャーナリズム、地域、家族、文化、信仰、統計学、倫理規範等の観点から検討する。「不死細胞ヒーラ」の他、日英の複数の文献を題材に、グループ討論を通して理解と考察を深める。また、映像を視聴して情報を整理する方法を学ぶ。入門的なディベートを体験し、開かれたコミュニケーションの技法を体験する。更に文献をリサーチして吟味し、発表する方法を学ぶ。最終課題では、本授業で得られた成果をレポートにまとめることで、小論文を執筆する方法を学ぶ。あらゆる専攻の学生が履修することを期待します。
	結晶と結晶育成	後	木3－4	京免 徹	2	㊤		本授業では、「結晶とは何か」について解説した後、結晶育成の実験を行う。大型で透明、対称的な結晶を得る方法を試行錯誤を繰り返しながら探索することで、研究を行う上で不可欠な思考力を身につける。また、実験結果をレポートにまとめ、結果や自分の意見を文書で正確に伝える訓練を行う。
	音と音楽の サイエンス	後	金3－4	高橋 浩	2	㊤		音や音楽（音階、和音を中心）を題材として、現象を数理的に分析する手法の基礎を学ぶ、具体的な現象から、その本質となる関係性を探る方法と、抽象的な概念を具体的な事象に絡めて他の人に分かり易く説明する方法についても学ぶ。音に関する物理的性質についての初歩を学んだ後、楽音とノイズの違い、倍音と楽器の音色と関係、さらには、倍音と協和音、不協和音の関係性などを取り上げる予定である。簡単な音速測定の実験も行う。

[教養教育科目]

科目区分：教養基盤科目／授業科目：学びのリテラシー（2）

初
年
次
牧

学
2

授業科目	授 業 題 目	学期	曜日・時間	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
学びのリテラシー（2）	物質化学入門	後	木3-4	尾崎 広明 山田 圭一	2	㊤		物質の取り扱いの基盤となる化学の基礎力を身につけ、自然科学的な考え方を修得することを目的とする。授業では、身のまわりにある原子や分子について、講義ならびに各自の調査と発表により学習するとともに、自身の感覚を通じて化学反応を観察し、理解を深める。上記項目に関するレポート作成・プレゼンテーション・総合討論を通じて効果的な発表技法の習得を目指す。
	細胞から病気を考える	後	木3-4	佐藤 幸市	2	㊤		ヒトは約60兆個の細胞から形成されており、それぞれの細胞には様々な機能があります。何らかの原因で正常な細胞機能が破綻すると、がん、神経変性疾患、糖尿病など病気を引き起こします。本講義では、とても小さな細胞の中に秘められた多様な細胞メカニズムと疾病との関連について講義するとともに、生命科学研究の最先端を紹介します。
	日本語のしくみを考える	後	水3-4	小林 英樹	2	㊤		目標：普段使っている日本語を言語学的に分析できるようになる。 内容：普段使っている日本語を見直し、日本語のしくみを考えていく。 注意事項：発表のグループ分けなどを行うので、受講希望者は第1回目の講義から必ず出席すること。
	データの利活用	後	金3-4	高木 理	2	㊤		医療データなどの高いセキュリティが求められるデータを安全に管理・運用するための基礎理論や方法論を紹介すると共に、安全性を保ちつつ、如何にしてデータを業務や研究に役立てるべきかについて議論する。また、病院情報システム等も紹介し、長期に渡って価値の高いデータを如何にして蓄積すべきかについても述べる。
	身の回りの化学	後	金3-4	日置 英彰	2	㊤		地球、生き物、身の回りのものは全て物質で構成されており、これらは日々刻々と変化しています。我々は化学物質によって恩恵を受ける一方で、環境や健康を犠牲にしている面もあります。本講義では身近な事象を題材にして、これらを化学的にとらえることで、社会と化学のつながりについてみなさんと考えます。

[教養教育科目]

科目区分：教養基盤科目／授業科目：英語

[英語の履修方法]

共同教育学部・社会情報学部・医学部の英語の履修方法

1 年次の英語の授業では、「英語101」「英語102」をそれぞれ1 単位ずつ履修し、2 年次では、令和3 年度に開講する「英語201」「英語202」をそれぞれ1 単位ずつ履修する。「選択英語」は、必修の英語のクラスに加えてさらに英語を学習したい人のための授業で、必修の「英語」の代替とはならないので注意すること。

- 1) 「英語101」「英語102」「英語201」「英語202」いずれもクラス指定のため、自分がどのクラスに所属しているかをよく確認すること。
- 2) 1 年次の前期は「英語101」、後期は「英語102」をそれぞれ履修する。2 年次の前期は「英語201」、後期は「英語202」をそれぞれ履修する。

理工学部の英語の履修方法

1 年次の英語の授業では、「英語101」「英語111」「英語102」「英語112」をそれぞれ1 単位ずつ履修する。2 年次では、令和3 年度に開講する「英語201」「英語202」をそれぞれ1 単位ずつ履修する。「選択英語」は、必修の英語のクラスに加えてさらに英語を学習したい人のための授業で、必修の「英語」の代替とはならないので注意すること。

- 1) 「英語101」「英語111」「英語102」「英語112」「英語201」「英語202」いずれもクラス指定のため、自分がどのクラスに所属しているかをよく確認すること。
- 2) 1 年次の前期は「英語101」「英語111」、後期は「英語102」「英語112」、2 年次の前期は「英語201」、後期は「英語202」をそれぞれ履修する。

共同教育学部・社会情報学部・医学部の英語で不合格となった場合

「英語101」「英語102」「英語201」「英語202」の単位が取得できなかった場合には、原則として次の学期にその単位を補充するよう、以下に従って、履修計画を立てなければならない。

- 1) 「英語101」で不合格となった場合
「英語（再履修）」を受講する。なお、その時限が必修科目の時間帯と重なるなどして受講できない場合は、担当教員に確認すること。
- 2) 「英語102」で不合格となった場合
「英語（再履修）」を受講する。なお、その時限が必修科目の時間帯と重なるなどして受講できない場合は、担当教員に確認すること。
- 3) 「英語201」で不合格となった場合
「英語（再履修）」を受講する。なお、その時限が必修科目の時間帯と重なるなどして受講できない場合は、担当教員に確認すること。
- 4) 「英語202」で不合格となった場合
「英語（再履修）」を受講する。なお、その時限が必修科目の時間帯と重なるなどして受講できない場合は、担当教員に確認すること。

理工学部の英語で不合格となった場合

理工学部「英語101」「英語111」「英語102」「英語112」「英語201」「英語202」の単位が取得できなかった場合には、次の学期にその単位を補充するよう、以下に従って、履修計画を立てなければならない。

- 1) 「英語101」で不合格となった場合
「英語（再履修）」を受講する。なお、その時限が必修科目の時間帯と重なるなどして受講できない場合は、担当教員に確認すること。
- 2) 「英語111」で不合格となった場合
「英語（再履修）」を受講する。なお、その時限が必修科目の時間帯と重なるなどして受講できない場合は、担当教員に確認すること。
- 3) 「英語102」で不合格となった場合
「英語（再履修）」を受講する。なお、その時限が必修科目の時間帯と重なるなどして受講できない場合は、担当教員に確認すること。
- 4) 「英語112」で不合格となった場合
「英語（再履修）」を受講する。なお、その時限が必修科目の時間帯と重なるなどして受講できない場合は、担当教員に確認すること。
- 5) 「英語201」で不合格となった場合
同一の授業を次年度以降に再履修する。その時限が必修科目の時間帯と重なるなどして受講できない場合は、「英語（再履修）」を受講する。
- 6) 「英語202」で不合格となった場合
同一の授業を次年度以降に再履修する。その時限が必修科目の時間帯と重なるなどして受講できない場合は、「英語（再履修）」を受講する。

外部英語試験（TOEIC-IP）の受験について

教養教育課程における英語教育の一環として、外部英語試験（TOEIC-IP）の受験を義務付けている。試験の成績（スコア）は、学生自らの英語能力の把握に活用されるとともに、教養英語の成績に算入される。TOEICを受けるタイミングは次のとおりである。

学 部	1 年次 7 月	1 年次 1 月	2 年次 7 月	2 年次 1 月
共同教育学部		○		○
社会情報学部		○		○
医 学 部		○		
理 工 学 部	○	○		○

[教養教育科目]

科目区分：教養基盤科目／授業科目：英語

初
年
次
牧

英
語

授業科目	授 業 題 目	学期	曜日・時限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
英 語	英語101	前	月5-6	小野澤千恵子	1	必	教1EA1	様々な文化に纏わる題材を通して、4技能からなる総合的な英語コミュニケーション能力の育成と共に、異文化理解の基礎を築くことを目的とします。 経済、食、社会、健康、旅行など、様々な文化に纏わる題材を扱うCLIL教材を用いて、基本的な語彙や文法を学習しながら、総合的な英語力を養います。その際、特に文化の多様性に対する理解を深めながら、プレゼンテーションや議論を通して、自ら考え、それらに対応できる能力を身に付けていきます。 Referring to topics concerning various cultures, this course aims to help students acquire the basis of intercultural understanding as well as the integrated English communication ability covering four skills. The CLIL textbook deals with various cultural topics including economy, food, society, health and travels, and students will be able to improve their English ability through learning basic vocabulary and grammar. This course also focuses on cultural diversity so that students can have and express their own ideas through presentation and discussion and possess flexibility and adaptability.
			月5-6	金田 仁秀	1	必	教1EA2	
			月5-6	ネウパネ・プラミラ	1	必	教1EA3	
			月5-6	フーゲンブーム・レイモンド	1	必	教1EA4	
			月3-4	小野澤千恵子	1	必	教1EB1	
			月3-4	金田 仁秀	1	必	教1EB2	
			月3-4	サンブソン・リチャード	1	必	教1EB3	
			月3-4	コントレラス・ジェフリー	1	必	教1EB4	
	英語102	後	月5-6	小野澤千恵子	1	必	教1EA1	様々な文化に纏わる題材を通して、4技能からなる総合的な英語コミュニケーション能力の育成と共に、異文化理解の基礎を築くことを目的とします。 教育、芸術、コンピューター、ジェンダー、戦争、グローバル化など、様々な文化に纏わる題材を扱うCLIL教材を用いて、前期に引き続き、基本的な語彙や文法を学習しながら、総合的な英語力を養います。その際、特に文化の多様性に対する理解を深めながら、プレゼンテーションや議論を通して、自ら考え、それらに対応できる能力を身に付けていきます。 Referring to topics concerning various cultures, this course aims to help students acquire the basis of intercultural understanding as well as the integrated English communication ability covering four skills. The CLIL textbook deals with various cultural topics including education, art, computer, gender, war and globalization, and students will be able to improve their English ability through learning basic vocabulary and grammar. This course also focuses on cultural diversity so that students can have and express their own ideas through presentation and discussion and possess flexibility and adaptability.
			月5-6	飯島 睦美	1	必	教1EA2	
			月5-6	ネウパネ・プラミラ	1	必	教1EA3	
			月5-6	フーゲンブーム・レイモンド	1	必	教1EA4	
			月3-4	小野澤千恵子	1	必	教1EB1	
			月3-4	サンブソン・リチャード	1	必	教1EB2	
			月3-4	飯島 睦美	1	必	教1EB3	
			月3-4	コントレラス・ジェフリー	1	必	教1EB4	

[教養教育科目]

科目区分：教養基盤科目／授業科目：英語

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 クラス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
英 語	英語101	前	火 3 - 4	ナガタニルズイネテ デ・リマ	1	必	社1S1	In this course, students will develop and be able to use their ability and skills in English as a tool for communication. Helping them develop the ability to interact and communicate in simple exchanges relating to familiar academic content, understand extended conversations, messages and talks. In addition develop the ability to make simple inferences from information provided in various contents.
		前	火 3 - 4	河 島 基 弘	1	必	社1S2	テキストを読み進めることで、読解力の向上を図る。適宜、文法事項、英語独特の表現、文化的背景などを説明する。CDを聞くことで、聴解力の育成も図る。多読も毎回行う。
		前	火 3 - 4	末松美知子	1	必	社1S3	目標：英語を正確に読む能力、及び読み取った内容について自分の考えをまとめる能力を養う。 内容：①様々な種類の英文を正確に読む。 ②英文あるいは和文による要約を試みる。 ③テープ、ビデオの使用により聴解力を養うと同時に外国文化、社会について学ぶ。 ④簡単な英文を書く。
英語102		後	火 3 - 4	河 島 基 弘	1	必	社1S1	テキストを読み進めることで、読解力の向上を図る。適宜、文法事項、英語独特の表現、文化的背景などを説明する。CDを聞くことで、聴解力の育成も図る。多読も毎回行う。
		後	火 3 - 4	遠藤真知子	1	必	社1S2	リスニング力を中心に総合的な英語運用能力の向上を図る。アクセントやイントネーションについてもていねいに扱う。文法の補強も行う。
		後	火 3 - 4	ナガタニルズイネテ デ・リマ	1	必	社1S3	This course focus to develop students to be able to spoke of various aspects of culture and society through the debate, oral presentation, discussion or argumentation to improve students' ability to express themselves in English.
英語101		前	金 1 - 2	清水 真紀	1	必	医1M1	英語で書かれた医学論文を読んで内容をきちんと理解できるよう、本授業ではその基礎となる英文読解力の向上を主たる目的とし、また、論文の構成やよく使われる語句・フレーズを中心に語彙力もつける。また、専門及びそれ以外に関する英語のスピーチを聴いて概要を捉えるリスニング力の向上も目指す。
		前	金 1 - 2	クローズ・ ディアナ	1	必	医1M3	Overall this class is designed to provide an interactive and interesting introduction to vital medical English. Students will build a base of medical English that will help them succeed in subsequent years of medical school and their careers. The main focus will be on learning roots, suffixes and prefixes of medical vocabulary while simultaneously improving everyday English vocabulary through related words. This class will also focus on interpersonal communication skills in English and some simulated doctor-patient scenarios. Discussions based on assigned readings in narrative medicine will be held using the Socratic method. Students will learn to express themselves by writing individual papers in the narrative medicine genre. Students will also be given many opportunities to present short speeches based on individual research and assigned readings.

[教養教育科目]

科目区分：教養基盤科目／授業科目：英語

初
年
次
收

英
語

授業科目	授 業 題 目	学期	曜日・時限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
英 語	英語101	前	金 3－4	清水 真紀	1	必	医1M2	英語で書かれた医学論文を読んで内容をきちんと理解できるよう、本授業ではその基礎となる英文読解力の向上を主たる目的とし、また、論文の構成やよく使われる語句・フレーズを中心に語彙力もつける。また、専門及びそれ以外に関する英語のスピーチを聴いて概要を捉えるリスニング力の向上も目指す。
		前	金 3－4	クローズ・ディアナ	1	必	医1M4	Overall this class is designed to provide an interactive and interesting introduction to vital medical English. Students will build a base of medical English that will help them succeed in subsequent years of medical school and their careers. The main focus will be on learning roots, suffixes and prefixes of medical vocabulary while simultaneously improving everyday English vocabulary through related words. This class will also focus on interpersonal communication skills in English and some simulated doctor-patient scenarios. Discussions based on assigned readings in narrative medicine will be held using the Socratic method. Students will learn to express themselves by writing individual papers in the narrative medicine genre. Students will also be given many opportunities to present short speeches based on individual research and assigned readings.
	英語102	後	金 1－2	クローズ・ディアナ	1	必	医1M1	This class will provide a continuation of spring semester of learning medical vocabulary, interpersonal communication skills, discussion, writing and speeches.
		後	金 1－2	清水 真紀	1	必	医1M3	英語で書かれた医学論文を読んで内容をきちんと理解できるよう、本授業ではその基礎となる英文読解力の向上を主たる目的とし、また、論文の構成やよく使われる語句・フレーズを中心に語彙力もつける。また、専門及びそれ以外に関する英語のスピーチを聴いて概要を捉えるリスニング力の向上も目指す。
		後	金 3－4	クローズ・ディアナ	1	必	医1M2	This class will provide a continuation of spring semester of learning medical vocabulary, interpersonal communication skills, discussion, writing and speeches.
		後	金 3－4	清水 真紀	1	必	医1M4	英語で書かれた医学論文を読んで内容をきちんと理解できるよう、本授業ではその基礎となる英文読解力の向上を主たる目的とし、また、論文の構成やよく使われる語句・フレーズを中心に語彙力もつける。また、専門及びそれ以外に関する英語のスピーチを聴いて概要を捉えるリスニング力の向上も目指す。

[教養教育科目]

科目区分：教養基盤科目／授業科目：英語

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 クラス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
英 語	英語101	前	木 7-8	ソーパー・ ティモシー・ ロドリック	1	必	保1H1	リスニング力養成を主体に、総合的な英語の運用能力向上を図る。リスニング・スキル、発音、語彙とフレーズ、文法等の学習を通して、身近な話題に関するメッセージやアナウンスメントを理解できるようにする。また、ミニ・プロジェクトを通して、身近な事柄から文化や社会について考え、英語で伝えることができることを目指す。 This course focuses on improving listening skills while also developing students' overall English ability. Through practicing listening skills, pronunciation, vocabulary and phrases, students become able to understand spoken messages, announcements, and talks about immediate concrete things in their surroundings. In addition, this course aims to develop students' ability to express themselves in English while exploring culture and society through small-scale projects.
		前	木 7-8	岡田 和子	1	必	保1H2	英文をスラッシュ・リーディングで読み通す技術を習得することを第1目的とする。次いで、日本について説明できるようになることを第2の目的とする。その理由は、日本文化・歴史等に関する知識を持つことは、我々日本人が外国人と一緒に関わる仕事をする場合、特に重要だからである。
		前	木 7-8	ラドキー・ ローリー	1	必	保1H3	リーディング力養成を主体に、総合的な英語の運用能力向上を図る。速読、リーディング・スキル、語彙とフレーズ、文法等の学習を通して、身近な話題について、頻繁に使われる語彙で書かれたテキストを理解できるようにする。また、各自のレベルや関心に合わせた本を読む「読書プロジェクト」を通して、英語力を向上させつつ読書を楽しみ、人間や社会について考え、英語で伝えることができることを目指す。 This course focuses on improving reading skills while also developing students' overall English ability. Working on fluency, reading skills and strategies, vocabulary, phrases, and grammar, students become able to understand simple, everyday texts that are written using the most frequent vocabulary. In addition, through the "Reading Project", students improve their English by reading books for pleasure. The course aims to improve students' ability to express themselves in English while exploring various aspects of culture and society.
		前	木 7-8	柴田知薫子	1	必	保1H4	保健医療分野で使用される語彙や表現に慣れることを目標とする。聴解と読解を中心に行う。
		前	木 7-8	クローズ・ ステイシー・ マリー	1	必	保1H5	This class will allow students to develop their communicative English skills in both spoken and written English. Students will listen to English from a variety of sources as well as their classmates. Students will read, watch, and listen to a variety of authentic media for in class discussion and write short reflections and homework assignments based on work done in class. (There is no textbook for this class, teacher will provide materials)
		前	木 7-8	ムラモト エリカ マリア	1	必	保1H6	In this course for the Health Science Class, students will develop and be able to use their ability and skills in English for international communication to capture situations encountered in daily life and on campus.

[教養教育科目]

科目区分：教養基盤科目／授業科目：英語

初
年
次
牧

英
語

授業科目	授 業 題 目	学期	曜日・時限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
英 語	英語102	後	木7-8	柴田知薫子	1	必	保1H1	保健医療分野で使用される語彙や表現に慣れることを目標とする。聴解と読解を中心に行う。
		後	木7-8	ソーパー・ ティモシー・ ロドリック	1	必	保1H2	リスニング力養成を主体に、総合的な英語の運用能力向上を図る。リスニング・スキル、発音、語彙とフレーズ、文法等の学習を通して、身近な話題に関するメッセージやアナウンスメントを理解できるようにする。また、ミニ・プロジェクトを通して、身近な事柄から文化や社会について考え、英語で伝えることができることを目指す。 This course focuses on improving listening skills while also developing students' overall English ability. Through practicing listening skills, pronunciation, vocabulary and phrases, students become able to understand spoken messages, announcements, and talks about immediate concrete things in their surroundings. In addition, this course aims to develop students' ability to express themselves in English while exploring culture and society through small-scale projects.
		後	木7-8	飯田 敦史	1	必	保1H3	プロジェクト学習を通して、自己表現力、実践的コミュニケーション能力の向上を目指す。さまざまなジャンルのライティングを体験し、自分が書いたものを11頭で相手に伝える練習を行う。ペアワーク、グループワークを取り入れた授業形式のため、出席を重視する。
		後	木7-8	ウメヤマ キャサリン	1	必	保1H4	This course will help students develop necessary skills to become an effective presenter. Students can develop confidence speaking in front of people by expressing their opinions and ideas and broaden their minds by listening to others. This course also aims to focus on developing writing skills, pronunciation and gestures. Students will work individually, in pairs and small groups. 本科日では効果的なプレゼンテーション技法を身につけることを目指す。自己表現力を実践的に身に付けることで人前で話す自信をつけ、また他者の意見を聞くことで自身の視野を広げることができる。授業ではライティング、発音、ジェスチャー等の向上も目指す。プレゼンテーションは個人、ペア、グループで取り組む。
		後	木7-8	ムラモト エリカ マリア	1	必	保1H5	In this course for the Health Science Class, students will develop and be able to use their ability and skills in English for international communication to capture situations encountered in daily life and on campus.
		後	木7-8	クローズ・ ステイシー・ マリー	1	必	保1H6	This class will allow students to develop their communicative English skills in both spoken and written English. Students will listen to English from a variety of sources as well as their classmates. Students will read, watch, and listen to a variety of authentic media for in class discussion and write short reflections and homework assignments based on work done in class. (There is no textbook for this class, teacher will provide materials)

〔教養教育科目〕

科目区分：教養基盤科目／授業科目：英語

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜日・時限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
英 語	英語101	前	月1-2	藤 枝 豊	1	必	理ICB/ EI-B-1	リスニング力養成を主体に、総合的な英語の運用能力向上を図る。リスニング・スキル、発音、語彙とフレーズ、文法等の学習を通して、身近な話題に関するメッセージやアナウンスメントを理解できるようにする。また、ミニ・プロジェクトを通して、身近な事柄から文化や社会について考え、英語で伝えることができることを目指す。 This course focuses on improving listening skills while also developing students' overall English ability. Through practicing listening skills, pronunciation, vocabulary and phrases, students become able to understand spoken messages, announcements, and talks about immediate concrete things in their surroundings. In addition, this course aims to develop students' ability to express themselves in English while exploring culture and society through small-scale projects.
			月1-2	春山 デュアンサモン	1	必	理ICB/ EI-B-2	
			月1-2	キメル・キアナ	1	必	理ICB/ EI-B-3	
			月1-2	サンブソン・ リチャード	1	必	理ICB/ EI-B-4	
			月1-2	ウメヤマ キャサリン	1	必	理ICB/ EI-B-5	
			月1-2	フェリアー ステイブン・ ジョン	1	必	理ICB/ EI-B-6	
			月1-2	コントレラス・ ジェフリー	1	必	理ICB/ EI-B-7	
			月1-2	ベルジュロン・ シルバン	1	必	理ICB/ EI-B-8	
			月1-2	ネウパネ・ プラミラ	1	必	理ICB/ EI-B-9	
			火5-6	遠藤真知子	1	必	理IES/ MS/EI-A-1	
			火5-6	菊池 玲子	1	必	理IES/ MS/EI-A-2	
			火5-6	ナガタニルズイネ・ デ・リマ	1	必	理IES/ MS/EI-A-3	
			火5-6	藤 枝 豊	1	必	理IES/ MS/EI-A-4	
			火5-6	高橋 英作	1	必	理IES/ MS/EI-A-5	
			火5-6	井門 亮	1	必	理IES/ MS/EI-A-6	

[教養教育科目]

科目区分：教養基盤科目／授業科目：英語

初
年
次
牧

英
語

授業科目	授 業 題 目	学期	曜日・時限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
英 語	英語101	前	火5-6	ソーパー・ ティモシー・ ロドリック	1	必	理IES/ MS/EI-A-7	リスニング力養成を主体に、総合的な英語の運用能力向上を図る。リスニング・スキル、発音、語彙とフレーズ、文法等の学習を通して、身近な話題に関するメッセージやアナウンスメントを理解できるようにする。また、ミニ・プロジェクトを通して、身近な事柄から文化や社会について考え、英語で伝えることができることを目指す。 This course focuses on improving listening skills while also developing students' overall English ability. Through practicing listening skills, pronunciation, vocabulary and phrases, students become able to understand spoken messages, announcements, and talks about immediate concrete things in their surroundings. In addition, this course aims to develop students' ability to express themselves in English while exploring culture and society through small-scale projects.
			火5-6	越智 貴子	1	必	理IES/ MS/EI-A-8	
			火5-6	中村 さよ	1	必	理IES/ MS/EI-A-9	
			火5-6	ネウパネ・ プラミラ	1	必	理IES/ MS/EI-A-10	
			火5-6	ベルジェロン・ シルバン	1	必	理IES/ MS/EI-A-11	
	英語111	前	木5-6	小野澤千恵子	1	必	理ICB/ EI-B-1	リーディング力養成を主体に、総合的な英語の運用能力向上を図る。速読、リーディング・スキル、語彙とフレーズ、文法等の学習を通して、身近な話題について、頻繁に使われる語彙で書かれたテキストを理解できるようにする。また、各自のレベルや関心に合わせた本を読む「読書プロジェクト」を通して、英語力を向上させつつ読書を楽しみ、人間や社会について考え、英語で伝えることができることを目指す。 This course focuses on improving reading skills while also developing students' overall English ability. Working on fluency, reading skills and strategies, vocabulary, phrases, and grammar, students become able to understand simple, everyday texts that are written using the most frequent vocabulary. In addition, through the "Reading Project", students improve their English by reading books for pleasure. The course aims to improve students' ability to express themselves in English while exploring various aspects of culture and society.
			木5-6	菊池 玲子	1	必	理ICB/ EI-B-2	
			木5-6	ナガタニルズイネテ デ・リマ	1	必	理ICB/ EI-B-3	
			木5-6	マッカラク・ ヘザー	1	必	理ICB/ EI-B-4	
			木5-6	岡田 和子	1	必	理ICB/ EI-B-5	

[教養教育科目]

科目区分：教養基盤科目／授業科目：英語

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
英 語	英語111	前	木5-6	ソーバー・ ティモシー・ ロドリック	1	必	理ICB/ EI-B-6	リーディング力養成を主体に、総合的な英語の運用能力向上を図る。速読、リーディング・スキル、語彙とフレーズ、文法等の学習を通して、身近な話題について、頻繁に使われる語彙で書かれたテキストを理解できるようにする。また、各自のレベルや関心に合わせた本を読む「読書プロジェクト」を通して、英語力を向上させつつ読書を楽しみ、人間や社会について考え、英語で伝えることができることを目指す。 This course focuses on improving reading skills while also developing students' overall English ability. Working on fluency, reading skills and strategies, vocabulary, phrases, and grammar, students become able to understand simple, everyday texts that are written using the most frequent vocabulary. In addition, through the "Reading Project", students improve their English by reading books for pleasure. The course aims to improve students' ability to express themselves in English while exploring various aspects of culture and society.
			木5-6	ムラモト エリカ マリア	1	必	理ICB/ EI-B-7	
			木5-6	ラドキー・ ローリー	1	必	理ICB/ EI-B-8	
			木5-6	フーゲンブーム・ レイモンド	1	必	理ICB/ EI-B-9	
			木1-2	小野澤千恵子	1	必	理IES/ MS/EI-A-1	
			木1-2	菊池 玲子	1	必	理IES/ MS/EI-A-2	
			木1-2	マッカラク・ ヘザー	1	必	理IES/ MS/EI-A-3	
			木1-2	ナガタニルズイネテ デ・リマ	1	必	理IES/ MS/EI-A-4	
			木1-2	ネウパネ・ プラミラ	1	必	理IES/ MS/EI-A-5	
			木1-2	飯田 敦史	1	必	理IES/ MS/EI-A-6	
			木1-2	クローズ・ ディアナ	1	必	理IES/ MS/EI-A-7	
			木1-2	ベルジュロン・ シルバン	1	必	理IES/ MS/EI-A-8	
			木1-2	岡田 和子	1	必	理IES/ MS/EI-A-9	
			木1-2	コントレラス・ ジェフリー	1	必	理IES/ MS/EI-A-10	
			木1-2	フーゲンブーム・ レイモンド	1	必	理IES/ MS/EI-A-11	

[教養教育科目]

科目区分：教養基盤科目／授業科目：英語

初
年
次
牧

英
語

授業科目	授 業 題 目	学期	曜日・時間	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
英 語	英語102	後	月1-2	春山 デュアンサモン	1	必	理ICB/ EI-B-1	リスニング力養成を主体に、総合的な英語の運用能力向上をさらに図る。リスニング・スキル、発音、語彙とフレーズ、文法等の学習を通して、身近であるがより広範な話題に関するメッセージやアナウンスメントを理解できるようにする。また、ミニ・プロジェクトを通して、文化や社会について、より発展的に考え、英語で伝えることができることを目指す。 This course seeks to further improving students' listening skills while also developing their overall English ability. Through practicing listening skills, pronunciation, vocabulary and phrases, students become able to understand a broader range of spoken messages, announcements, and talks about immediate concrete things in their surroundings. In addition, this course aims to deepen students' ability to express themselves in English while exploring culture and society through small-scale projects.
			月1-2	キメル・キアナ	1	必	理ICB/ EI-B-2	
			月1-2	藤枝 豊	1	必	理ICB/ EI-B-3	
			月1-2	ウメヤマ キャサリン	1	必	理ICB/ EI-B-4	
			月1-2	フェリアー ステイブ・ ジョン	1	必	理ICB/ EI-B-5	
			月1-2	サンプソン・ リチャード	1	必	理ICB/ EI-B-6	
			月1-2	ベルジュロン・ シルバン	1	必	理ICB/ EI-B-7	
			月1-2	コントレラス・ ジェフリー	1	必	理ICB/ EI-B-8	
			月1-2	ネウパネ・ プラミラ	1	必	理ICB/ EI-B-9	
			火5-6	菊池 玲子	1	必	理IES/ MS/EI-A-1	
			火5-6	遠藤真知子	1	必	理IES/ MS/EI-A-2	
			火5-6	藤枝 豊	1	必	理IES/ MS/EI-A-3	
			火5-6	ナガタニルズイネ・ デ・リマ	1	必	理IES/ MS/EI-A-4	
			火5-6	ソーパー・ ティモシー・ ロドリック	1	必	理IES/ MS/EI-A-5	

[教養教育科目]

科目区分：教養基盤科目／授業科目：英語

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
英 語	英語102	後	火5-6	高橋 栄作	1	必	理IES/ MS/EI-A-6	リスニング力養成を主体に、総合的な英語の運用能力向上をさらに図る。リスニング・スキル、発音、語彙とフレーズ、文法等の学習を通して、身近であるがより広範な話題に関するメッセージやアナウンスメントを理解できるようにする。また、ミニ・プロジェクトを通して、文化や社会について、より発展的に考え、英語で伝えることができることを目指す。 This course seeks to further improving students' listening skills while also developing their overall English ability. Through practicing listening skills, pronunciation, vocabulary and phrases, students become able to understand a broader range of spoken messages, announcements, and talks about immediate concrete things in their surroundings. In addition, this course aims to deepen students' ability to express themselves in English while exploring culture and society through small-scale projects.
			火5-6	越智 貴子	1	必	理IES/ MS/EI-A-7	
			火5-6	中村 さよ	1	必	理IES/ MS/EI-A-8	
			火5-6	マッカラク・ヘザー	1	必	理IES/ MS/EI-A-9	
			火5-6	(新規採用)	1	必	理IES/ MS/EI-A-10	
			火5-6	ネウパネ・プラミラ	1	必	理IES/ MS/EI-A-11	
英 語	英語112	後	木5-6	小野澤千恵子	1	必	理ICB/ EI-B-1	リーディング力養成を主体に、総合的な英語の運用能力向上をさらに図る。速読、リーディング・スキル、語彙とフレーズ、文法等の学習を通して、より広範な話題について、頻繁に使われる語彙で書かれたテキストを理解できるようにする。また、各自のレベルや関心に合わせた本を読む「読書プロジェクト」を通して、英語力を向上させつつ読書を楽しみ、人間や社会について、より深く考え、英語で伝えることができることを目指す。 This course focuses on further developing students' reading skills and their overall English ability. Working on fluency, reading skills and strategies, vocabulary, phrases, and grammar, students become able to understand an increasingly broader range of simple, everyday texts that are written using the most frequent vocabulary. In addition, through the "Reading Project", students improve their English by reading books for pleasure. The course aims to improve students' ability to express themselves in English whilst more deeply exploring various aspects of culture and society.
			木5-6	マッカラク・ヘザー	1	必	理ICB/ EI-B-2	
			木5-6	菊池 玲子	1	必	理ICB/ EI-B-3	

[教養教育科目]

科目区分：教養基盤科目／授業科目：英語

初
年
次
牧

英
語

授業科目	授 業 題 目	学期	曜日・時限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
英 語	英語112	後	木5-6	ウメヤマ キャサリン	1	必	理ICB/ EI-B・4	リーディング力養成を主体に、総合的な英語の運用能力向上をさらに図る。速読、リーディング・スキル、語彙とフレーズ、文法等の学習を通して、より広範な話題について、頻繁に使われる語彙で書かれたテキストを理解できるようにする。また、各自のレベルや関心に合わせた本を読む「読書プロジェクト」を通して、英語力を向上させつつ読書を楽しみ、人間や社会について、より深く考え、英語で伝えることができることを目指す。 'This course focuses on further developing students' reading skills and their overall English ability. Working on fluency, reading skills and strategies, vocabulary, phrases, and grammar, students become able to understand an increasingly broader range of simple, everyday texts that are written using the most frequent vocabulary. In addition, through the "Reading Project", students improve their English by reading books for pleasure. The course aims to improve students' ability to express themselves in English whilst more deeply exploring various aspects of culture and society.
			木5-6	岡田 和子	1	必	理ICB/ EI-B・5	
			木5-6	ナガタニルズイネテ テ・リマ	1	必	理ICB/ EI-B・6	
			木5-6	ソーパー・ テイモシー・ ロドリック	1	必	理ICB/ EI-B・7	
			木5-6	ムラモト エリカ マリア	1	必	理ICB/ EI-B・8	
			木5-6	フーゲンブーム・ レイモンド	1	必	理ICB/ EI-B・9	
			木1-2	小野澤千恵子	1	必	理IES/ MS/EI-A・1	
			木1-2	(新規採用)	1	必	理IES/ MS/EI-A・2	
			木1-2	菊池 玲子	1	必	理IES/ MS/EI-A・3	
			木1-2	マッカラク・ ヘザー	1	必	理IES/ MS/EI-A・4	
			木1-2	ナガタニルズイネテ テ・リマ	1	必	理IES/ MS/EI-A・5	
			木1-2	岡田 和子	1	必	理IES/ MS/EI-A・6	
			木1-2	藤枝 豊	1	必	理IES/ MS/EI-A・7	

[教養教育科目]

科目区分：教養基盤科目／授業科目：英語

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
英 語	英語112	後	木 1 - 2	クローズ・ディアナ	1	必	理工ES/ MS/BI-A・8	リーディング力養成を主体に、総合的な英語の運用能力向上をさらに図る。速読、リーディング・スキル、語彙とフレーズ、文法等の学習を通して、より広範な話題について、頻繁に使われる語彙で書かれたテキストを理解できるようにする。また、各自のレベルや関心に合わせた本を読む「読書プロジェクト」を通して、英語力を向上させつつ読書を楽しみ、人間や社会について、より深く考え、英語で伝えることができることを目指す。 This course focuses on further developing students' reading skills and their overall English ability. Working on fluency, reading skills and strategies, vocabulary, phrases, and grammar, students become able to understand an increasingly broader range of simple, everyday texts that are written using the most frequent vocabulary. In addition, through the "Reading Project", students improve their English by reading books for pleasure. The course aims to improve students' ability to express themselves in English whilst more deeply exploring various aspects of culture and society.
			木 1 - 2	ベルジュロン・シルバン	1	必	理工ES/ MS/BI-A・9	
			木 1 - 2	コントレラス・ジェフリー	1	必	理工ES/ MS/BI-A・10	
			木 1 - 2	フーゲンブーム・レイモンド	1	必	理工ES/ MS/BI-A・11	

[教養教育科目]

科目区分：教養基盤科目／授業科目：スポーツ・健康

初
年
次
收

ス
ポ
ー
ツ

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
ス ポ ー ツ ・ 健 康	健康教育	前	月 3－4	木山 慶子 狩野 豊 櫻岡 広 一階 千絵 樹森 大介 島 孟留 竹内 一夫 篠崎 博光 宮崎 博子 未 定	2	必	理工 ES-B MS EI-A	授業目標は、肉体の強さを求める『ヒト』であると同時に社会を構成する『人間』であることの両面からより高い健康状態を求めることを科学しようとするものである。 授業内容は、スポーツ・身体運動と健康科学に関する理論とを有機的に関連させ、総合科目的・輪講的に展開する。 スポーツ・身体運動は、より多くのスポーツ種目を経験し、スポーツの歴史、文化的意義、身体表現と遊技的眩暈感、挑戦的意欲、競争の原理さらにスポーツ的刺激と身体の機能との関係等について学ぶ。 健康科学に関する理論は、健康に関する考え方、自分の体力の測定と評価、運動刺激と身体機能、救急処置法、精神的ケア、遊びと健康、栄養と健康、健康プログラムの作成、豊かな生活と環境作り、健康とライフスタイル等について学ぶ。 このように健康教育は、スポーツ・身体運動と健康科学に関する理論とを有機的に関連させ生涯健康的で意味充実な生活を送ることの実践的能力さらに少子高齢化社会をむかえるにあたり、よりよい生活習慣の実践から生活習慣病の第一次予防を意識し、健康的生活が社会的責任であることの自覚を培う授業内容である。授業展開については、健康教育連絡板に掲示する。又、質問は、教養体育事務室（3号館GC106）にて16：00～16：30まで受け付けます。
	健康教育	前	月 5－6	田井健太郎 木山 慶子 櫻岡 広 一階 千絵 樹森 大介 狩野 豊 竹内 一夫 篠崎 博光 宮崎 博子 未 定	2	必	理工 CB ES-A	授業目標は、肉体の強さを求める『ヒト』であると同時に社会を構成する『人間』であることの両面からより高い健康状態を求めることを科学しようとするものである。 授業内容は、スポーツ・身体運動と健康科学に関する理論とを有機的に関連させ、総合科目的・輪講的に展開する。 スポーツ・身体運動は、より多くのスポーツ種目を経験し、スポーツの歴史、文化的意義、身体表現と遊技的眩暈感、挑戦的意欲、競争の原理さらにスポーツ的刺激と身体の機能との関係等について学ぶ。 健康科学に関する理論は、健康に関する考え方、自分の体力の測定と評価、運動刺激と身体機能、救急処置法、精神的ケア、遊びと健康、栄養と健康、健康プログラムの作成、豊かな生活と環境作り、健康とライフスタイル等について学ぶ。 このように健康教育は、スポーツ・身体運動と健康科学に関する理論とを有機的に関連させ生涯健康的で意味充実な生活を送ることの実践的能力さらに少子高齢化社会をむかえるにあたり、よりよい生活習慣の実践から生活習慣病の第一次予防を意識し、健康的生活が社会的責任であることの自覚を培う授業内容である。授業展開については、健康教育連絡板に掲示する。又、質問は、教養体育事務室（3号館GC106）にて16：00～16：30まで受け付けます。
	健康教育	前	月 7－8	中雄 勇人 田井健太郎 一階 千絵 高橋美穂子 樹森 大介 狩野 豊	2	必	教育	授業目標は、肉体の強さを求める『ヒト』であると同時に社会を構成する『人間』であることの両面からより高い健康状態を求めることを科学しようとするものである。 授業内容は、スポーツ・身体運動と健康科学に関する理論とを有機的に関連させ、総合科目的・輪講的に展開する。 スポーツ・身体運動は、より多くのスポーツ種目を経験し、スポーツの歴史、文化的意義、身体表現と遊技的眩暈感、挑戦的意欲、競争の原理さらにスポーツ的刺激と身体の機能との関係等について学ぶ。

[教養教育科目]

科目区分：教養基盤科目／授業科目：スポーツ・健康

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
ス ポ ー ツ ・ 健 康	健康教育			竹内 一夫 篠崎 博光 宮崎 博子 未 定				健康科学に関する理論は、健康に関する考え方、自分の体力の測定と評価、運動刺激と身体機能、救急処置法、精神的ケア、遊びと健康、栄養と健康、健康プログラムの作成、豊かな生活と環境作り、健康とライフスタイル等について学ぶ。 このように健康教育は、スポーツ・身体運動と健康科学に関する理論とを有機的に関連させ生涯健康的で意味充実な生活を送ることの実践的能力さらに少子高齢化社会をむかえるにあたり、よりよい生活習慣の実践から生活習慣病の第一次予防を意識し、健康の生活が社会的責任であることの自覚を培う授業内容である。授業展開については、健康教育連絡板に掲示する。質問は、教養体育事務室（3号館GC106）にて16:00～16:30まで受け付けます。
	健康教育	前	火3-4	新井 淑弘 倉林愛一郎 柵木 聖也 近藤 照彦 竹内 一夫 篠崎 博光 宮崎 博子 未 定	2	必	保健学科	授業目標は、肉体の強さを求める『ヒト』であると同時に社会を構成する『人間』であることの両面からより高い健康状態を求めることを科学しようとするものである。 授業内容は、スポーツ・身体運動と健康科学に関する理論とを有機的に関連させ、総合科目的・論議的に展開する。 スポーツ・身体運動は、より多くのスポーツ種目を経験し、スポーツの歴史、文化的意義、身体表現と遊技的眩暈感、挑戦的意欲、競争の原理さらにスポーツ的刺激と身体の機能との関係等について学ぶ。 健康科学に関する理論は、健康に関する考え方、自分の体力の測定と評価、運動刺激と身体機能、救急処置法、精神的ケア、遊びと健康、栄養と健康、健康プログラムの作成、豊かな生活と環境作り、健康とライフスタイル等について学ぶ。 このように健康教育は、スポーツ・身体運動と健康科学に関する理論とを有機的に関連させ生涯健康的で意味充実な生活を送ることの実践的能力さらに少子高齢化社会をむかえるにあたり、よりよい生活習慣の実践から生活習慣病の第一次予防を意識し、健康の生活が社会的責任であることの自覚を培う授業内容である。授業展開については、健康教育連絡板に掲示する。質問は、教養体育事務室（3号館GC106）にて16:00～16:30まで受け付けます。
	健康教育	前	火5-6	高 孟留 新井 淑弘 鬼澤 陽子 倉林愛一郎 柵木 聖也 近藤 照彦 永井 真紀 竹内 一夫 篠崎 博光 宮崎 博子 未 定	2	必	社会情報 医学科 理工 EI-B	授業目標は、肉体の強さを求める『ヒト』であると同時に社会を構成する『人間』であることの両面からより高い健康状態を求めることを科学しようとするものである。 授業内容は、スポーツ・身体運動と健康科学に関する理論とを有機的に関連させ、総合科目的・論議的に展開する。 スポーツ・身体運動は、より多くのスポーツ種目を経験し、スポーツの歴史、文化的意義、身体表現と遊技的眩暈感、挑戦的意欲、競争の原理さらにスポーツ的刺激と身体の機能との関係等について学ぶ。 健康科学に関する理論は、健康に関する考え方、自分の体力の測定と評価、運動刺激と身体機能、救急処置法、精神的ケア、遊びと健康、栄養と健康、健康プログラムの作成、豊かな生活と環境作り、健康とライフスタイル等について学ぶ。 このように健康教育は、スポーツ・身体運動と健康科学に関する理論とを有機的に関連させ生涯健康的で意味充実な生活を送ることの実践的能力さらに少子高齢化社会をむかえるにあたり、よりよい生活習慣の実践から生活習慣病の第一次予防を意識し、健康の生活が社会的責任であることの自覚を培う授業内容である。授業展開については、健康教育連絡板に掲示する。質問は、教養体育事務室（3号館GC106）にて16:00～16:30まで受け付けます。

[教養教育科目]

科目区分：教養基盤科目／授業科目：スポーツ・健康

初
年
次
牧

授業科目	授 業 題 目	学期	曜日・時限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
ス ポ ー ツ ・ 健 康	スポーツ科学	後	月3-4	中雄 勇人	1	㊤	理工 ES-B MS EI-A	ジョギング（実習） 定員40人
				狩野 豊				フィットネストレーニング（実習） 定員40人
				櫻岡 広				ゴルフ（実習） 定員40人
				一階 千絵				ニュースポーツ（実習） 定員40人
				樹森 大介				サッカー（実習） 定員40人
	スポーツ科学	後	月5-6	新井 淑弘	1	㊤	理工 CB ES-A	軽スポーツ（実習） 定員40人
				木山 慶子				フィットネス（実習） 定員40人
				櫻岡 広				ゴルフ（実習） 定員40人
				一階 千絵				ニュースポーツ（実習） 定員40人
				樹森 大介				サッカー（実習） 定員40人
	スポーツ科学	後	月7-8	中雄 勇人	1	㊤	教育	ジョギング（実習） 定員40人
				田井健太郎				テニス（実習） 定員40人
				一階 千絵				ニュースポーツ（実習） 定員40人
				高橋美穂子				ダンス（実習） 定員40人
				樹森 大介				サッカー（実習） 定員40人
	スポーツ科学	後	火3-4	中雄 勇人	1	㊤	保健学科	ジョギング（実習） 定員40人
				柵木 聖也				バドミントン（実習） 定員40人
				倉林愛一郎				テニス（実習） 定員40人
				近藤 照彦				コンディショニングトレーニング（実習） 定員40人
	スポーツ科学	後	火5-6	鬼澤 陽子	1	㊤	社会情報 医学科 理工 EI-B	バスケットボール（実習） 定員40人
				柵木 聖也				フィットネス（実習） 定員40人
				近藤 照彦				コンディショニングトレーニング（実習） 定員40人
				倉林愛一郎				テニス（実習） 定員40人
				永井 真紀				フットサル（実習） 定員40人
				島 孟留				ソフトボール（実習） 定員40人

ス
ポ
ー
ツ

[教養教育科目]

科目区分：教養基盤科目／授業科目：スポーツ・健康

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
ス ポ ー ツ ・ 健 康	スポーツ科学 (健康教育)	後	火 9-10	島 孟留	1	㊤		生涯にわたる健康の享受を可能にするために必要な知識と日頃の自助努力について学習するとともに、その効果的教育方法についても学習する。学習効果としては、学校教育のみでなく社会教育での健康教育も担当できる基礎知識修得ができる。 講義に関わる質問は、教養体育事務室（3号館GC106）にて16:00～16:30まで受け付けます。
	スポーツ科学 (スポーツ栄養学)	後	木 9-10	後藤 香織	1	㊤		スポーツ科学におけるスポーツライフマネジメントは、選手が試合で最大限のパフォーマンスを発揮するための生活管理の必要性から生まれた。トレーニング（運動）と食事（栄養）と睡眠（休養）を適切なタイミングでリズム化するための方法論の考究がその原点である。 本講義では、①学生が、一日の活動量を計算し、それに見合う食事量と栄養バランスを計算し、献立をつくること。②一日の運動量を適正にする方法、自分の筋タイプに合った運動を見出し、それに合う栄養補給方法と休養の取り方を見つけてもらう。スポーツ科学の見地からトレーニングと食事と睡眠の意味を原点から見直すと同時に、それらの相互作用を学習する。 また、健康科学の見地から、健康増進のためのライフスタイルにどのように応用すべきかも併せて考察させたい。 講義に関わる質問は、非常勤講師室で15:00～16:00に受け付けます。

[教養教育科目]

科目区分：教養基盤科目／授業科目：スポーツ・健康

初
年
次
牧

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜日・時限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 目 標 ・ 内 容 な ど
ス ポ ー ツ ・ 健 康	[シーズンスポーツ] シーズンスポーツは、スポーツ実技が日常的・継続的プログラムのなかで実践されることに対して、四季の中や自然の中で実践される行事的、単発的健康プログラムの一つです。シーズンのスポーツ実践を通し、生活の中に季節を感じ、自然を感じ、健康を感じることに大きな価値を見いだして欲しいと思います。また自然環境の保全とスポーツ安全教育との関係も学びます。 シーズンスポーツ全体の質問は、教養体育事務室（3号館 G C 106）にて9：00～12：00、14：00～17：00まで受け付けます。							
	スポーツ科学 (シーズンスポーツ・ テニスⅠ)	集 中 授 業	8 月	中雄 勇人 倉林愛一郎	1	㊥		群馬大学テニスコートで開講します。時期は夏休みです。 テニスを通し大自然の中でのスポーツすることの楽しさと爽快感を体感します。 また、テニスのルールや歴史などの特性を学習することから社会生活における健康管理能力やスポーツ経営方法を学習します。
	スポーツ科学 (シーズンスポーツ・ テニスⅡ)		9 月					
	スポーツ科学 (シーズンスポーツ・ キャンプ)		8 月	中雄 勇人 島 孟留 田井健太郎 藤井 和彦	1	㊥	野外活動であるキャンプを通して、普段の体験とは異なる自然環境の中での共同生活や野外スポーツ活動を通して、スポーツの楽しさや爽快感を体験する。近年、キャンプ場の整備が進み、将来にわたりキャンプを楽しむことの出来る環境が整いつつあることから、生涯スポーツに繋がることも期待できると共に、男女問わず楽しむことが出来るのも魅力の一つであり、コミュニケーション能力の育成も期待できる。本講義を通じて、キャンプにおける基本的な知識や安全の確保の方法などを学び、キャンプを楽しむための基礎を身につけることを目指す。	
	スポーツ科学 (シーズンスポーツ・ ゴルフ)		9 月	木山 慶子 櫻岡 広	1	㊥	吉岡ケイマンゴルフ場と大学構内で開講します。時期は夏休みです。ゴルフを通し大自然の中でのスポーツすることの楽しさと爽快感を体感します。 また、ゴルフのルールや歴史などの特性を学習することから社会生活における健康管理能力やスポーツ経営方法を学習します。	
	スポーツ科学 (シーズンスポーツ・ スケート)		2 月	中雄 勇人 黒岩 敏幸	1	㊥	群馬県では、冬季スポーツとしてスケートが行われており、世界で活躍している選手も多い。最近では、フィギュアスケートが人気である中、少しずつスケートを行う人が増加している。本講では、氷上に慣れることから始まり、転倒することなくスケーティング出来るまでの技術を指導する。適度な運動強度で運動の苦手な学生や女子学生でも気軽に楽しむことができ、精神的ストレスの解消及び健康の維持増進を目指す。	

ス
ポ

〔教養教育科目〕

科目区分：教養基盤科目／授業科目：データ・サイエンス

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
データ・サイエンス	データ・サイエンス	前	水 1－2	寺嶋 容明 横山 重俊 濱元 信州 高橋 啓 松井 洋子 菅原 一晴	2	必	教育	コンピュータやインターネットの仕組みを理解し、情報倫理についての考えを深めるとともに、情報社会において重要となるデータ・サイエンスの初歩について学ぶ。授業は講義に加えてパソコンを使った演習やeラーニングなども行う。これにより、現代社会を生きるために必要とされる一般的かつ基礎的な情報リテラシーを身に付ける。
			月 5－6	松井 猛 佐渡 広	2	必	社 A	
			月 7－8	白石 洋一 (他)	2	必	社 B	
			金 7－8	烏飼 幸太 横山 重俊 井上 仁 高橋 啓 中村 賢治	2	必	医 A	
			木 7－8	烏飼 幸太 横山 重俊 井上 仁 高橋 啓 中村 賢治	2	必	医 B	
			火 5－6	井田 憲一 横山 重俊 濱元 信州 高橋 啓 張 鳴 関口 達也	2	必	理工 C B	
			金 1－2	荒木 徹也 山延 健 河原 豊 横山 重俊 濱元 信州 高橋 啓 張 鳴 松井 洋子 白石 洋一	2	必	理工 ES-A/EI	
			金 5－6	莊司 郁夫 山延 健 河原 豊 横山 重俊 濱元 信州 高橋 啓 張 鳴 松井 洋子 白石 洋一	2	必	理工 ES-B/MS	
		後	火 5－6	上宮 英之 濱元 信州 中村 賢治 (他)	2	必	保 A	
			水 9－10	豊村 暁 濱元 信州 高橋 啓 井手 野山季	2	必	保 B	
			水 1－2	松井 洋子 横山 重俊 高橋 啓	2	必	保 C	
			木 1－2	松井 洋子 横山 重俊 高橋 啓	2	必	保 D	

[教養教育科目]

科目区分：教養基盤科目／授業科目：就業力

初
年
次
牧

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 クラス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
就業力	キャリア計画	前	月 9 - 10	松元 宏行	2	必	理工 ES/MS EI1	在学中に学ぶ授業内容をカリキュラムマップをもとに学ぶとともに、その学習内容が社会で求められる科学や技術、職業にどのようにかかわっているかを理解する。また、社会見学や様々な分野の専門家による講演を通して社会が求める人材像を知り、自らが目指す将来像を構想していく。 なお、「キャリア計画」は必修科目であり卒業要件に関わる授業であるため理工学部生は必ず履修し単位を取得しなければならない。 この授業は、全体で行う授業（荒牧キャンパスでの講義）と各学科別に行う活動（合宿や桐生キャンパスでの研究室見学など）を合わせて「キャリア計画」という科目を構成しているため、必ず両方の活動に参加しなければならない。
			金 9 - 10		2	必	理工 CB EI2・3	
	学びを構築する	前	金 1 - 2	高山 利弘 岩井 淳 井門 亮 河島 基弘 北村 純 松宮 広和 山内 春光	2	必	社会情報	目標：社会情報学がめざす、複雑化し高度化する情報社会の成り立ちを解明し理解するための、基本的な概念および研究・学修方法を身につける。また、本学部における諸領域の学問を関係づけ整理できる基礎的能力を身につける。 概要：まず、人間と社会の関係や人間と人間を結びつけている要因、働くこと・学ぶこと、研究することと社会との関係について考え、情報社会で人が生きていくことの本質を理解する。次いで、情報社会の学問的なとらえ方について、社会情報学を構成する各種の専門分野を基盤とした手法・知見を学ぶ。また、個人・組織・集団として情報社会に関する研究や学修を行う方法について、体験的に学ぶ。
	キャリア設計	後	月 9 - 10	松元 宏行	2	選	理工	実際の企業での研究開発経験を持つ外部講師や教員の講演を聞き、前期のキャリア計画で学んだ内容をさらに進めて、職業観や社会で必要とされる人材像、自らが目指す技術者としての将来像をさらに明確にしてゆく。また、ポスター発表を通して、自身の専門分野をより知ること、将来展望やキャリア設計を行ってみる。

就
業

[教養教育科目]

科目区分：教養育成科目／授業科目：人文科学科目群

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
人文科学科目群	教養の心理学	前	火 1－2	村 田 祥 子	2	選		近年、心理学への関心、期待が高まっている。しかし、一方で心理学への誤解も多い。心理学を初めて学ぶ人を対象として講義を行う。心理学の基礎知識を習得し、自らが人間の行動を理解するときのあり方について考えることを目標とする。人間理解のひとつの試みとして心理学の方法に触れることは、自分自身と向きあうことである。
			火 7－8		2	選		
	外国語としての日本語を考える	前	火 7－8	牧 原 功	2	選		我々日本人は無意識のうちに正しい日本語を用いており、その点で日本人にとって日本語の文法は、本来覚えるべきものではなく、内省によって見つけていくべきものであると言える。文法の規則は既に我々の頭の中にあるのだが、実は外国人が日本語を学ぶ際に必要となる文法とは、この日本人の「頭の中にある規則」を明示したものである。本講義では、日本語の文法規則を内省し整理することを通じて、外国人にとっての日本語文法、外国語としての日本語の文法とはどのようなものであるか考えていく。
	言語としての日本手話Ⅰ	前	火 1－2	中野 聡子 下島 恭子 川端 伸哉 二神 麗子	1	選		重度の聴覚障害児・者とのコミュニケーションでは、手話や文字など、音声を介しない視覚的手段が必要となる。本講義では、日本語とは異なる言語体系を持つ日本手話について、基本的な構文と文法を習得することを目的とする。本講義で学んだ基本構文と文法を定着させるための演習を「言語としての日本手話実践Ⅰ」において行うため、2つの授業を併せて履修することを条件とする。
	現代ドイツ哲学Ⅰ ハイデガー講読	前	水 5－6	服 部 健 司	2	選		西洋哲学にも表街道と裏街道がある。プラトン以来の正統派は、理性の力を強調する表街道。この授業では裏街道の里程表となる哲学書の中から、ハイデガー『形而上学入門』の第一部前半を選んで講読する。哲学の専門用語がほとんど使われていないのに、独力ではまず読めない本だが、ひとたび読むと心ゆさぶられ、頭を殴られたような衝撃と爽やかさを感じるだろう。
	歴史学	前	水 3－4	今 井 就 稔	2	選		海外に移住した中国人とその子孫である「華僑」に注目し、その歴史と現在を日本華僑の事例にも多く言及しながら考察する。
	ドイツ歌曲概説	前	水 3－4	山 崎 法 子	2	選		歴史に沿いながら、詩と音楽が織りなすドイツ歌曲の魅力に迫る。詩人、作曲家のアプローチ、詩と音楽の考察を通し、ドイツ歌曲の基本を獲得することを目標とする。各回、実例の鑑賞を行う予定。
	外国語としての日本語を教える	後	火 1－2	船 橋 瑞 貴	2	選		日本語を母語としない外国人に、日本語を教えるための知識や技術を学びます。また、日本語を学ぶ活動の実験を体験し、学んだ知識をもとに検討を行います。
	現代フランス哲学 レヴィナス講読	前	水 7－8	服 部 健 司	2	選		レヴィナスの初期の講演録『時間と他者』をゆっくりと講読する。レヴィナスは、わたしたちが存在していることの出口のなさの起点として、孤独、死、他者という人間の根本的な問題に正面から切り込んでいく。日常用語で書かれているのに生半可な知識があっても読めない、圧倒的な迫力をもち、異様なまでに濃厚なこの本を丹念に読むことで、考えるとはどういうことなのか、哲学するとはどういうことなのかを、手加減なしに示すことにしよう。

[教養教育科目]

科目区分：教養育成科目／授業科目：人文科学科目群

初
荒
年
次
牧

授業科目	授 業 題 目	学期	曜日・時間	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
人文科学科目群	言語としての 日本手話実践Ⅰ	前	水5-6	中野 聡子 下島 恭子 川端 伸哉 二神 麗子	1	選		重度の聴覚障害児・者とのコミュニケーションでは、手話や文字など、音声を介しない視覚的手段が必要となる。本講義では、日本語とは異なる言語体系を持つ日本手話について学ぶ。「言語としての日本手話Ⅰ」で学んだ基本的な構文と文法をもとに、日常生活全般の話題について日本手話でやりとりする力を深める。そのため、「言語としての日本手話Ⅰ」と併せて履修することを条件とする。
	哲学	前	水3-4	服部 健司	2	選		高校およびセンター試験に「倫理」という科目があって、学習の過程で哲学に関心をもつようになったという人は少なくない。けれども教科書も受験参考書も、なんという哲学者がなんという本の中でどんな言葉を使ったか、ということばかり書いている。これではまるで昆虫採集みたいだ。この時間は、虫ピンで留めた昆虫の死骸のような、そんな切れぎれの知識とはまったく無関係に、自分の頭で哲学をしてみる、つまり思ってもみない角度から問いを立てて考え抜く時間だ。ニーチェはこう書いている、「哲学とは、異常なことを異常な仕方で行うことである」。
	考古学	前	水7-8	桜岡 正信	2	選		目標：群馬県には日本の旧石器研究の端緒となった岩宿遺跡をはじめとして、古墳時代集落研究を大きく進展させた黒井峯遺跡や中筋遺跡、豊富な副葬品の発見された綿貫観音山古墳など、学史的にも貴重な遺跡が数多く存在している。また、最近では金井東裏遺跡の火山噴火に被災した「甲を着た古墳人」の発見など、全国の注目を集めた遺跡の調査も進められている。こうした代表的な遺跡の調査成果をもとに、旧石器時代から江戸時代までを通観し、群馬らしさの形成過程を考えていく。
	日本の倫理思想	後	水5-6	山内 春光	2	選		目標：日本の倫理思想・日本倫理思想史について考察する。 内容：「人間はどうあるべきか、どのように生きるべきか」という倫理学的問題が、日本においてどのように展開してきたかを探る。講義では、日本倫理思想史上重要な古典（今年度は『古事記』を予定している）をとりあげて、上記問題について考えていく。
	現代ドイツ哲学Ⅱ ニーチェ講読	後	水7-8	服部 健司	2	選		哲学と文学の間をゆくような本、ニーチェ『ツァラトゥストラ』を丁寧に読み合わせる。ツァラトゥストラは十年間山で孤独にひたり、いよいよ町に降りる。人びとに愛を、教えを与えようとする。「わたしは流れのほとりの一つの手すりだ。わたしにつかまることのできる者は、わたしにつかまれ！だが、わたしはきみたちの松葉杖ではない。」しかし人々はツァラトゥストラをあざけり笑う。それでも彼は説教をやめない。一中学・高校時代、わかりやすく加工されたテキストばかり読まされてきたみなさんに、ほんもののテキストを使って、ほんとうの本の読み方・味わい方・楽しみ方を教えよう。
	Classic音楽を聴く	後	水3-4	西田 直嗣	2	選		クラシック音楽についての概説 バロック以前から現代までの音楽作品を取り上げます。音楽の成り立ちや形式を知り、楽曲の持っている魅力に気づくことで音楽の本質を体感することを目指します。また、「発展」の視点で見れば行き場を失った現在の音楽文化が私たちの生活とどう結びつき、離れようとしているのか。新しく作られる音楽により私たちの「生」は豊かになるのかについて問いかけながら、その存在意義を追求します。

人
文

〔教養教育科目〕

科目区分：教養育成科目／授業科目：人文科学科目群

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
人文科学科目群	地誌学	後	水3-4	関戸 明子	2	選		地誌とは、ある地域の自然・社会・文化などの地理的特質を総合的に究明するものである。この講義では、中国を対象地域として、基本的な概説から具体的な事例による考察まで、幅広く取り上げる。
	近代日本の戦争と戦没者の歴史	後	水5-6	今井 昭彦	2	選		近代日本の歴史は「戦争の歴史」であるとも言える。そこで生み出された夥しい数の戦没者（戦死者・戦病死者など）の多くは、国家によって、東京九段の靖国神社（起源は明治2年創建の東京招魂社）に「カミ」として祀られていった。しかし、いわゆる「靖国問題」は現在においても、しばしば議論され続けている。一体、靖国神社とはどのような神社であり、近代日本の戦没者はどのように位置づけられていったのか。戦争と靖国神社との関係はどうであったのか。こうした点を視野に入れながら、近代日本における戦争と戦没者の歴史を辿ってみたい。
	言語としての 日本手話実践Ⅱ	後	水7-8	中野 聡子 下島 恭子 川端 伸哉 二神 麗子	1	選		重度の聴覚障害児・者とのコミュニケーションでは、手話や文字など、音声を介しない視覚的手段が必要となる。本講義では、日本語とは異なる言語体系を持つ日本手話について学ぶ。「言語としての日本手話Ⅱ」で学んだ基本的な構文と文法をもとに、社会生活全般の話題について日本手話でやりとりする力を深める。本講義は、「言語としての日本手話Ⅰ」「言語としての日本手話実践Ⅰ」が履修済みであることを条件とする。また、「言語としての日本手話Ⅱ」と併せて履修することを条件とする。
	言語としての 日本手話Ⅱ	後	火1-2	中野 聡子 下島 恭子 川端 伸哉 二神 麗子	1	選		重度の聴覚障害児・者とのコミュニケーションでは、手話や文字など、音声を介しない視覚的手段が必要となる。本講義では、日本語とは異なる言語体系を持つ日本手話について、基本的な構文と文法を習得することを目的とする。本講義は、「言語としての日本手話Ⅰ」「言語としての日本手話実践Ⅰ」が履修済みであることを条件とする。また、本講義で学んだ基本構文と文法を定着させるための演習を「言語としての日本手話実践Ⅱ」で行うため、2つの授業を併せて履修することを条件とする。
	比較芸術論	後	水3-4	菅生 千穂 林 耕史	2	選		音楽、美術など世界の芸術は、それぞれの文化的歴史的背景の前に多様な姿を示している。楽曲や美術作品など、ひとつのものに注目するのみではなく、いくつかの窓口を通して視聴比較することで、それらの特徴や魅力が浮き彫りになる。本講義では、古今東西の芸術から音楽を中心にいくつかの作品を抽出し、独自の観点で比較考察することで、それらの芸術的特質について分析を試みる。なお、各講義においてレポートを課す。
	平安時代の文学	後	金3-4	藤本 宗利	2	選		平安朝は女性たちの文学が開いた時代であった。本講義は、『蜻蛉日記』『枕草子』『紫式部日記』『和泉式部日記』など、当時の現実生活を描いた作品を中心に読むことで、平安文化のありように迫ろうという試みである。
	心理学的コミュニケーション論*	前	木3-4	柿本 敏克	2	選		人のコミュニケーション活動の諸様態を、主として（社会）心理学の視点から論じる。対人コミュニケーション、マスコミュニケーション、電子コミュニケーション、および集団コミュニケーションとしてのリーダーシップ研究を取り上げる。 *本講義は、社会情報学部の専門科目と同じなので、社会情報学部生は教養教育科目としては履修できません。

[教養教育科目]

科目区分：教養育成科目／授業科目：社会科学科目群

初
年
次
收

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
社会科学科目群	政治学入門	前	火 1－2	北村 純	2	選		日本近現代政治を歴史の相において考察する。平等・自由・平和の3軸に沿って民主政治の発展を概観しつつ、わたしたちにとって政治とは何かについて理解を深める。 明治期から現代まで、この国の民主政治の発展をデモクラシー論の文献（抜粋）や各種のデータ・資料を精査しながら考える授業となる。
	日本国憲法	前	火 5－6	齋藤 周	2	必	教育1 EA	憲法は何のためにあるのか？ 人権って何なのか？ こういった問への答を各自が見つけることを目標として、人権・平和・民主主義といった問題を検討する。これは、現代日本社会の（ひいては世界の）抱える課題を発見し、その解決の方向を模索することでもある。履修者が政治・経済・社会への認識を深め、社会の担い手として成長することを期待している。
	家族生活と法	前	火 7－8	前田 泰	2	選		目標：家族と法に関する基礎的な問題を考えることにより、法のあり方を理解する。抽象的な概念の理解力よりも、具体的な問題の解決能力を養成したい。 内容：次の順に講義する予定である。(1)家族一般（戸籍・氏名、家事紛争の解決方法、親族）、(2)夫婦（婚姻の成立要件、婚姻の無効・取り消し、婚姻の効果、夫婦別姓、離婚の成立、離婚の効果）、(3)親子（実親子関係の推定と否定：嫡出推定、嫡出否認、認知等）、(4)親権・後見・補佐、(5)扶養
	地理学	前	火 1－2	堤 純	2	選		地理学とくに人文地理学の諸分野とその基礎的概念、考え方、分析視点を理解する。地理学は歴史のある学問分野であると同時に、GPSやGISのように、最先端のITにも関わる先進的な学問でもある。この授業では、歴史、文化、都市、農村、交通、移民等々の現代的な事例を紹介しながら、地理学の視点から地域をみる目を養うことを目的とする。
	現代社会と法	後	火 7－8	竹嶋 千穂	2	選		公法の基本原則と現代社会における法の役割を考察する。国家の構造、基本的人権、行政過程の構造、司法の役割など、公的な市民生活に関係する法学上の基礎知識を、法的事象のケーススタディー的内容を通じ理解を深める。国家と市民との関係を学ぶ見取図を提供する概論的授業となる。
	国際政治学	前	水 7－8	野田 岳人	2	選		国際政治学に関する基礎的なテーマについて講義する。第一部は「国際政治の見方」、第二部は「国際連合」、第三部は「日本をめぐる国際関係」を取り上げる。講義では、国際政治上の諸問題の構造を理解するため、さまざまな理論や考え方を提示する。受講者はこうした国際関係の見方やアプローチ（接近法）を手がかりに、それらの問題についてさまざまな観点から検討し、自分の答えを導いてほしい。
	日本国憲法	前	木 3－4	藤井 正希	2	選		憲法は国家の根本法であり、国家のしくみを定めた法である。それゆえ、教養人たれんとする全ての者にとって、是非とも身につけておきたい分野の一つである。本講義においては、日本国憲法の基本概念、基本構造を概観することにより、日本国憲法の骨格を理解していく。その際には、典型的な判例の事案を多く取り上げ、受講者とともに考えていく。

社
会

〔教養教育科目〕

科目区分：教養育成科目／授業科目：社会科学科目群

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
社会科学科目群	教養の教育学	前	木3-4	村田 祥子	2	選		人は時の流れの中に社会とともにある。人間・社会・世界のあり方が問われている現代社会において、教育は全ての人々に関わる重要な課題である。個の存在、個の発達、個と社会について検討し、現在と未来の教育について考察する。
	情報法Ⅰ*	前	木3-4	松宮 広和	2	選		『情報法』の講義では、所謂『情報化社会』の進展によって発生してきた諸問題、特に1990年代以降のインターネット利用の発展と、それが社会にもたらしてきた法的問題に対する検討と解説を行います。『情報法』の講義は、前期に開講される『情報法Ⅰ』及び後期に開講される『情報法Ⅱ』から構成されます。 『情報法Ⅰ』では、まず、「情報」又は「知識」（これらの一部は「知的財産」という形で法的保護を受けることとなります）の価値が、近年急速に増大してきた背景について、歴史的視点を含めて法的考察を行います。このことは、公法・私法を含む既存の法制度の枠組みに対する理解を獲得する意味をも有します。その後、伝統的には「電気通信」（すなわち、「（狭義の）通信」）及び「放送」から構成されてきた「（広義の）通信」に関する法制度が、1990年代半ば以降のインターネットの普及によって、どの様に変貌を遂げつつあるのか、という問題について、考察を行います。伝統的には、法律学の分野において、『情報法』とは、すなわち、「メディア法」を中心とする法分野であると理解されてきました。インターネットが既存の法制度に与えてきた影響に対する考察を通じて、その様な伝統的な『情報法』分野で考察されてきた事項に対する理解を獲得します。『情報法Ⅰ』は、社会の情報化という現象を正しく理解し、後述する『情報法Ⅱ』を履修するに際しての基礎を獲得するという意味も有しています。 『情報法Ⅱ』では、インターネットの普及を中心とする近年における情報通信技術の発展が、我々の社会に与える影響に対して法的考察を行います。インターネットの普及は、社会に数多くの新たな法的問題を発生させてきました。その様な問題を個別に取り上げて解説を行います。具体的なテーマとしては、インターネットの誕生と発展、電気通信と放送の融合、情報化社会における事業規制のあり方、ネットワーク効果、デジタル・ディバイド、プロバイダーの法的責任、個人情報保護のあり方、インターネット上の企業活動と競争政策、情報法の国際的側面等を取り上げることを用意しています。『情報法Ⅱ』は、多くの大学で開講されている『知的財産法』の講義の内容（特にその発展領域の部分）と密接に関連しますので、可能ならば、前期に開講される『経済法・知的財産法Ⅱ』の講義も履修されることを強く推奨します。 *本講義は、社会情報学部専門科目と同じなので、社会情報学部生は教養教育科目としては履修できません。
	社会学入門	前	金3-4	伊藤 賢一	2	選		社会学という学問に触れることで、自分自身と、自分が生きている社会とのかかわりや社会の仕組みについて考えることを学ぶ授業。普段当然と思い自明視しているさまざまな社会現象や考え方を、相対化し、現にあるものとは異なる視点や考え方で見るための「方法」を学ぶ。

[教養教育科目]

科目区分：教養育成科目／授業科目：社会科学科目群

初
年
次
收

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
社会科学科目群	日本国憲法	前	火 7－8	岡田 大助	2	選		日本国憲法は、我が国における最高法規である。憲法を学習することは、法学を専攻する人のみならず、日本社会を構成するすべての人々にとって必要不可欠になる。本講義の目的は、履修者が憲法の全体像を体系的に修得することにある。より具体的には、憲法に対する輪郭を構築し、基本概念を理解し、そして法的思考力の素養を養うことである。
	社会学：アンケート入門	後	火 1－2	牧野 孝俊	2	選		Introduction to social research methods（社会研究法入門）をテーマとし、「アンケート」などの社会科学的な実証研究を行う際の方法論を扱います。あやしげな実証研究を見分ける力をつけるだけでなく、初歩的でも科学的な「アンケート」を企画・実施できるようにすることが目標です。
	日本国憲法	後	火 3－4	高橋 望	2	必	教育1 EB	目標：日本国憲法は国の基本法であり、最高法規です。本講義では、受講者が、現代日本社会のさまざまな問題を憲法の視角から捉えられるようになることを目指します。 内容：憲法に関する具体的な素材を題材にして、憲法の条文についての基本的な知識・解釈を講義します。
	生活経済政策＊	後	水 5－6	坂本 和靖	2	選		本講義では、「貧困」の定義や、その「貧困」者の捕捉方法、生活保護制度など社会保障制度の成り立ち・運用について論じ、政策的インプリケーションの観点から生活困窮者支援のあり方について、経済学的立場に則り考えていく。 ＊本講義は、社会情報学部専門科目と同じなので、社会情報学部生は教養教育科目としては履修できません。
	文化人類学	後	水 7－8	志村 真幸	2	選		本授業の目的は文化人類学の研究成果を通して、多様な価値観と地球規模の問題に対する視野を養うことである。そのために本授業では、文化人類学の中心的な調査方法であるフィールドワークとその成果である民族誌及び理論についての解説を行う。
	災害・環境と地理学	後	木 3－4	青山 雅史	2	選		さまざまな地図を用いながら、人間社会と自然との関係とその変遷、土地の生い立ちと自然災害との関係などについて学んでいく。
	日本国憲法	後	木 3－4	藤井 正希	2	選		憲法は国家の根本法であり、国家のしくみを定めた法である。それゆえ、教養人たらしめる全ての者にとって、是非とも身につけておきたい分野の一つである。本講義においては、日本国憲法の基本概念、基本構造を概観することにより、日本国憲法の骨格を理解していく。その際には、典型的な判例の事案を多く取り上げ、受講者とともに考えていく。
	教養の教育学	後	木 3－4	村田 祥子	2	選		人は時の流れの中に社会とともにある。人間・社会・世界のあり方が問われている現代社会において、教育は全ての人々に関わる重要な課題である。個の存在、個の発達、個と社会について検討し、現在と未来の教育について考察する。
	社会学との出会い	後	金 3－4	豊泉 周治	2	選		現代の日本社会の諸問題を具体的に検討しながら、社会学の方法と視角について基本的な認識を深めます。社会学の入門編です。目標は、doing sociology（社会学すること）。

社
会

〔教養教育科目〕

科目区分：教養育成科目／授業科目：自然科学科目群

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜日・時限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
自然科学科目群	雲と降水を伴う大気	後	火1－2	岩崎 博之	2	選		雲と降水に関わる身の回り的大気現象について、気象衛星で撮影された画像を「観」て、かつ、その現象が生じる原理を理解することが目標である。 内容は、1) 気象衛星画像（赤外・可視）の原理と見方 2) 雲・降水の形成過程 3) 雷の発生メカニズムなど。
	材料の化学	前	火1－2	京免 徹	2	選		私たちの身の回りには様々な材料から作られています。本講義では、いくつかの材料（半導体、セラミックス、液晶など）を取り上げ、これらの材料がどのような元素、分子、結晶から構成されているかを講義します。さらに、元素特性、分子構造、結晶構造および電子状態が材料の機能とどのように関連しているかについても解説します。
	生体分子化学	前	火1－2	尾崎 広明	2	選		化学で扱う分子同士の相互作用について、主に生体分子を題材として講義する。分子構造は、原子の結合により決まることを理解して、様々な分子の性質を学ぶ。また、これら分子の認識に関わる相互作用を学習する。さらに生体関連分子として医薬品の働きを見る。
	論理と計算	前	火1－2	岩井 淳	2	選		コンピュータサイエンスの基礎として、論理と計算について考える。AND, OR, NOT, EXORといった論理演算の基礎や対応する論理ゲート記法の学習から始めて、それらを組み合わせて加算等の初歩的計算を実現する方法を理解する。さらにカルノー図等を利用し、「計算」の概念についても理解を深めていく。
	生態系と環境	前	火7－8	西村 尚之	2	選		生物を取り巻く環境と生態系との関係を考察するために、生物個体・個体群・群集の特徴や、生物間相互作用、生態系の構造・機能を正しく理解することを目標とする。そこで、本講義では生態学に関する説明を通して、生物と環境との相互作用系である生態系に関する認識を深め、それらが生物の係わる様々な環境問題を解決する糸口になることを学修する。
	微生物学入門	前	水3－4	松本 竹久	2	選		微生物は私たちの身体や生活環境に潜んでおり、私たちの生活と密接にかかわっています。本講義では、まず微生物の特徴について説明した後、微生物と人間とのかかわりについて概説します。次に微生物が原因となる感染症について概説し、病原微生物に関する基礎知識を詳しく説明し、病気と微生物のかかわりについて理解を深めます。
	線形代数学入門	前	水7－8	都丸 正	2	選		この授業では行列やベクトル連立・一次方程式などを学びます。これらは数学の基礎でもあり、データ解析などを行う際の基礎でもあり、幅広い諸科学の基礎となる事柄です。主な内容として行列、行列式、階数、固有値などについて学びます。
	生命と地球の共進化	前	金3－4	野村 正弘	2	選		地球の変動と生命の進化は密接に関係しており、個別に論ずることはすべてが理解できない。そこで、地球変動の歴史と生命の歴史の双方を把握しつつ、生命進化を含めた総合的な地球変動のシステムを理解していく。さらに過去の事実から見出した法則性を使って、未来展望を試みる。

[教養教育科目]

科目区分：教養育成科目／授業科目：自然科学科目群

初
荒
年
次
牧

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
自然科学科目群	植物細胞学*	後	水 3－4	佐野 史	2	選		植物は、特徴的な構造や機能を持った植物細胞が、独特な組織および器官を形成することで、我々ヒトとは異なる形や生き方を実現している。そこで、植物細胞に特徴的な内部構造や分裂、伸長のしくみを概説し、それらの細胞によって実現される「植物らしい生き方」について理解を深める。 *本講義は、2019年度以前入学の教育学部生については教育学部の専門科目と同じなので、教養教育科目としては履修できません。2020年度以降入学の共同教育学部生は教養教育科目として履修できます。
	化学現象を司る原理	前	金 3－4	山田 圭一	2	選		本講義では、高等学校で学んだ基本的な有機化学反応を中心に、化合物の反応性や結合形成メカニズムを価電子の動きによって理解するための基礎的事項について演習を交えながら講義します。これにより様々な化学反応を「暗記」に頼らず「論理的」に理解・説明できるようになることを目指します。
	幾何学の歴史	後	火 1－2	山本 亮介	2	選		幾何学とは、ものの「形」を数学的に調べる学問である。本講義では、人類がこれまでに行ってきた幾何学的考察を順に辿ることで、それがどのように変革してきたかを追体験し、「形を調べる」ということの本質に迫ってゆく。
	方程式の話	後	水 3－4	照屋 保	2	選		目標：中学で習った2次方程式の解の公式のような代数的な解の公式が5次方程式にはないことを理解する。 概要：3次方程式、4次方程式の解の公式を紹介する。5次方程式には代数的な解の公式が存在しないことをできるだけ初等的に説明する。
	動物の分類と進化	後	水 5－6	上宮 英之	2	選		動物を中心に生命の多様性について、動物の主として門による体制、形態、発生、系統進化など学習する。 また脊椎動物について、特にヒトへ至る進化の過程を中心に、各グループの特徴などを解説する。
	微分積分学入門	後	水 7－8	福島 博	2	選		自然科学の基礎となる微分積分について、高校の数学Ⅲを含めてその主要な部分をコンパクトに講義する。また、計算を通して内容が理解できるよう演習を行う。 1. 微分：合成関数の微分、逆三角関数、テイラーの定理、偏微分、極値問題、陰関数 2. 積分：置換積分法、有理関数の積分、重積分とその応用
	高次脳機能と生理計測	後	木 3－4	豊村 暁	2	選		ヒトの脳機能に関係する最新の研究を学ぶ。文献を元に脳の基本的な解剖について学び、高次脳機能に関する英語の原著論文を読み込む。後半は実習を計画している。
	フーリエ解析入門	後	木 3－4	渡辺 秀司	2	選		音波、心臓の鼓動、電磁波などの振動現象の分析にフーリエ解析は大きな効果を発揮する。授業ではフーリエ解析として、フーリエ級数、フーリエ変換と呼ばれる2つの手法の基本について学ぶ。三角関数とその微積分とについて習熟していることが望ましい。

自
然

[教養教育科目]

科目区分：教養育成科目／授業科目：健康科学科目群

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
健康科学科目群	かしこく健康に生きる	前	水 3－4	田村 達一 小和瀬桂子 佐藤 浩子 堀口 昇男	2	選		日標：医学・医療に対する一般常識を習得し、自分および周囲の人々の健康を守るための知恵について討論を通して問題点を把握し、自分なりの解決策について考察する。自身の健康管理に役立てるだけでなく、医学・医療に伴う様々な課題についての学修意欲を高めることも日標の一つである。 概要：比較的身近な医学・医療についてテーマを設定し、毎時間ごとに講義を行う。取り上げるテーマについては、最初の授業でオリエンテーションを行い、出席学生にいくつかのテーマを提示し、投票してもらう。要望が多かったもの、および基本的に知っておくべきテーマを毎年更新して講義を実施している。また、3、4回に一度、学生討論時間を設けて、小グループ単位で定められたテーマについて討論を行い、各グループの討論内容を全体集会で発表する。これを通して、同じテーマについても、それぞれの学生で異なった解釈があることを学ぶ。また、毎回授業時間の最後にミニレポートを書いて提出してもらい、後日コメントをつけて返却する。一人一人の学生と教員の意思疎通をはかり、個々の学生の学修指導にも心がけている。なお、期末テストは実施せず、代わりに中間、期末レポートの提出を義務づけている。
	身近な医学Ⅰ	前	金 3－4	齋藤 繁	2	選		大学附属病院の第一線で活躍する各科医師（教授、准教授、講師）が、各分野において一般市民の関心が高い疾患や健康関連のトピックスを取り上げ、平易に解説する。テレビ、インターネットなどが提供する情報は玉石混交である。学生のみなさんと一緒に身近な問題から最新の医学事情を読み解き、理解することがこの講義の目的である。
	知っておきたい肺とアレルギーの話	後	火 1－2	久田 剛志	2	選		人体の巧妙な仕組みと各種疾患が発症するメカニズムを理解することはいろいろな学部の専門教育にも通じるところがある。また、自己の健康管理にも役立つものである。肺は、酸素を取り込む臓器であり、常に外界（周りの空気）と触れ合っているため、多くの病気がおこりえる。アレルギーを含めた呼吸器の疾患について、医療関係者のみならず、皆が知っておきたい肺とアレルギーの知識についてやさしく解説する。教養教育の科目であるため、専門知識がなくても理解できるレベルとしている。
	チーム医療	後	火 7－8	松井 弘樹 (他)	2	選		保健・医療・福祉の歴史と今日のサービスシステムの変遷について解説する。更に今日のチーム医療・福祉サービスがどのように提供され活用されているか解説するとともに各専門職の役割と将来的な発展の方向性について up to date な話題をオムニバス形式で提供する。
	脳の科学	後	水 3－4	宮田 茂雄 柳川右千夫 石崎 泰樹	2	選		脳は、百億個以上の神経細胞から構成される巨大な情報処理器官であり、認知、思考、感情、意志などの複雑な高次精神機能を司る。これらの脳の機能について、遺伝子レベルや細胞レベルから解説する。また、脳の発生についても簡易に説明する。さらに、精神・神経疾患の病態や治療法についても合わせて考察する。

[教養教育科目]

科目区分：教養育成科目／授業科目：健康科学科目群

初
年
次
牧

授業科目	授 業 題 目	学期	曜日・時限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
健康科学科目群	こころとからだの健康	後	水3-4	近藤 浩子 柳 奈津子	2	選		こころとからだは相互に関係している。からだに不調があれば気分が沈む。一方、不安や緊張といったこころの変調があれば頭痛や不眠が起こる。このような心身相関のメカニズム、すなわちストレスとは何か、ストレスはこころとからだにどう影響するのかを、本授業では具体的に考えていく。そして、こころとからだを癒す方法、ストレス対処法として自分に合う方法を見つけ、自らの健康を保つ力を育めるよう学習を進める。
	神経心理学の歩み	後	水3-4	村田 祥子	2	選		心から脳へ。脳から心へ。 神経心理学は、学際的領域として多くの人たちの関心を集めてきた。心から脳を、脳から心をつめてきたのが神経心理学である。心理過程の破壊のさまざまなかたちを対象とした研究から、神経心理学は人間の心理過程への接近を試みてきた。ここでは、神経心理学の歴史を辿り、その中でこの領域の基礎的なことがらを紹介する。
	これから始める 健康管理	後	木3-4	池田 佳生	2	選		わが国は世界でも類を見ない高齢化社会を迎えている。しかし社会構造の変化や新たな疾病の登場などに伴い、今後さらに平均寿命の延長が続くのか、さらには現代の若者が、現在の高齢者ほどの長寿を全うできるかは定かではない。若いうちからの健康管理が重要である。本授業では生活習慣病など、若年者の健康にも関わる問題を掘り下げて考えたい。
	がん予防・治療・ケア	後	木3-4	二渡 玉江 (他)	2	選		国・県のがん政策、がん発病にいたるメカニズムと主な治療、がんを予防する生活習慣を学習する。また、がん化学療法を受ける患者の副作用症状、手術を受けた患者の身体・心理的变化を知り、がん治療におけるセルフマネジメントを理解する。さらに緩和ケア・ホスピスケアについての知識を深め、がん医療・ケアについて考える。
	推理する医学	後	木3-4	林 邦彦	2	選		集団を対象とした疫学という研究法による予防や治療の評価について解説する。日常的にテレビや新聞などで健康に関する多くの情報に接する。これら健康に関するさまざまな情報を科学的に吟味して、正しく取捨選択できるようになることを目標とする。
	心と脳の健康管理	後	木3-4	山崎 恆夫 菊地千一郎	2	選		心と脳の健康管理に関する話題として、1) 不眠、うつ状態、アルコール依存、妊娠・出産に伴う女性の精神生理、拒食・過食などを精神医学的観点から解説する。2) また脳の健康を維持するために必要な注意を、脳卒中、脳症、治療できる認知症など生活習慣に伴う脳の病気の病態と予防を通じて解説する。
	多文化共生と 心のケア	後	金3-4	任 龍在	2	選		多文化共生社会 (Multicultural Symbiotic Societies) とは、国籍、民族、文化、言語などの違いを認め、社会構成員・人ひとりが自分らしく生きる社会である。本授業では、在日外国人の子どもが抱えている心の問題について説明した上で、それらの問題を解決するための心理教育的アプローチについて考える。特に、在日外国人の子どものアイデンティティ形成過程に着目し、子どもの精神的健康を保つための「心のケア」について講義する。

健
康

[教養教育科目]

科目区分：教養育成科目／授業科目：健康科学科目群

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜日・時限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
健康科学科目群	医学と社会	後	金3-4	田村 達一 小和瀬桂子 佐藤 浩子 堀口 昇男	2	選		目標：医学・医療に対する一般常識を習得し、社会における医学・医療の役割について討論を通して問題点を把握し、自分なりの解決策について考察する。自身の健康管理に役立てるだけでなく、医学・医療に伴う様々な課題についての学習意欲を高めることも目標の一つである。 概要：比較的身近な医学・医療について、主に社会との関わりを中心にテーマを設定し、毎時間ごとに講義を行う。取り上げるテーマについては、最初の授業でオリエンテーションを行い、出席学生にいくつかのテーマを提示し、投票してもらう。要望が多かったもの、および基本的に知っておくべきテーマを毎年更新して講義を実施している。また、2、3回に一度、学生討論時間を設けて、小グループ単位で定められたテーマについて討論を行い、各グループの討論内容を全体集会で発表する。これを通して、同じテーマについても、それぞれの学生で異なった解釈があることを学ぶ。また、毎回授業時間の最後にミニレポートを書いて提出してもらい、後日コメントをつけて返却する。一人一人の学生と教員の意思疎通をはかり、個々の学生の学修指導にも心がけている。なお、期末テストは実施せず、代わりに中間、期末レポートの提出を義務づけている。

〔教養教育科目〕

科目区分：教養育成科目／授業科目：外国語教養科目群

〔外国語教養科目群の履修方法〕

履修方法

- 1) 履修手引の「Ⅱ3履修基準・履修方法」および「別表」をよく読むこと。ただし、「選択英語」以外の外国語教養科目は、学部・学科等によって履修方法・単位数が異なるので注意すること。
- 2) 履修希望者が40名を超える場合は、抽選により人数制限を行うことがある。抽選に際しては、担当教員の指示および教務システムや掲示に従うこと。
- 3) 「選択英語」履修希望者は第1回目の授業に必ず出席すること。「選択英語」以外の外国語教養科目履修希望者は、第1回目の授業に出席する前に教務システムや掲示をよく見ること。
- 4) 「選択英語A」①②は通年で履修することが望ましい。
- 5) 「選択英語」以外の外国語教養科目は、同一教員が担当する同一授業題目の授業ⅠとⅡを通年で履修すること。
- 6) 「選択英語」以外の外国語教養科目は、母語話者の履修を原則としてみとめない。

クラス分け

「選択英語」以外の外国語教養科目履修者は、「授業クラス」欄および別紙「授業時間割表」を参照し正しいクラスで受講すること。

再履修

- 1) 共同教育学部、社会情報学部および2017年度以前に入学した医学部医学科の学生で、「選択英語」以外の外国語教養科目が不合格となった場合は、原則として同一の授業を次年度以降に再履修しなければならない。
- 2) 共同教育学部、社会情報学部および2017年度以前に入学した医学部医学科の再履修学生で、やむを得ない理由で同一の授業を受けられない学生は、担当教員の許可を得て他の学部・学科の同一授業題目の授業を再履修することができる。

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
外国語教養科目群	ドイツ語基礎Ⅰ	前	月3-4	小林 大志	1	㊤	教 EA	ドイツ語の初級文法を学び、ドイツ語を読み・書き・聞き・話すための基礎を身につける。その際、単に文法事項の説明を聞いて暗記するのではなく、練習問題や演習課題を通じて、能動的な学びをうながす。
	ドイツ語基礎Ⅱ	後	月3-4	小林 大志	1	㊤	教 EA	「ドイツ語基礎Ⅰ」に引き続き、ドイツ語の初級文法について学び、ドイツ語の初級文法の学習を一通り終える。
	ドイツ語基礎実践Ⅰ	前	火3-4	田中 一嘉	1	㊤	教 EA	初級文法をゼロから学びながら、自然で日常的なドイツ語に多く触れることで、ドイツ語を読み・書き・聞き・話すためのごく初歩的な能力を身につける。アルファベットから始めて、基本的な発音規則、初級語彙、動詞の現在人称変化、名詞の格変化、基本語順など、ドイツ語を用いるうえで必要な手立ての基礎中の基礎を、より実践的な演習を通じて経験的に学習してゆく。同時にドイツ語圏の事情や文化も紹介し、それらにまず慣れ親しむことを目指す。
	ドイツ語基礎実践Ⅱ	後	火3-4	田中 一嘉	1	㊤	教 EA	「ドイツ語基礎実践Ⅰ」の学習に継続して、より幅の広いドイツ語運用能力の獲得を目指す。これまでの学習を踏まえ、助動詞構文、過去時制、完了相、受動、関係文、接続法などを学習し、初級の範囲ではあるがやや複雑でより総合的なドイツ語の理解力・表現力を身につける。その際、なるべく自然で実際の言語材料を用いた演習を多く行い、より実践的な能力の向上を図る。同時に、ドイツ語圏の言語文化に関する情報に触れる機会を増やし、それらに対する理解も深める。

〔教養教育科目〕

科目区分：教養育成科目／授業科目：外国語教養科目群

授業科目	授 業 題 目	学期	曜日・時限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 目 標 ・ 内 容 な ど
外国語教養科目群	ドイツ語基礎Ⅰ	前	火５－６	出中 一嘉	1	㊥	教 EB	ドイツ語初級文法を概観的に学習する。個々の文法事項をバラバラにただ暗記するのではなく、多くの練習問題を通じて、それぞれの文法現象の持つ意味や、他の文法現象との相互関連性に着目しながら、ドイツ語のもつ構造的合理性を理解してゆく。
	ドイツ語基礎Ⅱ	後	火５－６	田中 一嘉	1	㊥	教 EB	前期のつづき。より総合的視野で、ドイツ語の構造の全体像を理解する。
	ドイツ語基礎実践Ⅰ	前	月５－６	小林 大志	1	㊥	教 EB	初級文法をゼロから学びながら、自然で日常的なドイツ語に多く触れることで、ドイツ語の初級文法を学び、ドイツ語を読み・書き・聞き・話すための初歩的な能力を身につける。アルファベットから始まり、発音と綴り字の規則や初級語彙、動詞の現在人称変化、名詞の格変化など、ドイツ語を用いる上で必要な手立ての基礎中の基礎を、より実践的な演習を通じて学習していく。同時に、ドイツ語圏の文化的な事情にも慣れ親しむ。
	ドイツ語基礎実践Ⅱ	後	月５－６	小林 大志	1	㊥	教 EB	「ドイツ語基礎実践Ⅰ」に引き続き、実践的な演習を通じて、より幅広いドイツ語運用能力の獲得を目指す。また、ドイツ語圏の文化的な事情に触れる機会を増やし、それらに対する理解も深める。
	ドイツ語基礎Ⅰ	前	水１－２	荒木 詳二	1	㊥	社	目標：発音から始めて一から文法を学んでいく。ドイツ語の文法上の規則性から、辞書の引き方を含め、一年後には辞書を片手にドイツ語の文章が十二分に理解できるように、学習していく。
	ドイツ語基礎Ⅱ	後	水１－２	荒木 詳二	1	㊥	社	後期は助動詞・完了形・受動態・関係代名詞などを学ぶ。
	ドイツ語基礎実践Ⅰ	前	月１－２	荒木 詳二	1	㊥	社	初級文法をゼロから学びながら、自然で日常的なドイツ語に多く触れることで、ドイツ語を読み・書き・聞き・話すためのごく初歩的な能力を身につける。アルファベットから始めて、基本的な発音規則、初級語彙、動詞の現在人称変化、名詞の格変化、基本語順など、ドイツ語を用いるうえで必要な手立ての基礎中の基礎を、より実践的な演習を通じて経験的に学習してゆく。同時にドイツ語圏の事情や文化も紹介し、それらにまず慣れ親しむことを目指す。
	ドイツ語基礎実践Ⅱ	後	月１－２	荒木 詳二	1	㊥	社	「ドイツ語基礎実践Ⅰ」の学習に継続して、より幅の広いドイツ語運用能力の獲得を目指す。これまでの学習を踏まえ、助動詞構文、過去時制、完了相、受動、関係文、接続法などを学習し、初級の範囲ではあるがやや複雑でより総合的なドイツ語の理解力・表現力を身につける。その際、なるべく自然で実際の言語材料を用いた演習を多く行い、より実践的な能力の向上を図る。同時に、ドイツ語圏の言語文化に関する情報に触れる機会を増やし、それらに対する理解も深める。

[教養教育科目]

科目区分：教養育成科目／授業科目：外国語教養科目群

初
荒
年
次
牧

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 目 標 ・ 内 容 な ど
外国語教養科目群	ドイツ語基礎Ⅰ	前	火3-4	糸瀬 龍	1	選	医	初級文法をゼロから学び、ドイツ語の基本的な構造を理解するための第1歩を踏み出す。そのことを通じて、ドイツ語を読み・書き・聞き・話すための、ごく初歩的な能力をはぐくむ。この際、文法を単に知識として理解するだけでなく、多くの演習課題を通じて、文法が少しでも身につくよう、より能動的な学習を目指す。「ドイツ語基礎Ⅰ」では、アルファベットから始まり、基本的な発音の規則、動詞の人称変化、名詞の格変化、基本的な文の語順など、初級文法の中でも基礎中の基礎を学び、後期に開講される「ドイツ語基礎Ⅱ」へとつなげる。
	ドイツ語基礎Ⅱ	後	火3-4	糸瀬 龍	1	選	医	「ドイツ語基礎Ⅰ」での学習に継続して初級文法を学ぶ。これまでの学習を踏まえて、助動詞構文、過去時制、完了相、受動、関係文、接続法などを学習し、ドイツ語の初級文法の学習を一通り終える。その際、個々の文法事項を羅列的に理解するのではなく、それぞれの文法事項の持つ意味や既習の文法項目との相互関連性に目を向け、ドイツ語の基本的構造の全体像が把握できるようになる。同時に、多くの演習課題を通じて、学習した文法知識を総合的に用い、ドイツ語を読み・書き・聞き・話す能力の幅を広げる。
	ドイツ語基礎実践Ⅰ	前	水5-6	荒木 詳二	1	選	医	初級文法をゼロから学びながら、自然で日常的なドイツ語に多く触れることで、ドイツ語を読み・書き・聞き・話すためのごく初歩的な能力を身につける。アルファベットから始まって、基本的な発音規則、初級語彙、動詞の現在人称変化、名詞の格変化、基本語順など、ドイツ語を用いるうえで必要な手立ての基礎中の基礎を、より実践的な演習を通じて経験的に学習してゆく。同時にドイツ語圏の事情や文化も紹介し、それらにまず慣れ親しむことを目指す。
	ドイツ語基礎実践Ⅱ	後	水5-6	荒木 詳二	1	選	医	「ドイツ語基礎実践Ⅰ」の学習に継続して、より幅の広いドイツ語運用能力の獲得を目指す。これまでの学習を踏まえ、助動詞構文、過去時制、完了相、受動、関係文、接続法などを学習し、初級の範囲ではあるがやや複雑でより総合的なドイツ語の理解力・表現力を身につける。その際、なるべく自然で実際の言語材料を用いた演習を多く行い、より実践的な能力の向上を図る。同時に、ドイツ語圏の言語文化に関する情報に触れる機会を増やし、それらに対する理解も深める。
	ドイツ語基礎Ⅰ	前	木5-6	二瓶 尚	1	選	保AB	英語との違いを考えながら、できるだけ早くかつ確実にドイツ語の基本を修得し、やさしい会話、読解、作文ができるようになればと思っています。負担にならない程度の課題を出します。楽しくやりましょう。
	ドイツ語基礎Ⅱ	後	木5-6	二瓶 尚	1	選	保AB	ドイツ語の基本を修得した後、それを用いながら、さまざまな表現練習をする予定です。前期同様、出席者には簡単な課題を出します。
	ドイツ語基礎Ⅰ	前	木5-6	田中 一嘉	1	選	保CD	文法の基本を学びながら、具体的に現実的なテキストを用い、基礎的な読解力と表現力を身につける。とくに発音や語彙に力点を置く。
	ドイツ語基礎Ⅱ	後	木5-6	田中 一嘉	1	選	保CD	前期のつづき。より総合的視野で、ドイツ語の構造的な合理性をかいま見る。

外
語

[教養教育科目]

科目区分：教養育成科目／授業科目：外国語教養科目群

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 目 標 ・ 内 容 な ど
外国語教養科目群	ドイツ語基礎Ⅰ	前	金 3－4	荒木 詳二	1	選	理工 CB/ES	初級文法をゼロから学び、ドイツ語の基本的な構造を理解するための第1歩を踏み出す。そしてそのことを通じて、ドイツ語を読み・書き・聞き・話すための、ごく初歩的な能力をはぐくむ。その際、単に文法を知識として理解するだけではなく、多くの練習問題や演習課題を通じて、それらが少しでも身につくように、より能動的な学習を促す。アルファベットから始まり、基本的な発音の規則、動詞の人称変化、名詞の格変化、基本的な文の語順など、初級文法の中でも基礎中の基礎を学び、後期に開講される「ドイツ語基礎Ⅱ」へとつなげてゆく。
	ドイツ語基礎Ⅱ	後	金 3－4	荒木 詳二	1	選	理工 CB/ES	「ドイツ語基礎Ⅰ」での学習に継続して初級文法を学ぶ。これまでの学習を踏まえて、助動詞構文、過去時制、完了相、受動、関係文、接続法などを学習し、ドイツ語の初級文法の学習を一通り終える。その際、個々の文法事項を羅列的に理解するのではなく、それぞれの文法事項の持つ意味や既習の文法項目との相互関連性に目を向け、ドイツ語の基本的構造の全体像が把握できるように取り計らう。同時に、多くの練習問題や演習課題を通じ、学習した文法知識を総合的に用いて、ドイツ語を読み・書き・聞き・話す能力の幅を広げてゆく。
	ドイツ語基礎実践Ⅰ	前	水 7－8	二瓶 尚	1	選	理工 CB/ES	テキスト以外の練習問題も解きながら、できるだけ早くかつ確実にドイツ語の基本を修得し、その上で、自己紹介、注文の仕方、道案内などのやさしい会話を身に付けてもらいたいと思います。負担にならない程度の課題を出します。
	ドイツ語基礎実践Ⅱ	後	水 7－8	二瓶 尚	1	選	理工 CB/ES	ドイツ語の基本を修得した後、それをを用いながら、さまざまな表現練習をする予定です。前期同様、出席者には簡単な課題を出します。
	ドイツ語基礎Ⅰ	前	火 1－2	糸瀬 龍	1	選	理工 MS/EI	初級文法をゼロから学び、ドイツ語の基本的な構造を理解するための第1歩を踏み出す。そのことを通じて、ドイツ語を読み・書き・聞き・話すための、ごく初歩的な能力をはぐくむ。この際、文法を単に知識として理解するだけではなく、多くの演習課題を通じて、文法が少しでも身につくよう、より能動的な学習を目指す。「ドイツ語基礎Ⅰ」では、アルファベットから始まり、基本的な発音の規則、動詞の人称変化、名詞の格変化、基本的な文の語順など、初級文法の中でも基礎中の基礎を学び、後期に開講される「ドイツ語基礎Ⅱ」へとつなげる。
	ドイツ語基礎Ⅱ	後	火 1－2	糸瀬 龍	1	選	理工 MS/EI	「ドイツ語基礎Ⅰ」での学習に継続して初級文法を学ぶ。これまでの学習を踏まえて、助動詞構文、過去時制、完了相、受動、関係文、接続法などを学習し、ドイツ語の初級文法の学習を一通り終える。その際、個々の文法事項を羅列的に理解するのではなく、それぞれの文法事項の持つ意味や既習の文法項目との相互関連性に目を向け、ドイツ語の基本的構造の全体像が把握できるようになる。同時に、多くの演習課題を通じて、学習した文法知識を総合的に用い、ドイツ語を読み・書き・聞き・話す能力の幅を広げる。

[教養教育科目]

科目区分：教養育成科目／授業科目：外国語教養科目群

初
年
次
牧

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 クラス	授 業 目 標 ・ 内 容 な ど
外国語教養科目群	ドイツ語基礎実践Ⅰ	前	水5-6	二瓶 尚	1	選	理工 MS/EⅠ	テキスト以外の練習問題も解きながら、できるだけ早くかつ確実にドイツ語の基本を修得し、その上で、自己紹介、注文の仕方、道案内などのやさしい会話を身に付けてもらいたいと思います。負担にならない程度の課題を出します。
	ドイツ語基礎実践Ⅱ	後	水5-6	二瓶 尚	1	選	理工 MS/EⅠ	ドイツ語の基本を修得した後、それを用いながら、さまざまな表現練習をする予定です。前期同様、出席者には簡単な課題を出します。
	フランス語基礎Ⅰ	前	火3-4	北村 真澄	1	㊥	教 EA	「使えるフランス語」を目標とする。先ずフランス語の発音に慣れ、音と綴りの関係を学び、文法の基礎が少しずつ身につくよう授業を進める。教科書で学んだ知識をすぐに活用できるよう、練習を中心とする。
	フランス語基礎Ⅱ	後	火3-4	北村 真澄	1	㊥	教 EA	前期の続き。
	フランス語基礎実践Ⅰ	前	月3-4	三原 智子	1	㊥	教 EA	初歩的な会話力と読解力をつけることを目標とする。講読中心の授業であるが、発音、聞き取りの指導も行い、総合的なフランス語理解を目指す。
	フランス語基礎実践Ⅱ	後	月3-4	三原 智子	1	㊥	教 EA	前期の続き。
	フランス語基礎Ⅰ	前	月5-6	三原 智子	1	㊥	教 EB	授業では文法の説明や練習の他に、CD等を参照し、聞き取り・発音の練習を行い、フランス語の理解に役立てる。
	フランス語基礎Ⅱ	後	月5-6	三原 智子	1	㊥	教 EB	前期の続き。
	フランス語基礎実践Ⅰ	前	火5-6	北村 真澄	1	㊥	教 EB	初級文法事項の確認を行いつつ、「使えるフランス語」を目標に会話表現を主体とした学習を行う。併せて、聞き取り、発音の練習を行い、フランス語の理解に役立てる。
	フランス語基礎実践Ⅱ	後	火5-6	北村 真澄	1	㊥	教 EB	前期の続き。
	フランス語基礎Ⅰ	前	金3-4	佐藤 公彦	1	㊥	社	とにかく複雑と言われているフランス語文法を入門から初級修了まで可能な限り分かり易く指導します。また、実用フランス語技能検定試験（5級・4級）対策を行います。
	フランス語基礎Ⅱ	後	金3-4	佐藤 公彦	1	㊥	社	前期の続き。
	フランス語基礎実践Ⅰ	前	水1-2	三原 智子	1	㊥	社	初歩的な会話力と読解力をつけることを目標とする。講読中心の授業であるが、発音、聞き取りの指導も行い、総合的なフランス語理解を目指す。
	フランス語基礎実践Ⅱ	後	水1-2	三原 智子	1	㊥	社	前期の続き。
	フランス語基礎Ⅰ	前	火3-4	三原 智子	1	選	医	初級文法事項を学びながら、フランス語の文章を読み、フランス文化に触れることを目標とする。
	フランス語基礎Ⅱ	後	火3-4	三原 智子	1	選	医	前期の続き。

外
語

[教養教育科目]

科目区分：教養育成科目／授業科目：外国語教養科目群

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 クラス	授 業 目 標 ・ 内 容 な ど
外国語教養科目群	フランス語基礎実践Ⅰ	前	水3-4	佐藤 公彦	1	選	医	文法を正確に理解しながら、フランス語の会話表現と発音を中心に学習します。新しい言語と文化を知る知的喜びを味わって下さい。 実用フランス語技能検定試験対策も行います。
	フランス語基礎実践Ⅱ	後	水3-4	佐藤 公彦	1	選	医	前期の続き。
	フランス語基礎Ⅰ	前	木5-6	辻村 永樹	1	選	保	初めてフランス語を学ぶ学生を対象とします。文法の暗記だけでなく、それを取り入れた表現を練習し、CDなどを利用して実際の会話に応用できるようにします。授業の進度に心じて、適宜フランスの音楽や映画なども紹介します。
	フランス語基礎Ⅱ	後	木5-6	辻村 永樹	1	選	保	
	フランス語基礎Ⅰ	前	火1-2	北村 真澄	1	選	理工	「使えるフランス語」を目標とする。先ずフランス語の発音に慣れ、音と綴りの関係を学び、文法の基礎が少しずつ身につくよう授業を進める。教科書で学んだ知識をすぐに活用できるよう、練習を中心とする。
	フランス語基礎Ⅱ	後	火1-2	北村 真澄	1	選	理工	前期の続き。
	フランス語基礎実践Ⅰ	前	木3-4	佐藤 公彦	1	選	理工	簡単なフランス語講読と文法、発音を総合的に教えます。新しい言語と文化を知る知的喜びを味わって下さい。実用フランス語技能検定試験対策も行います。
	フランス語基礎実践Ⅱ	後	木3-4	佐藤 公彦	1	選	理工	前期の続き。
	中国語基礎Ⅰ	前	月3-4	小澤 光恵	1	㊤	教 EA	正確な発音の基礎的な習得を目指して、まずは中国語の音声を表記したローマ字（ピンイン）の習得を図る。本文の読解と練習問題の繰り返し学習を通して基本的な文法を確実に把握し単語を暗記する。中国の文化や社会背景を多少なりとも理解し、関心を持ち、中国語を使って簡単な表現ができるようにする。
	中国語基礎Ⅱ	後	月3-4	小澤 光恵	1	㊤	教 EA	前期に続き正確な発音の習得を目指す。本文の読解と練習問題を通して基本的な文法を把握する。中国の文化や社会背景を多少なりとも理解し、中国語を使って更に豊かな表現ができる力を養う。
外 語	中国語基礎Ⅰ	前	火5-6	小澤 光恵	1	㊤	教 EB	正確な発音の基礎的な習得を目指して、まずは中国語の音声を表記したローマ字（ピンイン）の習得を図る。本文の読解と練習問題の繰り返し学習を通して基本的な文法を確実に把握し単語を暗記する。中国の文化や社会背景を多少なりとも理解し、関心を持ち、中国語を使って簡単な表現ができるようにする。
	中国語基礎Ⅱ	後	火5-6	小澤 光恵	1	㊤	教 EB	前期に続き正確な発音の習得を目指す。本文の読解と練習問題を通して基本的な文法を把握する。中国の文化や社会背景を多少なりとも理解し、中国語を使って更に豊かな表現ができる力を養う。

[教養教育科目]

科目区分：教養育成科目／授業科目：外国語教養科目群

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 目 標 ・ 内 容 な ど
外国語教養科目群	中国語基礎Ⅰ	前	火7-8	小澤 光恵	1	選	理工	正確な発音の基礎的な習得を目指して、まずは中国語の音声を表記したローマ字（ピンイン）の習得を図る。本文の読解と練習問題の繰り返し学習を通して基本的な文法を確実に把握し単語を暗記する。中国の文化や社会背景を多少なりとも理解し、関心を持ち、中国語を使って簡単な表現ができるようにする。
	中国語基礎Ⅱ	後	火7-8	小澤 光恵	1	選	理工	前期に続き正確な発音の習得を目指す。本文の読解と練習問題を通して基本的な文法を把握する。中国の文化や社会背景を多少なりとも理解し、中国語を使って更に豊かな表現ができる力を養う。
	中国語基礎実践Ⅰ	前	火3-4	小澤 光恵	1	㊥	教 EA	正確な発音の基礎的な習得を目指して、まずは中国語の音声を表記したローマ字（ピンイン）の習得を図る。聴くこと・話すことに重点を置いて反復練習を行い、学習項目の確実な定着を図る。音声によるコミュニケーションができる力を養い、簡単な会話を習得する。
	中国語基礎実践Ⅱ	後	火3-4	小澤 光恵	1	㊥	教 EA	前期に続きローマ字（ピンイン）の習得を図る。反復練習を通して学習項目の確実な定着を目指す。音声によるコミュニケーション力を更に向上させる。
	中国語基礎実践Ⅰ	前	月5-6	小澤 光恵	1	㊥	教 EB	正確な発音の基礎的な習得を目指して、まずは中国語の音声を表記したローマ字（ピンイン）の習得を図る。聴くこと・話すことに重点を置いて反復練習を行い、学習項目の確実な定着を図る。音声によるコミュニケーションができる力を養い、簡単な会話を習得する。
	中国語基礎実践Ⅱ	後	月5-6	小澤 光恵	1	㊥	教 EB	前期に続きローマ字（ピンイン）の習得を図る。反復練習を通して学習項目の確実な定着を目指す。音声によるコミュニケーション力を更に向上させる。
	中国語基礎Ⅰ	前	月1-2	桑原奈智子	1	㊥	社	本授業では、漢語（中国語）の標準語である「普通話」を学ぶ。拼音と呼ばれる中国語表音ローマ字の学習を終えた後は、文法事項の学習を中心に、会話や読解も含め、総合的に基礎固めをしていく。一方、中国文化や中国事情などについても適宜紹介し、言語だけではなく、中国ひいては漢字文化圏への興味を喚起したい。
	中国語基礎Ⅱ	後	月1-2	桑原奈智子	1	㊥	社	前期（中国語基礎Ⅰ）の続き。文法事項を中心に、会話や読解も含め、総合的にステップアップを図っていく。一方、中国文化や中国事情などについても適宜紹介し、言語だけではなく、中国ひいては漢字文化圏への更なる興味を喚起したい。
	中国語基礎実践Ⅰ	前	水1-2	劉 森	1	㊥	社	発音、初級の文法など、中国語の基礎知識を学ぶ。オーラルコミュニケーションに重点を置いた教科書を用い、実践的な演習を行う。
	中国語基礎実践Ⅱ	後	水1-2	劉 森	1	㊥	社	前期（中国語基礎実践Ⅰ）の続き。発音、初級の文法など、中国語の基礎知識を学ぶ。オーラルコミュニケーションに重点を置いた教科書を用い、実践的な演習を行う。

[教養教育科目]

科目区分：教養育成科目／授業科目：外国語教養科目群

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 目 標 ・ 内 容 な ど
外国語教養科目群	中国語基礎実践Ⅰ	前	水3-4	劉 森	1	選	医・保理工	発音、初級の文法など、中国語の基礎知識を学ぶ。オーラルコミュニケーションに重点を置いた教科書を用い、実践的な演習を行う。
	中国語基礎実践Ⅱ	後	水3-4	劉 森	1	選	医・保理工	前期（中国語基礎実践Ⅰ）の続き。発音、初級の文法など、中国語の基礎知識を学ぶ。オーラルコミュニケーションに重点を置いた教科書を用い、実践的な演習を行う。
	スペイン語基礎Ⅰ	前	木3-4	大高由美子	1	㊤	社	大学に入って初めてスペイン語を学習する学生を対象にしています。最小限の努力でスペイン語の基礎知識の習得を目標としています。「文法、練習」、「会話」、「リスニング練習」、などのほかスペインの日常生活、四季折々のテーマや文化にも触れます。
					1	選	医・保	
	スペイン語基礎Ⅱ	後	木3-4	大高由美子	1	㊤	社	前期の続き。
					1	選	医・保	
	スペイン語基礎Ⅰ	前	水5-6	新津 厚子	1	㊤	教	授業目標： ・初級文法前半の習得を目指す。 ・言語のみならず、スペイン語圏の文化に触れることにより、視野を広く持てるようになる。 内容：スペイン語は、スペインのみならずラテンアメリカ諸国など計20カ国以上で話される主要な言語の一つです。発音はローマ字読みに近く、日本人には発音が容易な外国語と言えます。授業では文法の習得のみならず、音楽や映画などを通じてスペイン語圏の文化を知り、これまでとは違った視点から世界を観察するきっかけを楽しく作りたいと思います。
					1	選	理工	
	スペイン語基礎Ⅱ	後	水5-6	新津 厚子	1	㊤	教	授業目標： ・初級文法の完成を目指す。 ・言語のみならず、スペイン語圏の文化に触れることにより、視野を広く持てるようになる。 内容：本授業では「スペイン語基礎Ⅰ」の続きとなります。「スペイン語基礎Ⅰ」で学んだ初級前半の文法を定着させながら、初級文法の完成を目指します。また、スペイン語圏の文化についての知識をさらに深めてもらいたいと考えています。
					1	選	理工	
外 語	スペイン語基礎実践Ⅰ	前	水7-8	新津 厚子	1	㊤	社	授業目標： ・あいさつなどの会話ができるようになる。 ・言語のみならず、スペイン語圏の文化に触れることにより、視野を広く持てるようになる。 内容：スペイン語は、スペインのみならずラテンアメリカ諸国など計20カ国以上で話される主要な言語の一つです。発音はローマ字読みに近く、日本人には発音が容易な外国語と言えます。本授業では会話など実践に重点を置きますが、初級文法の学習も行います。スペイン語圏の文化を知ったりプレゼンテーションすることで、広い視野を身につけていきましょう。
					1	選	医・保	
	スペイン語基礎実践Ⅱ	後	水7-8	新津 厚子	1	㊤	社	授業目標： ・旅行などで簡単な日常会話ができるようになる。 ・言語のみならず、スペイン語圏の文化に触れることにより、視野を広く持てるようになる。 内容：本授業は「スペイン語基礎実践Ⅰ」の続きとなります。「スペイン語基礎実践Ⅰ」で学んだ内容をさらに発展させ、初級文法全体を学習します。授業内でのプレゼンテーションなどで発信力をつけ、簡単な会話ができるレベルを目指します。
					1	選	医・保	

[教養教育科目]

科目区分：教養育成科目／授業科目：外国語教養科目群

初
荒
年
次
牧

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 目 標 ・ 内 容 な ど
外国語教養科目群	スペイン語基礎実践Ⅰ	前	金 3－4	大高由美子	1	㊥	教	21もの国と地域で公用語となっているスペイン語でコミュニケーションするための基礎作りを目標とします。言葉というのは、何度も口に出して練習することがとても大切です。教室の中でクラスの友達とペアで対話練習を行いながらスペイン語の基礎を身につけましょう。
					1	選	理工	
	スペイン語基礎実践Ⅱ	後	金 3－4	大高由美子	1	㊥	教	前期の続き。直説法の全ての時制の学習終了をめざす。
					1	選	理工	
	イタリア語基礎Ⅰ	前	水 5－6	中村 勝己	1	㊥	教・社	イタリア語は世界で最も美しい言葉といわれる。この授業は、初級文法を学び日常会話的な文例に親しむことを通じて、学生が初級者レベルに到達することを目指す。授業では現代イタリアの社会事情や文化についても紹介する。授業評価に関しては、出席を重視し達成度を確認するための小テストを課す。
					1	選	医・保・理工	
	イタリア語基礎Ⅱ	後	水 5－6	中村 勝己	1	㊥	教・社	前期のイタリア語基礎Ⅰの修了者に向けたイタリア語中級コース。関係代名詞、受身構文、条件法・接続法などの文法理解に入る。この授業を修了した時点で、辞書を引けば（たとえ時間がかかっても）現代イタリア語の文章を読解できるレベルに到達することを目標とする。授業では現代イタリアの社会事情や文化についても紹介する。授業評価に関しては、出席を重視し達成度を確認するための小テストを課す。
					1	選	医・保・理工	
	イタリア語基礎実践Ⅰ	前	火 1－2	安田 晴美	1	㊥	教・社	多方面で魅力に溢れるイタリアの標準語の基礎を学習する初級コース。発音や会話の実践練習の時間を多くとって行い、旅行で活用できるようにする。現在のイタリア事情や生活も紹介し、総合的に理解を深める機会を提供する。授業開始前にイタリアの音楽を鑑賞する。授業の最後にリスニングと翻訳のミニテストを実施。
					1	選	医・保・理工	
	イタリア語基礎実践Ⅱ	後	火 1－2	安田 晴美	1	㊥	教・社	日常生活レベルの会話力獲得を目指す中級コース。文法では、複合時制、条件法、接続法等を学習する。 教材に日常会話を扱い、文型の応用練習を多く行って実践力を養う。授業開始前にイタリアの音楽を鑑賞する。授業の最後にリスニングと翻訳のミニテストを実施。
					1	選	医・保・理工	
	ポルトガル語基礎Ⅰ	前	金 3－4	伊勢島セリア明美	1	㊥	教・社	Bom dia! (ボンジア!)などの挨拶を初め、日常会話で使われる表現の基礎文法を学習し、簡単な読み書きの練習を行います。適宜ポルトガル語圏の事情や情熱溢れる音楽なども紹介したいと思います。
					1	選	医・保・理工	
	ポルトガル語基礎Ⅱ	後	金 3－4	伊勢島セリア明美	1	㊥	教・社	前期の続きとなりますが、より実用的な基本文型を学習します。後半には適宜短いエッセイの構文を確認しながら、そこに見えてくる世界観にも触れたいと思います。
					1	選	医・保・理工	
	ポルトガル語基礎実践Ⅰ	前	水 5－6	伊勢島セリア明美	1	㊥	教・社	初歩的な会話とリスニングの学習が中心となっていますが、必要に応じて文の構造を確認します。また、日常会話の表現を通して、日本語とは異なる感情の表し方や国民性の違いにも触れたいと思います。適宜ブラジルを初め、ポルトガル語圏の文化も紹介します。
					1	選	医・保・理工	
	ポルトガル語基礎実践Ⅱ	後	水 5－6	伊勢島セリア明美	1	㊥	教・社	引き続き、“聞く”・“話す”を中心に学習を進めます。
					1	選	医・保・理工	

外
語

[教養教育科目]

科目区分：教養育成科目／授業科目：外国語教養科目群

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 目 標 ・ 内 容 な ど
外国語教養科目群	韓国語基礎実践Ⅰ	前	水 7－8	辛 大基	1	㊤	教・社	授業目標：まず子音と母音で成るハングルの仕組みを理解し、正確な発音で単語及び文を読めることを目指し、その後は挨拶と自己紹介、初対面の場面や買い物時などにおける簡単な会話ができることを目標とする。 内容：韓国語の初級テキストを教材とし、ハングルの形と発音の練習を行う。文字の読み書きが終わった段階からは初級レベルの会話の表現を日本語と英語の表現と比較しながら身につけていく。なおそれらの表現と関連した韓国の文化も視聴覚機器を利用して体験する。
					1	選	医・保・理工	
	韓国語基礎実践Ⅱ	後	水 7－8	辛 大基	1	㊤	教・社	授業目標：まず子音と母音で成るハングルの仕組みを理解し、正確な発音で単語及び文を読めることを目指し、その後は挨拶と自己紹介、初対面の場面や買い物時などにおける簡単な会話ができることを目標とする。 内容：韓国語の初級テキストを教材とし、ハングルの形と発音の練習を行う。文字の読み書きが終わった段階からは初級レベルの会話の表現を日本語と英語の表現と比較しながら身につけていく。なおそれらの表現と関連した韓国の文化も視聴覚機器を利用して体験する。
					1	選	医・保・理工	
	韓国語基礎Ⅰ	前	火 9－10	杉山 明枝	1	㊤	教・社	授業内容 ハングル文字の習得、基礎文法の理解、初級程度の聞き取り、読解 到達目標 1. ハングル文字を書け、読める。 2. 基礎文法の習得。 3. 辞書を引きながら新聞や雑誌、インターネット等の基礎的な内容の記事が読める。 4. 辞書を引きながら基礎的な内容のメール等、日常的に使う文章が書ける。 5. 基礎的な内容の会話の聞き取りができる。
					1	選	医・保・理工	
	韓国語基礎Ⅱ	後	火 9－10	杉山 明枝	1	㊤	教・社	授業内容 ハングル文字の習得、基礎文法の理解、初級程度の聞き取り、読解 到達目標 1. ハングル文字を書け、読める。 2. 基礎文法の習得。 3. 辞書を引きながら新聞や雑誌、インターネット等の基礎的な内容の記事が読める。 4. 辞書を引きながら基礎的な内容のメール等、日常的に使う文章が書ける。 5. 基礎的な内容の会話の聞き取りができる。
					1	選	医・保・理工	
	選択英語A①	前	水 3－4	長 和重	1	選		本授業は、TOEIC試験の準備を行うと同時に基礎学力の向上を目指すものである。授業では、TOEICの傾向に沿った問題集などを用い、試験形式に応じた演習を行う。
	選択英語A②	後	水 3－4	長 和重	1	選		本授業は、TOEIC試験の準備を行うと同時に基礎学力の向上を目指すものである。授業では、TOEICの傾向に沿った問題集などを用い、試験形式に応じた演習を行う。
	選択英語A③	前	木 3－4	マッカラク・ヘザー	1	選		TOEFLテスト (Test of English as a Foreign Language) は、大学のキャンパスや教室といった実生活でのコミュニケーションに必要な、「読む」「聞く」「話す」「書く」の4つの技能を総合的に測定します。この授業は、TOEFLの準備対策として、これから群馬大学の協定大学や海外留学を考えている学生が対象です。内容は、問題形式、四技能の問題演習、及び模擬試験です。学期末に本校で実施するITPテスト (リスニングとリーディング) の準備対策として役立ちます。 The Test of English as a Foreign Language (TOEFL) measures ability in reading, listening, writing and speaking for academic purposes. This course is aimed at students who wish to study abroad, for example, at one of Gunma University's partner institutions. We will first analyze the sections and question types that appear on the TOEFL. Students will work on practice questions and take mock tests. This course will be useful in preparing for the ITP TOEFL test, which will be taken near the end of the semester.
	選択英語A④	後	水 5－6	越智 貴子	1	選		This course consists of 15 lessons per semester in which students study English vital for studying abroad. The course specifically aims to give students the language skills to help them to obtain the score they need in Academic IELTS. Students will be able to improve all four language skills (listening, reading, writing and speaking) and practice for the exam papers, by training IELTS writing, speaking, and vocabulary that they will need in the exam.

[教養教育科目]

科目区分：教養育成科目／授業科目：外国語教養科目群

初
荒
年
次
牧

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 目 標 ・ 内 容 な ど
外国語教養科目群	選択英語B①	前	集 中	フーゲンブーム・レイモンド 越智 貴子	2	選		選択英語B①はサンディエゴ州立大学語学研修（春）に参加した学生のみ履修登録することができます。次回の実施は未定ですが、参加募集がある場合は、掲示等でお知らせします。（次回の研修に参加した場合は、次年度前期に履修登録してください。）
	選択英語B②	前	集 中	ベルジュロン・シルバン 越智 貴子	2	選		選択英語B②はウーロンゴン大学語学研修（春）に参加した学生のみ履修登録することができます。次回の実施は未定ですが、参加募集がある場合は、掲示等でお知らせします。（次回の研修に参加した場合は、次年度前期に履修登録してください。）
	選択英語B③	後	集 中	コントレラス・ジェフリー 越智 貴子	2	選		選択英語B③は英国キール大学語学研修（夏）に参加した学生のみ履修登録することができます。（ただし、年度によっては実施されない場合もあります。）参加募集がある場合は、掲示等でお知らせします。
	選択英語C①	後	水5-6	長 和重	1	選		目標：英語ニュース番組を通して、英語の聴解力を養成することを目指す。 内容：この授業では、時事英語のDVDを活用する。映像を通して大体的内容をつかんだ後、ディクテーションを行い、本文の内容を確認する。
	選択ドイツ語A	前	集 中	田中 一嘉	1	選		選択ドイツ語Aはドイツ短期語学留学プログラムの2週間のコースに参加した学生のみ履修登録することができます。プログラムへの参加募集は、掲示などでお知らせします。履修登録は短期留学の翌学期以降となります。
	選択ドイツ語B	前	集 中	田中 一嘉	2	選		選択ドイツ語Bはドイツ短期語学留学プログラムの4週間のコースに参加した学生のみ履修登録することができます。プログラムへの参加募集は、掲示などでお知らせします。履修登録は短期留学の翌学期以降となります。
	選択ドイツ語C	後	集 中	田中 一嘉	1	選		選択ドイツ語Cはドイツ短期語学留学プログラムの2週間のコースに参加した学生のみ履修登録することができます。プログラムへの参加募集は、掲示などでお知らせします。履修登録は短期留学の翌学期以降となります。
	選択ドイツ語D	後	集 中	田中 一嘉	2	選		選択ドイツ語Dはドイツ短期語学留学プログラムの4週間のコースに参加した学生のみ履修登録することができます。プログラムへの参加募集は、掲示などでお知らせします。履修登録は短期留学の翌学期以降となります。
	ASL I	前	火1-2	山本 綾乃	1	選		手話は世界共通ではありません。日常会話程度のアメリカ手話を学ぶことを目標とします。主にテキストやDVDを使用した視覚的教材で進めます。楽しくアメリカ手話を学びましょう。原則、日本手話が理解できることを条件とします。
	ASL II	後	火1-2	山本 綾乃	1	選		ASL I に引き続き、テキストやDVDを使用しながら、日常会話程度のアメリカ手話の定着を目指します。講義の最後には、アメリカに住むろう者とテレビチャットでの会話にチャレンジしてみましょう。原則、日本手話が理解できることを条件とします。

外
語

〔教養教育科目〕

科目区分：教養育成科目／授業科目：総合科目群

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
総合科目群	サービスビジネス入門	前	火 7－8	大野 富彦	2	選		本授業は、サービスビジネスの理解を深めることを目標とします。サービスには、無形性、生産と消費の同時性、顧客との共同生産、結果と過程の重要性といった特徴があり、それらを踏まえた事業運営が求められます。本授業は、サービス財と物財の違い、サービスビジネスの具体的内容、そのマーケティングやマネジメント等に関して講義と事例によって進めます。
	生命保険の仕組みと利活用を考える	前	火 7－8	杉山 学 荒木 孝志	2	選		生活の様々な局面で関わりあう生命保険の仕組みや制度、消費者保護を理解する生命保険会社の基本的な業務を知ること、これからの持続可能な社会を営んでいく上で役に立つ知識を習得するとともに、生活設計、生活上のリスク管理能力を向上させることを目的とする。 ・ 生命保険の基本的な仕組み、商品の理解 ・ 社会保険制度の概要、保障内容、消費者保護の理解 ・ 生命保険会社の組織、基本的な業務の理解 ・ グループディスカッションによる課題の分析、解決策と行動計画の検討
	地域社会実践論	前	火 9－10	吉田 浩之 原口美貴子 高桑 和彦 町田 浩志 藤塚 健次	2	選		人は特定の場所に生まれ、育ち、生活し、活動している。学生諸君も今は群馬という場所において勉学に励み、卒業後はそれぞれの地域社会において活躍することだろう。地域社会にはどのような特色、課題があるのか、人々は地域社会に対してどのような郷土意識を持っているのだろうか。人々は地域社会をより良くするためにどのような活動をしているのだろうか。「地域社会実践論」はこれらのことを、単に理論的に学ぶだけではなく、実際に活動している者、あるいはそれらについて研究している者の眼から実際の・多面的に考察し、学生諸君が地域社会のあり方、人間と地域との関わり方を考えていくためのきっかけになることを臨んでいる科目である。 具体的な題材は群馬県を中心とする地域から取り上げ、郷土意識、社会教育活動、地域づくり活動、地方新聞社活動、防災・災害活動など多面的な内容をそれぞれの立場の講師が分担講義する。学習方法としては、講義の他に、作業などを取り入れる。 山口先生（群馬大学名誉教授）：群馬県民の郷土意識 原口先生（郷土かるた研究者）：地域社会活動と教育（子ども会と上毛かるた活動、地域・郷土の教育的意義） 入内島先生（前・中之条町町長）：地域づくり活動、地域の文化活動 高桑先生（上毛新聞社）：地域社会と情報産業、地域社会における新聞社の役割 町田先生・藤塚先生（前橋赤十字病院）：群馬県における防災・災害活動。 オリエンテーションと全体のまとめは吉田（群馬大学教育学部附属学校教育臨床総合センター）が行う。
	ぐんま未来学	前	火 9－10	和田 直樹 （他）	2	選		群馬の近未来を、世界や日本との関連の中で俯瞰的に想像し、群馬大学生である君たちへの地域社会からの期待をより具体的に実感してもらうことを目的とするゲスト講師の講演を含む授業である。グローバル化した社会が今直面し、今後より深刻化するであろう問題（男女共同参画、イノベーション、食を通じた地域産業活性、地域医療）について、皆さんの立場からの解決策を模索することを課題とします。アクティブラーニング形式の演習も取り入れた授業を通し大学在学中になすべきことについて、認識を深めてもらいたい。

[教養教育科目]

科目区分：教養育成科目／授業科目：総合科目群

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
総合科目群	現代社会を知る	前	火9-10	松元 宏行	2	選		講義の基本は毎回テーマごとに映像資料を提示し、それをレポートにまとめる活動を主にすすめる。レポートの用紙は一定の書式を用意し毎回学生諸君に配付する。内容は近代の歴史を科学技術、戦争、経済、文化など多様な観点で考察できるような多彩な題材を提供する予定である。特に明治期の歴史、科学技術、教育、経済体制等、近代化に向けた日本の歩みや近現代の世界の情勢を重点的に取り上げたい。積極的な姿勢で授業に臨んでいただきたい。評価は総合的に行うが、授業の性格上毎回レポート要約の提出があるため、出席が重要である。
	手話とろう文化	前	木3-4	金澤 貴之 下島 恭子	2	選		ろう者の言語である日本手話の実技を交えながら、手話とろう文化について概説する。その上で、群馬大学のキャンパスにおける聴覚に障害のある学生の学びについて考察し、聴覚障害学生支援の考え方と方法についても実践的に学ぶ。 手話を覚えたいという熱意があり、大学内の聴覚障害学生支援の活動に関心がある人を歓迎します。
	若者と社会	前	水5-6	二宮 祐	2	選		若者が学問の対象として固有の価値を持つと認識されるようになって数十年が経過しました。成人に至る過渡期としての「青年」ではなく、独自の文化を持つ「若者」へ焦点が合わせられるようになりました。現代の若者が置かれている状況やその中で考えていること、若者について述べられていることについて、社会学などの分野の概念を通して検討します。
	コンピュータネットワークとセキュリティ	前	水7-8	横山 重俊	2	選		コンピュータネットワークがどのように動作するのかを、高度の数学知識やオペレーティングシステムの知識の前提なしに、具体例を使って学ぶ。類似したものや実例をあげてコンピュータネットワークの仕組みおよびセキュリティの基本を理解していく。
	入門知的財産講座	前	水7-8	佐藤 和浩	2	選		新入学生を対象とし、知的財産に対する全般的な認識と研究成果に必要な特許についての知識を深めてもらう講座です。 本講座は、知的財産については全く初めての初心者向けとした大変わかり易い講義内容としており、必ずや研究開発に携わる皆さんにとってお役に立てるものと思っております。
	昆虫の科学	前	木3-4	上宮 英之	2	選		動物の中で昆虫は種数において最大のグループである。昆虫の繁栄について考察するとともに、昆虫の形態、生態、系統、人間との関わりなどを昆虫全体および各分類グループごとに学習し、昆虫について基本的な認識を得ることを目的とする。また、昆虫を通して、動物および生物に関する認識を深める。
	海外短期研修③ (リュブリアナ大学 春期講習会)	前	集 中	越智 貴子	1	選		交流協定校であるリュブリアナ大学（スロベニア）が実施するもので、リュブリアナ大学学生と共同で日本文化について調査し報告するプログラムです。 リュブリアナ大学で2019年度に実施されたプログラムに参加した学生が履修することができます。
	海外短期研修⑤ (国立台北教育大学 短期プログラム)	前	集 中	越智 貴子	1	選		交流協定校である台北教育大学（台湾）が実施する台湾の文化や中国語を学ぶプログラムです。 2019年度に実施したプログラムに参加した学生が履修登録できます。事前研修、レポートの提出によって単位が認定されます。
	海外短期研修⑥ (泰日工業大学 スプリングプログラム)	前	集 中	越智 貴子	1	選		交流協定校である泰日工業大学（タイ）が実施するタイの文化やタイ語を学ぶプログラムです。 2019年度に実施したプログラムに参加した学生が履修登録できます。事前研修、レポートの提出によって単位が認定されます。

[教養教育科目]

科目区分：教養育成科目／授業科目：総合科目群

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
総合科目群	海外短期研修⑩ (ヤギェウオ大学 スプリングプログラム)	前	集 中	越智 貴子	1	選		交流協定校であるポーランド・ヤギェウオ大学で実施する約10日間程度の国際PBL研修です。 より実践的な英語力とコミュニケーション能力の向上のほか、受講生の専門分野の知識を深めるきっかけとなるよう、研修の内容を以下のようにしています。 【研修の内容】 1) ヤギェウオ大学の学生と「日本とポーランドの国際協力・国際連携」について英語でディスカッション 2) ヤギェウオ大学の学生と「群馬の魅力」について日本語でディスカッション 3) ヤギェウオ大学で「英語で」開講されている授業の聴講、郊外学習（アウシュヴィッツ強制収容所訪問） 研修期間中は、ヤギェウオ大学の学生がバディとしてポーランドでの生活をサポートします。 2019年度に実施されるプログラムに参加した学生が履修登録できます。事前研修、レポートの提出によって単位が認定されます。
	まちづくりと グローバル・ コミュニケーション	前	集 中	結城 恵 (他)	2	選		【グローバル・リーダーシップ・プログラム開講科目】 生まれ育った文化や社会が異なる人々が、共に生きる社会を築く力は、人口減少社会に対応するグローバル地域創生時代に不可欠な資質となる。本講義ではこの資質を磨くため、グローバル地域創生のまちづくり事業への参加を通して、コミュニケーションのあり方を体験的に学ぶ。企業や地域との連携で進めるプロジェクトの企画運営に参加する（週末等を利用した地域実践への参加が数回程度ある予定）。
	鍵盤音楽の歴史	後	火 1 - 2	三國 正樹	2	選		オルガン、ハープシコード、クラヴィコード、ピアノなどさまざまな鍵盤楽器について、楽器製作の背景や作品の変遷を解説する。
	視覚の世界	後	火 1 - 2	村田 祥子	2	選		人間は高度な視覚情報処理を行い、環境を理解する。人間はさまざまなものをみる。しかし、視覚の世界について、我々はまだ知らないことが多い。人間はどのようにして見るのか。何をみるのか。視覚研究を通じて、人間の内的な仕組みへの接近を試みる。
	ジェンダー論*	後	火 7 - 8	齋藤 周 新藤 慶 長安めぐみ	2	選		男女の性差は、社会の中で作られた部分（ジェンダー）が大きい。例えば、「男は仕事、女は家庭」というのは、生まれながらの性差ではない。今の社会では、この作られた性差であるジェンダーが個人の生き方に制約を加えている。この授業では、ジェンダーに敏感な視点から、性別にかかわらず各人が自由・平等に生きられる社会のあり方を考える。ジェンダーは学際的な問題であり、多角的な検討を加えることとしたい。 *平成27年度から平成31年度入学の教育学部生が履修する場合は、教養教育科目として履修してください（教育学部専門科目としては履修できません）。令和2年度入学の共同教育学部生が履修する場合は、共同教育学部の基盤教育科目として履修してください。
	インターネット入門	後	火 7 - 8	目黒 雅昭	2	選		インターネットに関する技術的な基礎知識とインターネット活用する上で必要な情報倫理に関連する基礎知識について事例を交えて学ぶ。具体的には、ネットワークの基礎知識とTCP/IPの仕組み、インターネットサービスの活用事例や情報倫理と法制度および情報セキュリティなどを中心に、インターネットに関する基礎知識について理解することを目標とする。

[教養教育科目]

科目区分：教養育成科目／授業科目：総合科目群

初
年
次
牧

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
総合科目群	原発事故と放射能汚染	後	金 3－4	早川由紀夫	2	選		2011年3月の福島第一原発事故で放射能がいつどのように漏れたか、汚染が東日本の広範囲にどう広がったか、その汚染がひとの健康にどんな影響を及ぼすかを考える。原子核物理、大気科学、農学、疫学など広範囲に渡る。科学における数量の取り扱いや両対数グラフの使い方など基礎習得の時間も設ける。
	科学技術 －歴史と発達－	後	火 9－10	松元 宏行	2	選		19世紀から20世紀にかけては科学技術の発見と発達の時代であり、これら科学技術の発達は人類に大きな貢献をしたといえる。しかしながら、科学技術の発達過程では、紛争、公害や薬害などの負の所産も生じている。 本講義では医学、自動車、航空、電気、家電、情報、兵器などのテーマごとに、その科学技術の歴史と発達を「社会的な観点」「科学技術の観点」「経済の観点」「科学倫理の観点」により総合的かつ多面的に考察し、科学技術のあるべき姿を模索する。なお、授業の詳細は揭示および第一週の授業で説明し、受講希望の調査を行うので、履修期間の関係上、第一週からの出席が必要になる。真剣に授業に臨む学生が履修することを希望する。
	現代社会情況論B	後	水 5－6	野田 岳人	2	選		グローバリゼーションの時代では、普遍的な価値観が国境を越え、国際的に広がる。しかし、同一の価値観がグローバルに広がる一方で、国内的にはナショナリズムに起因した内向きの空気が漂う。現代社会の諸事象は、国内・国際・グローバルという多層にわたって複雑に関連し合って生み出されている。授業では、重要だと思われる時事的な問題を取り上げ、様々な視点から考察する。現代社会における諸事象について、国内的視点、国際的視点、グローバル的視点という三つの視点から考えられるようになる。 授業では、トピックに関係する新聞や資料の精読、学生同士のディスカッション、教員による説明やコメントなどを組み合わせて進める。
	手話と情報 アクセシビリティ	後	水 5－6	二神 麗子 川端 伸哉	2	選		ろう者の言語である「日本手話」の実技指導を通して初歩レベルの会話を手話で表現できるようにするとともに、聴覚障害に関わる情報アクセシビリティの課題を理解し、多文化共生社会のあり方について見識を深める。また、本学における「障害学生支援」について理解を深めることで、「障害」のある学生とない学生とが共に学ぶ大学のあり方について自分なりの考えを深めるとともに、実際の関わりに最低限必要なコミュニケーション方法を身につける。
	LaTeXによる文書 処理入門	後	水 7－8	濱元 信州	2	選		LaTeXは、ワードのような、文書作成のためのソフトウェアですが、特に、数式の記述能力がとても高いソフトです。ワードのように使い方は簡単ではありませんが、理工学系では論文執筆などにも利用されているソフトウェアです。この授業では、将来の論文作成、数式を含む文書・教材作成に利用できるようLaTeXの使い方を初歩から講義します。
	異文化理解と コミュニケーション	前	水 7－8	陳 雲蓮	2	選		様々な異文化と邂逅するグローバルな時代。我々はどうのように異文化を理解し、かつ受容するのでしょうか。この授業では、学生に異文化、異文化理解、異文化コミュニケーションの定義と本質について学んでもらう。異文化理解の内容として、言語、宗教、社会、食文化、住生活、思想、歴史、芸術、都市などが取り上げられる。学生は自分の専門分野または知的好奇心に基づいて興味のあるテーマまたは国や地域を選び、教員による講義、文献調査、グループディスカッションとプレゼテーションを経て、独自の異文化理解レポートを作成する。

総
合

〔教養教育科目〕

科目区分：教養育成科目／授業科目：総合科目群

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
総合科目群	海外フィールドワークの方法と実践	前	木 7－8	陳 雲蓮	2	選		多岐にわたる分野において、海外でフィールドワークを行うことがより重要で、かつ一般的になってきている現代社会。本科目は、教員のこれまでの海外調査研究の経験に基づき、学生が海外でのフィールドワークの方法、注意事項、および予測される実践の過程と結果について学ぶことを目的とする。具体的に、海外の都市や農村でのフィールドワークを想定し、準備段階において、情報収集のほかに、調査目的、調査先の国と地域、及び調査範囲とスケジュールについて学生と教員が授業で一緒に議論し、かつ検証する。その上で、海外フィールドワークの計画案を立てる。最後に、実践段階において、学生はフィールドワークと聞き取り調査のメモを作成し、予測されるフィールドワークの過程と結果について小論文を作成する。
	環境法Ⅱ＊	後	木 3－4	西村 淑子	2	選		本講では、憲法、民法（不法行為法）、行政法（行政作用法・行政救済法）、環境法の基礎知識を前提として、以下にあげる環境訴訟について学習します。①道路公害訴訟、②空港公害訴訟、③原発訴訟、④水俣病訴訟、⑤アスベスト訴訟。 ＊本講義は、社会情報学部専門科目のため、社会情報学部生は、教養教育科目としては履修できません。
	ぐんま未来学2	後	木 3－4	小竹 裕人	2	選		地域問題を題材とし、(1)地域問題を見つけ、(2)把握し、(3)その解決方法について考える。誰にとって問題となっているのか、ステークホルダーは誰か、そして他の地域との比較を通して客観的な分析を行い、地域問題を深く考えるきっかけを提供する。
	数概念について	前	木 3－4	伊藤 隆	2	選		数の概念は、個々に保有していると思われるが、この講義では、整数、有理数、実数、複素数を現代的な立場から、見直し、さらにそれらを含む数の構造に言及する。数の構造を実感できるよう演習を交えた講義形態とする。
	切断と接合の世界	後	金 3－4	楠元 一臣	2	選		身の回りの多くの品物は材料を適当な大きさに切断しその後接合して組み立てられている。この切断および接合加工はものづくりの基盤技術のひとつである。本講義では、加工分野のなかの切断・接合技術に焦点をあて、先人が創造した歴史的な遺産から、加工技術の概要を学び、今日のものづくりの在り方について考える。
	パズルで学ぶ 計算論的思考法	後	金 3－4	山崎 浩一	2	選		計算論的思考（Computational Thinking）とは、問題を解決するための基本となる考え方で、21世紀を生きていくために必要とされるスキルです。具体的には、物事を抽象化して考えることや、一見複雑に見える問題を単純な問題に分割して考えることや、問題解決の手順をステップバイステップで表現するなどです。本講義では、パズルを題材にして、それらを解くことで計算論的思考とは何かを学びます。パズルを題材にして思考法をトレーニングする方法は、Puzzle-Based Learningと呼ばれ、世界各国の様々な大学で展開されています。題材がパズルですので、前提知識は要りません。その分じっくり考えるということが講義で求められます。パズルを解くことで、計算論的思考法がどのようなもので、どのように役立つかを体験・理解できます。
	Python入門	後	水 7－8	井上 仁	2	選		この授業では、Pythonというプログラミング言語の基本的構文を理解するとともにプログラミング思考を修得する。また、1年前期開講科目「データサイエンス」で修得した各統計量の計算やデータ処理のための簡単なプログラムの作成方法を修得する。

〔教養教育科目〕

科目区分：教養育成科目／授業科目：総合科目群

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 クラス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
総合科目群	海外短期研修⑨ (ベトナム国際 インターンシップ プログラム)	後	集 中	越智 貴子	1	選		ベトナムFPT大学でベトナム文化やビジネス英語の研修に参加後、参加学生の専門分野に合わせた受入先企業にて約2週間のインターンシップを行います。受入先企業は「教育」「ソフトウェア開発などのIT分野」「医療」「メディア」等、さまざまな分野から選択。インターンシップ期間中は、FPT大学の学生がバディとしてベトナムでの生活をサポートします。 2020年度に実施されるプログラムに参加した学生が履修登録できます。事前研修、レポートの提出によって単位が認定されます。 プログラムの募集が開始され次第、教務システム等で周知します。
	グローバル地域創生 と企業	前	集 中	結城 恵 (他)	2	選		【グローバル・リーダーシップ・プログラム開講科目】 主として学部3年、修士1年、博士2年対象 産業の地域における持続可能性を高め、グローバル展開するグローバル優良企業を知ることで、群馬のグローバル地域創生に貢献する人財を養成する。具体的には、グローバル優良企業の訪問・経営者との対話を通して、企業が展開するグローバル地域創生について理解する。同時に、自己分析を深め、グローバル地域創生時代の自分自身のキャリア形成について具体的に考える。前期集中「まちづくりとグローバルコミュニケーション」の履修を終えていることが望ましい。
	グローバル・インターン シップ・プログラムⅠ	後	集 中	結城 恵 (他)	2	選		【グローバル・リーダーシップ・プログラム開講科目】 産業の地域における持続可能性を高めてグローバル展開している、グローバル優良企業や地域が提供するインターンシップに参加する。インターンシップをとおして、群馬で暮らしながら世界規模の仕事を展開するということの方策とその意味を考察し、群馬のグローバル地域創生に貢献する人財として、自身のキャリア形成を具体的に考える。 ※前期集中「グローバル地域創生と企業」または、※前期集中「まちづくりとグローバル・コミュニケーション」の履修を終えていることが望ましい。
	グローバル・インターン シップ・プログラムⅡ	後	集 中	結城 恵 (他)	2	選		【グローバル・リーダーシップ・プログラム開講科目】 (主に学部3年生に限る) 産業の地域における持続可能性を高めてグローバル展開している、グローバル優良企業や地域が提供するインターンシップに参加する。インターンシップをとおして、群馬で暮らしながら世界規模の仕事を展開するということの方策とその意味を考察し、群馬のグローバル地域創生に貢献する人財として、自身のキャリア形成を具体的に考える。 ※前期集中「グローバル地域創生と企業」または、※前期集中「まちづくりとグローバル・コミュニケーション」の履修を終えていることが望ましい。
	スポーツ科学	後	月7-8	中雄 勇人 (他)	1	㊤	共同教育	共同教育学部生は、本授業を総合科目群として履修する。授業日標・内容については、33ページを確認すること。

[教養教育科目]

科目区分：基盤教育科目

授業科目	授 業 題 目	学期	曜日・時限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
ジェンダー論	ジェンダー論	後	火7-8	齋藤 周 新藤 慶 長安めぐみ	2	㊤	共同教育	男女の性差は、社会の中で作られた部分（ジェンダー）が大きい。例えば、「男は仕事、女は家庭」というのは、生まれながらの性差ではない。今の社会では、この作られた性差であるジェンダーが個人の生き方に制約を加えている。この授業では、ジェンダーに敏感な視点から、性別にかかわらず各人が自由・平等に生きられる社会のあり方を考える。ジェンダーは学際的な問題であり、多角的な検討を加えることとしたい。
防災・安全教育	防災・安全教育	前	水3-4	青山 雅史 新井 淑弘 岩崎 博之 田中 麻里	2	㊤	共同教育	おもに学校における事故や災害による被害・被災事例を取り上げ、それらの実態について理解を深め、教職員が身に付けるべき学校安全や防災に関する基礎教養を提供する。
人文科学科目群	言語と教育	前	火7-8	河内 昭浩 小林 英樹 小林 正行 渡部 孝子 山田 敏幸	2	㊤	共同教育	すべての教科・校種の指導に必要な言語活動の理論と方法、また言語そのものについての知識・技能、さらに言語を用いた思考力や表現力を高めることを目標とする。オムニバス形式で開設する。
社会科学科目群	エスニック・マイノリティの子どもと教育	後	木3-4	新藤 慶	2	㊤	共同教育	グローバル化の進展に伴い、国境を越えて移動する子どもの教育が大きな課題となっている。そこで、本授業では、エスニック・マイノリティの子どもの教育の現状と課題を理解し、今後求められる教育のあり方を構想できる力量の獲得を目標とする。

〔日本語・日本事情科目〕

科目区分：日本語・日本事情

〔日本語・日本事情科目〕

群馬大学の「日本語・日本事情プログラム」は、群馬大学で学ぶ留学生が大学や地域社会に適応し、充実した日常生活を送りながら大学での勉学・研究に積極的に参加できるようになることを目標とした、日本語の運用力を総合的に高めていくためのクラスです。2020年度（前期：2020年4月～9月、後期：2020年10月～2021年3月）に開講される授業は以下の通りです。

注意1)「日本語・日本事情」の履修方法について

4月と10月の授業開始時期に履修のためのガイダンス及びプレイズメント・テストを行います。必ず出席してください。

日時と場所は大学会館1階、国際センター・国際課の留学生用掲示板に掲載します。

注意2)「日本語・日本事情」の振り替え方法について

学部留学生は、履修した「日本語・日本事情科目」の単位を外国語科目や教養教育科目の単位の一部に振り替えることが可能です。『教養教育履修手引』に記載されている「外国人留学生の履修特例と日本語・日本事情科目」を参照してください。

授業科目	授 業 題 目	学期	曜日・時限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 クラス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
日本語	日本語口頭表現Ⅱ	前	木5-6	渡邊 知積	1		留学生	詩や小説などのナレーション、フォーマルなスピーチなどを題材として、シャドーイングや音読などインプットとアウトプットの基礎的な練習と、ディスカッション、そして簡単な通訳練習を行います。伝わりやすい発音を訓練しながら幅広い表現を身につけ、大学や社会で必要な日本語の口頭表現技能を高めることを目的とします。文学作品やマンガ、アニメなどの好きな題材を使った音読発表課題や、録音の宿題があります。日本語能力試験N3からN1レベルの学生が対象です。
	日本語口頭表現Ⅰ	後	金3-4	吉田 好美	1			目標：日本語でのプレゼンテーションや意見交換を適切に行えるようにする。 概要：プレゼンテーションや意見交換に必要な表現や語彙、そして発表の構成を学び、実際に使用できるように練習を行う。プレゼンテーションは、指定された、あるいは興味のあるテーマについてまとめた後に実施する。
	日本語総合	前	水7-8	船橋 瑞貴	1			日本語を用いて、大学での学習、研究活動を行うために必要なスキルを総合的に学習します。図書館での書籍検索や電子ジャーナルサイトでの論文検索の方法、データベースにアクセスしての新聞データの閲覧方法、教員への問い合わせメールの書き方、参考文献の読解、テーマを設定してのアンケート調査等の実施、その結果を用いてのプレゼンテーションの準備と実践、レポートの作成などを総合的に学びます。
	日本語総合	後	木3-4	牧原 功	1			
	日本語読解Ⅱ	前	火3-4	野田 岳人	1			基礎的な専門書や論文などの内容を理解するために、基本的な用語、文法的な表現などを中心に学習します。また、これらの語彙や表現を用いて、口頭表現や発表練習も行います。
	日本語文章作成Ⅱ	前	金3-4	野田 岳人	1			この授業は、日本語でレポート、研究発表要旨、学術論文などを書く力をつけることを目的とします。授業では、学術的文章の書き方を段階的に学びます。最初に書き言葉の文体と表現など、文章作成に必要な基本事項を学習します。次にレポートや論文の構成を考えます。そして、序論、本論、結論の書き方を学び、最後にレポートや論文を作成します。

〔日本語・日本事情科目〕

科目区分：日本語・日本事情

授業科目	授 業 題 目	学期	曜日・時限	担当教員	単位数	選 必 別	授 業 クラス	授 業 目 標 ・ 内 容 な ど
日本語	日本語読解Ⅰ	後	火3-4	野田 岳人	1		留学生	基礎的な専門書や論文などの内容を理解するために、基本的な用語、文法的な表現などを中心に学習します。また、これらの語彙や表現を用いて、口頭表現や発表練習も行います。
	日本語文章作成Ⅰ	後	木5-6	野田 岳人	1			この授業は、日本語でレポート、研究発表要旨、学術論文などを書く力をつけることを目的とします。授業では、学術的文章の書き方を段階的に学びます。最初に書き言葉の文体と表現など、文章作成に必要な基本事項を学習します。次にレポートや論文の構成を考えます。そして、序論、本論、結論の書き方を学び、最後にレポートや論文を作成します。
	日本語作文Ⅱ	前	月3-4	高橋 裕輔	1			様々な文体で書かれた文章を読み、モデル文を模倣することで作文の表現の幅を広げることを目的とします。また、読む人にわかりやすい文章を書くことを意識してもらうため、受講者同士で書いた文章を検討する時間を設けます。
	日本語作文Ⅰ	後	金5-6	高橋 裕輔	1			様々な文体で書かれた文章を読み、モデル文を模倣することで作文の表現の幅を広げることを目的とします。また、読む人にわかりやすい文章を書くことを意識してもらうため、受講者同士で書いた文章を検討する時間を設けます。
	日本語聴解	前	火5-6	大和 啓子	1			大学での講義や口頭発表を聞く力をつけることを目的とします。話を構成する表現等を学び、話の内容を的確につかむ練習を段階的にを行います。日本の社会や文化をテーマとしたものを中心的に扱い、関連したディスカッション等も行います。
	ビジネス日本語Ⅰ	前	集 中	結城 恵 (他)	2			【グローバル・リーダーシップ・プログラム開講科目】 本プログラムに参加する留学生が対象となる。日本事情EまたはF：グローバル・インターンシップ・プログラムⅠまたはⅡの履修を想定し、ビジネスシーンで必要な日本語を学ぶ。日本語能力試験N3～N2相当。開講は桐生キャンパス。 ※定員20名。県内の他大学の留学生も履修する。定員を超える場合は、面接選考をする可能性あり。
	ビジネス日本語Ⅱ	前	集 中	結城 恵 (他)	2			【グローバル・リーダーシップ・プログラム開講科目】 本プログラムに参加する留学生が対象となる。日本事情EまたはF：グローバル・インターンシップ・プログラムⅠまたはⅡの履修を想定し、ビジネスシーンで必要な日本語を学ぶ。日本語能力試験N2～N1相当。開講は荒牧キャンパス。 ※定員20名。県内の他大学の留学生も履修する。定員を超える場合は、面接選考をする。

[日本語・日本事情科目]

科目区分：日本語・日本事情

初
荒
年
次
牧

授業科目	授 業 題 目	学期	曜日・時限	担当教員	単位数	選 必 別	授 業 クラス	授 業 目 標 ・ 内 容 な ど
日本事情	Jプログラム 日本入門特別講義	前	火7-8	野田 岳人 (他)	2		留学生	交換留学生(科目等履修生)を対象に、日本に関する講義を行います。講義はオムニバス方式(1教員、1コマ)で、本学の教員が提供します。日本における医学や工学に関する話題、日本文学や日本事情、日本社会に関する問題などを取り上げます。
	日本事情B	後	水5-6	野田 岳人	2		留 日 合 同	グローバル化の時代では、普遍的な価値観が国境を越え、国際的に広がる。しかし、同一の価値観がグローバルに広がる一方で、国内的にはナショナリズムに起因した内向きの空気が漂う。現代社会の諸事象は、国内・国際・グローバルという多層にわたって複雑に関連し合っている。授業では、重要だと思われる時事的な問題を取り上げ、様々な視点から考察する。現代社会における諸事象について、国内的視点、国際的視点、グローバル的視点という三つの視点から考えられるようになる。 授業では、トピックに関する新聞や資料の精読、学生同士のディスカッション、教員による説明やコメントなどを組み合わせて進める。
	日本事情C： まちづくりとグローバル・コミュニケーション	前	集 中	結城 恵 (他)	2			【グローバル・リーダーシップ・プログラム開講科目】 生まれ育った文化や社会が異なる人々が、共に生きる社会を築く力は、人口減少社会に対応するグローバル地域創生時代に不可欠な資質となる。本講義ではこの資質を磨くため、グローバル地域創生のまちづくり事業への参加を通して、コミュニケーションのあり方を体験的に学ぶ。企業や地域との連携で進めるプロジェクト(県産品を使った食のプロモーション、観光インバウンド等)の企画運営に参加する。休業中や週末等を利用した地域実践への参加が数回程度ある予定。予定については講義中に早めに伝達する。 ※文部科学省「留学生就職促進プログラム」に参加する留学生は受講が推奨される。本プログラムで学習奨励費を受けようとする者は、必ず履修のこと。
	日本事情D： グローバル地域創生と企業	前	集 中	結城 恵 (他)	2			【グローバル・リーダーシップ・プログラム開講科目】 主として学部3年生対象 産業の地域における持続可能性を高め、グローバル展開するグローバル優良企業を知ることで、群馬のグローバル地域創生に貢献する人材を養成する。具体的には、グローバル優良企業の訪問・経営者との対話を通して、企業が展開するグローバル地域創生について理解する。同時に、自己分析を深め、グローバル地域創生時代の自分自身のキャリア形成について具体的に考える。前期集中「まちづくりとグローバルコミュニケーション」の履修を終えていることが望ましい。 ※文部科学省「留学生就職促進プログラム」に参加する留学生は受講が推奨される。本プログラムで学習奨励費を受けようとする者は、必ず履修のこと。
	日本事情A	前	水7-8	陳 雲連	2			様々な異文化と邂逅するグローバルな時代。我々はどうのように異文化を理解し、かつ受容するのでしょうか。この授業では、学生に異文化、異文化理解、異文化コミュニケーションの定義と本質について学んでもらう。異文化理解の内容として、言語、宗教、社会、食文化、住生活、思想、歴史、芸術、都市などが取り上げられる。学生は自分の専門分野または知的好奇心に基づいて興味のあるテーマまたは国や地域を選び、教員による講義、文献調査、グループディスカッションとプレゼンテーションを経て、独自の異文化理解レポートを作成する。

日
本
事
情

〔日本語・日本事情科目〕

科目区分：日本語・日本事情

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 目 標 ・ 内 容 な ど
日本事情	日本事情E： グローバル・インターン シップ・プログラムⅠ	後	集 中	結城 恵 (他)	2		留 日 合 同	【グローバル・リーダーシップ・プログラム開講科目】 産業の地域における持続可能性を高めてグローバル展開している、グローバル優良企業や地域が提供するインターンシップに参加する。インターンシップをとおして、群馬で暮らしながら世界規模の仕事を展開するということの方策とその意味を考察し、群馬のグローバル地域創生に貢献する人財として、自身のキャリア形成を具体的に考える。 ※後期集中「日本事情D：グローバル地域創生と企業」を履修のうえ履修のこと。※前期集中「日本事情C：まちづくりとグローバル・コミュニケーション」を履修することが望ましい。 ※文部科学省「留学生就職促進プログラム」に参加する留学生は受講が推奨される。本プログラムで学習奨励費を受けようとする者は、必ず履修のこと。
	日本事情F： グローバル・インターン シップ・プログラムⅡ	後	集 中	結城 恵 (他)	2			【グローバル・リーダーシップ・プログラム開講科目】 (主に学部3年生対象) 産業の地域における持続可能性を高めてグローバル展開している、グローバル優良企業や地域が提供するインターンシップに参加する。インターンシップをとおして、群馬で暮らしながら世界規模の仕事を展開するということの方策とその意味を考察し、群馬のグローバル地域創生に貢献する人財として、自身のキャリア形成を具体的に考える。 ※前期集中「日本事情D：グローバル地域創生と企業」を履修のうえ履修のこと。※前期集中「日本事情C：まちづくりとグローバル・コミュニケーション」を履修することが望ましい。 ※文部科学省「留学生就職促進プログラム」に参加する留学生は受講が推奨される。本プログラムで学習奨励費を受けようとする者は、必ず履修のこと。

[日本語・日本事情科目]

科目区分：日本語・日本事情

初
荒
年
次
牧

授業科目	授業題目	学期	曜日・時限	担当教員	単位数	選別	授業クラス	授業目標・内容など
入門日本語・伝統文化実践	入門日本語（総合Ⅰ）	後	月5－8 火5－8 木5－8 金5－8	瀬間 亮子 牧原 功 落合美佐子 吉田 好美	4		留学生	初中級レベルの日本語学習者を対象として、学期終了後に教養教育や学部開講の日本人対象の授業に参加可能なレベルに到着させることを目的とし、中級文型、語彙、漢字の導入を行いながら一定の長さの文章を読むトレーニングを行う。授業は、月曜日、火曜日、木曜日、金曜日にそれぞれ4時限分実施し、同一教材を用いてリレー式に授業を実施する。
	入門日本語（総合Ⅱ）	後	月5－8 火5－8 木5－8 金5－8	瀬間 亮子 牧原 功 落合美佐子 吉田 好美	4			
	入門日本語漢字A	後	木9－10	落合美佐子	1			主に交換留学生を対象とする。中上級から上級レベルで必要とされる漢字に加え、大学の講義や演習等で頻繁に使用される語彙、より広範な話題・社会的トピックに関する語彙の理解力向上を目指す。授業では漢字語彙の読み方、意味、用法を中心に練習を行う。
	入門日本語漢字B	後	金3－4	瀬間 亮子	1			主に交換留学生を対象として、中級レベルで必要とされる漢字・語彙の学習を行う。同レベルの漢字はひとり勉強したという学習者についても、どこに欠落があるかを意識する機会としたい。 文の中の漢字が読めることを最大の目標とするが、記憶の定着を助けるために書くこともある。
	入門日本語作文	後	水5－6	渡邊 知積	1			大学での生活や学習に必要なメールやレポートなどの作成ができるようになることが目標です。モデルとなる文章を何回も練習しながら、文体や書きことばのルール、文法を確認し、言語素材を学びます。作文の宿題やレポートの作成課題などがあります。日本語能力試験N4からN2レベルの学生が対象です。
	入門日本語会話	後	水7－8	渡邊 知積	1			大学生活での日常的なコミュニケーションと、授業でのプレゼンテーションやディスカッションが適切にできるようになることが目標です。文体、話し言葉の特徴などに注意してモデル音声を何回も聞きながら、運用練習と言語素材の学習を行います。リスニングの宿題やプレゼンテーション課題などがあります。日本語能力試験N4からN2レベルの学生が対象です。
	日本美術演習Ⅰ	後	月1－2	原 誠二	1			美術作品の鑑賞や日本画制作を通して、日本美術・日本文化の学習をすることを授業の目的とします。日本美術を理解するうえで、日本画の技術や材料、日本画の表現様式を体験することは重要です。1500年以上前に朝鮮半島よりもたらされた仏教美術等が、日本独自に発展し現代へと続いていることを理解しながら、日本画の制作技術を学ぶとともに、日本画の代表的画材である岩絵具を作ることもあわせて体験します。
	日本美術演習Ⅱ	後	月3－4	原 誠二	1			日本人の美意識や自然の美しさを感じて体験することで、日本文化への理解を深めることができ、さらに現代の漫画やアニメに通じる独自の世界を学ぶことにもつながると考えます。

入
門
日
本

〔日本語・日本事情科目〕

科目区分：日本語・日本事情

授業科目	授 業 題 目	学期	曜日・時限	担当教員	単位数	選 必 別	授 業 クラス	授 業 目 標 ・ 内 容 な ど
入門日本語・ 伝統文化実践	日本美術演習Ⅲ	前	月1－2	原 誠二	1			日本画制作を基本として、様々な伝統的素材を使った装飾的表現（金銀泥、金銀箔、砂子）を体験するとともに、自然や人間、天国や地獄、妖怪や幽霊などのサブカルチャー的なものに通じる表現を試みることも行います。
	日本美術演習Ⅳ	前	月3－4	原 誠二	1			色紙（しきし）や団扇・扇子などへの描画や絵巻物等の多様な表現形態を学ぶことで、日本の絵画文化への造詣をさらに深めてゆき、風土や自然と密接にかかわっている文学的・宗教的観点も含めた制作を行いながら、日本の風土が生み出した美術文化を学びます。
	邦楽器演習Ⅰ	後	木1－2	中畝 詩歩	1			この授業は日本の伝統楽器である三絃の音色に触れ、その美しさ、響きを生かしながら、演奏することを目標とする。具体的には三絃の構え方、弾き方を習得し、最終的には箏との合奏にも取り組みたい。また三絃に触れることにより、日本文化・礼儀作法を学ぶ事も目標としていきたい。
	邦楽器演習Ⅱ	前	木1－2	中畝 詩歩	1			邦楽器演習Ⅰで習得した、演奏法等を更に発展させ、Ⅰ段階難易度の高い曲、パートに取り組む。最終的には、箏・三絃の複数パートとの合奏で、アンサンブルを楽しむことを目指したい。
	邦楽器演習Ⅲ	後	木3－4	中畝 詩歩	1			この授業は日本の伝統楽器である箏の音色に触れ、その美しさ、響きを生かしながら、演奏することを目標とする。具体的には爪のはめ方、箏への構え方、さまざまな演奏方法を習得し、最終的には三絃との合奏にも取り組みたい。また箏を演奏する事により、日本の文化・礼儀作法を学ぶ事も目標としていきたい。
	邦楽器演習Ⅳ	前	木3－4	中畝 詩歩	1			邦楽器演習Ⅲで習得した、演奏法等を更に発展させ、Ⅰ段階難易度の高い曲、パートに取り組む。最終的には、箏・三絃の複数パートとの合奏で、アンサンブルを楽しむことを目標としたい。

[専門教育科目]

科目区分：専門基礎

初
年
次
牧

授業科目	授業題目	学期	曜日・時限	担当教員	単位数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 目 標 ・ 内 容 な ど
物理学演習	物理学演習	後	木1-2	未 定	1	必	医A	現在の生命科学研究では、遺伝学的手法や生化学的手法と組み合わせて、ナノスケールでの分子計測をはじめ多くの物理計測法が利用される。物理学は、自然科学の基礎となっている。本演習では、基礎的で他の分野への応用範囲も広い力学と電磁気学を取り扱う。入門であるので、レベル的には高校物理程度の初等的な取り扱いで行う。ただし、高校で学習した微分積分を使つての展開となる。本演習の目標は、力学、電磁気の基礎的知識を身につけるとともに、「力の場」や「エネルギー」などの概念の理解を深めることであり、そのため、演習に重点を置く。
	物理学演習	後	木1-2	高橋 浩	1	必	医B	物理学は、自然科学の中で最も基礎的な学問分野のひとつである、物理学の原理は、新しい医療装置や治療法の開発にも役立っている。力学と電磁気学を中心に、物理学の考え方の基礎を学び、演習を通し、様々な現象を物理学的に分析していく方法論を修得する。さらに、生物学や医学分野で物理学の原理が使用されている幾つかの実例についても学ぶ。
化学演習	化学演習	前	金5-6	米山 賢	1	必	医A	生命科学のための入門および基礎となる化学を学ぶ。特に生命を構成している物質（分子）の構造と性質を理解するため、原子の構造とそれらの結合による分子および物質の形成、物質の状態変化などについて理解を深める。
	化学演習	前	木5-6	山田 圭一	1	必	医B	生命科学のための入門および基礎となる化学を学ぶ。特に生命を構成している物質（分子）の構造と性質を理解するため、原子の構造とそれらの結合による分子および物質の形成、物質の状態変化などについて理解を深める。
物理学	物理学	前	木1-2	倉知 正 遊佐 顕 島田 博文 鳥飼 幸太	2	㊥	医	目標：医学部での専門授業に必要とされる物理学的な考え方を身につける。 内容：高校レベルの物理学をもとに物理学に対する基本的な考え方を習得する。
化学	化学	前	木1-2	南嶋 洋司 立井 一明 大日方 英 小西 昭充 大嶋 紀安	2	㊥	医	高等学校において化学を履修しなかった学生を対象として講義を行う。化学結合論、化学熱力学、化学反応論、有機化学、生物化学など医学専門課程の学習の基礎となる事項を概説する。また、トピックスとして、薬毒物、酵素などの化学的側面を解説する。
生物学	生物学	前	木1-2	鯉淵 典之 宮崎 航 小山 洋 金子 涼輔 松元 宏行	2	㊥	医 生物学B	医学生にとって必要な生物学的考え方を習得する事を目標とする。習熟度別に2クラスにわけて実施する。ある程度生物学的知識のある学生に対しては、オムニバス形式でのテーマを設定したアクティブラーニングでの授業とする。 知識の少ない学生に対しては、教科書をもとに、系統的な授業をおこなう。
				山本 華子 片山 豪 岸 美紀子	2	㊥	医 生物学A	

専
門

[専門教育科目]

科目区分：専門科目

授業科目	授業題目	学期	曜日・時限	担当教員	単位数	選 必 別	授業 クラス	授業目標・内容など
物理学	物理学	前	水9-10	豊村 暁	2	選	保AB	物理学全般にわたって広く取り扱う。物理学の基礎的な内容を理解することを主目標とし、その思考方法や原理・法則の意味を理解する。力学、熱力学、波動、光と電磁波、原子核などを学ぶ。
生物学Ⅰ	生物学Ⅰ	前	火5-6	上宮 英之	2	選	保AB	生物の基本的構成単位である細胞について、その構成物質、種類、基本構造や機能などを中心に講義をする。また、DNAの複製やタンパク質合成などの基本的知識についても取り扱う。生物に関する基本的な認識および生命現象の理解の基礎を得ることを目的とする。

[専門教育科目]

科目区分：基礎的な専門教育科目

初
年
次
牧

授業科目	授業題目	学期	曜日・時限	担当教員	単位数	選 必 別	授 業 クラス	授 業 目 標 ・ 内 容 な ど
概論系科目	物理学概論	前	月3-4	五十嵐睦夫	2	必	理工 CB-A	理工系専門基礎科目としての位置づけのもとに、物理学全般にわたった概論を講義する。特に物理学全体の基礎的枠組みを担う力学に関する部分と、今日の社会の基盤となった電子機器の基礎を与える電磁気学に重点を置く。
	物理学概論	前	月3-4	後藤 民浩	2	必	理工 CB-B	自然科学の基礎である物理学の講義を行う。力学、電磁気学の学習を通じて、物理学の基本概念や原理の理解を目的とする。運動、力、仕事、エネルギー、電荷、電場、磁場を中心に講義し、演習問題で理解度を確認しながら学習を進める。現象をモデル化し、統一的な理解を目指すという自然科学一般で有効な考え方を身に付ける。物理学の考え方をわかりやすく表現する数学的手法についても学ぶ。
	物理学概論	前	月3-4	高橋 浩	2	必	理工 CB-C	物理学は、ほとんどすべての科学技術分野の基礎である。本講義では、適時問題演習を交え、力学、電磁気を中心にして、仕事、エネルギー、熱、電場、磁場といった多くの理工学分野で必要とされる物理学の基本的な概念を取り上げ解説する。理工学分野の学修のための基盤を構築するとともに科学的なものの見方・考え方を育てる講義とする。
	物理学概論	前	火3-4	土橋 敏明	2	必	理工 MS-A	物理学とは、様々な自然現象をより基本的な要素に還元して物質の構造や性質、その間に働く相互作用などを明らかにし、論理的で普遍的な法則を研究する学問である。そのため、物理学の概念はほとんどの科学技術分野で「公用語」として用いられている。運動、力、仕事、エネルギー、熱、温度、波動、電荷、電場、磁場といった科学技術分野で高い頻度で用いられる事項に重点をおいて適時問題演習を交えながら講義し、物理学の基本的な概念の理解を深める。そのことにより、理工学分野の学修のための基盤を構築するとともに科学的なものの見方・考え方を育てる。
	物理学概論	前	火3-4	松岡 昭男	2	必	理工 MS-B	物理学とは、様々な自然現象をより基本的な要素に還元して物質の構造や性質、その間に働く相互作用などを明らかにし、論理的で普遍的な法則を研究する学問である。そのため、物理学の概念はほとんどの科学技術分野で「公用語」として用いられている。運動、力、仕事、エネルギー、熱、温度、波動、電荷、電場、磁場といった科学技術分野で高い頻度で用いられる事項に重点をおいて適時問題演習を交えながら講義し、物理学の基本的な概念の理解を深める。そのことにより、理工学分野の学修のための基盤を構築するとともに科学的なものの見方・考え方を育てる。
	物理学概論	前	木9-10	山本 隆夫	2	必	理工 ES-A	運動、力、仕事、エネルギー、熱、温度、波動、電荷、電場、磁場といった科学技術分野で高い頻度で用いられる事項に重点をおいて適時問題演習を交えながら講義し、物理学の基本的な概念の理解を深める。そのことにより、理工学分野の学修のための基盤を構築するとともに科学的なものの見方・考え方を育てる。

専
門

〔専門教育科目〕

科目区分：基礎的な専門教育科目

授業科目	授業題目	学期	曜日・時限	担当教員	単位数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 目 標 ・ 内 容 な ど
概 論 系 科 目	物理学概論	前	金 1－2	高橋 学	2	必	理工 ES-B	物理学とは、様々な自然現象をより基本的な要素に還元して物質の構造や性質、その間に働く相互作用などを明らかにし、論理的で普遍的な法則を研究する学問である。そのため、物理学の概念はほとんどの科学技術分野で「公用語」として用いられている。運動、力、仕事、エネルギー、熱、温度、波動、電荷、電場、磁場といった科学技術分野で高い頻度で用いられる事項に重点をおいて適時問題演習を交えながら講義し、物理学の基本的な概念の理解を深める。そのことにより、理工学分野の学修のための基盤を構築するとともに科学的なものの見方・考え方を育てる。
	物理学概論	前	木 7－8	平井 光博	2	必	理工 EI-A	物理学とは、様々な自然現象をより基本的な要素に還元して物質の構造や性質、その間に働く相互作用などを明らかにし、論理的で普遍的な法則を研究する学問である。そのため、物理学の概念はほとんどの科学技術分野で「公用語」として用いられている。運動、力、仕事、エネルギー、熱、温度、波動、電荷、電場、磁場といった科学技術分野で高い頻度で用いられる事項に重点をおいて適時問題演習を交えながら講義し、物理学の基本的な概念の理解を深める。そのことにより、理工学分野の学修のための基盤を構築するとともに科学的なものの見方・考え方を育てる。
	物理学概論	前	木 7－8	櫻井 浩	2	必	理工 EI-B	物理学の基本的な内容について講義する。物理学は自然界でおこるさまざまな現象を説明する手段として重要であることから、科学技術に対する物理学的な考え方が養われるように実例を取り入れて講義する。
	化学概論	前	火 3－4	白石 壮志	2	必	理工CB-A	理工学系学生に必要な化学の基礎を修得するための講義科目である。原子・分子のレベルで物質の成り立ちを理解することを目標とする。原子の構造と化学結合による分子の形成、物質中での物質の状態（気体・液体・固体）を学ぶ。化学反応に伴うエネルギー変化、反応速度や平衡の概念などに触れる。
				久新 荘一郎	2	必	理工CB-B	
				飛田 成史	2	必	理工CB-C	
	化学概論	前	金 1－2	京免 徹	2	必	理工 MS-A	物質を原子・分子のレベルで捉え、物質の成り立ちや化学現象を理解することを目標とする。化学で扱う物質質量や濃度を学んだ後、原子の構造とそれらの結合による分子の形成、物質中での原子や分子の結びつきを理解し様々な物質の構成を知る。物質を生成する化学反応（酸化と還元、酸と塩基など）や化学平衡の概念を理解する。
				平井 里香	2	必	理工 MS-B	
	化学概論	前	火 3－4	住吉 吉英	2	必	理工 ES-A	物質を原子・分子のレベルで捉え、物質の成り立ちや化学現象を理解することを目標とする。化学で扱う物質質量や濃度を学んだ後、原子の構造とそれらの結合による分子の形成、物質中での原子や分子の結びつきを理解し様々な物質の構成を知る。物質を生成する化学反応（酸化と還元、酸と塩基など）や化学平衡の概念を理解する。
				平井 里香	2	必	理工 ES-B	
	化学概論	前	火 3－4	平 靖之	2	必	理工 EI-A	物質を原子・分子のレベルで捉え、物質の成り立ちや化学現象を理解することを目標とする。化学で扱う物質質量や濃度を学んだ後、原子の構造とそれらの結合による分子の形成、物質中での原子や分子の結びつきを理解し様々な物質の構成を知る。物質を生成する化学反応（酸化と還元、酸と塩基など）や化学平衡の概念を理解する。
			木 1－2	尾崎 広明	2	必	理工 EI-B	

[専門教育科目]

科目区分：基礎的な専門教育科目

初
年
次
牧

授業科目	授業題目	学期	曜日・時限	担当教員	単位数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 目 標 ・ 内 容 な ど
数 物 系 科 目	微分積分学Ⅰ	前	月7-8	山田 正人	2	必	理ICB-A	1 変数関数の微分積分学を、次に多変数関数の微分積分学を学ぶ。 1. 微分学、テーラーの定理 2. 偏微分学とその応用、多変数関数の極値問題 3. 定積分、不定積分、広義積分、微分方程式 4. 重積分法とその計算法、面積・体積・重心の理論 微分積分学Ⅰでは1と2を、Ⅱでは3と4を学ぶ。
			月7-8	照屋 保	2	必	理ICB-B	
			月7-8	大塚 岳	2	必	理ICB-C	
			月5-6	高江洲俊光	2	必	理IMS-A	
			月5-6	黒田 覚	2	必	理IMS-B	
			木5-6	渡辺 秀司	2	必	理IES-A	
			月5-6	山田 正人	2	必	理IES-B	
			木5-6	大塚 岳	2	必	理IEI-A	
			月3-4	山田 正人	2	必	理IEI-B	
	微分積分学Ⅱ	後	火3-4	田沼 一実	2	必	理ICB-A	
			月7-8	渡辺 秀司	2	必	理ICB-B	
			月7-8	伊藤 公智	2	必	理ICB-C	
			月7-8	高江洲俊光	2	必	理IMS-A	
			月7-8	福島 博	2	必	理IMS-B	
			月3-4	山田 正人	2	必	理IES-A	
			金5-6	渡辺 秀司	2	必	理IES-B	
			月5-6	石井 基裕	2	必	理IEI-A	
			月5-6	山田 正人	2	必	理IEI-B	
	線形代数学Ⅰ	前	金5-6	植松 盛夫	2	必	理ICB-A	
			木7-8	渡辺 雅之	2	必	理ICB-B	
			木9-10	渡辺 雅之	2	必	理ICB-C	
			月7-8	黒田 覚	2	必	理IMS-A	
			月7-8	伊藤 公智	2	必	理IMS-B	
			木7-8	高江洲俊光	2	必	理IES-A	
			金7-8	渡辺 秀司	2	必	理IES-B	
			月1-2	福島 博	2	必	理IEI-A	
			金7-8	植松 盛夫	2	必	理IEI-B	
	線形代数学Ⅱ	後	月7-8	大塚 岳	2	必	理ICB-A	線形代数学Ⅰにつづいて、3次元、そして一般次元の線形代数学の基礎を学ぶ。 1. 線形空間と線形写像 2. 固有値、固有ベクトルの基本性質 3. 対角化、2次形式の標準化
			金5-6	高江洲俊光	2	必	理ICB-B	
			金5-6	植松 盛夫	2	必	理ICB-C	
			水1-2	大塚 岳	2	必	理IMS-A	
			木5-6	大塚 岳	2	必	理IMS-B	
			木5-6	高江洲俊光	2	必	理IES-A	
			金7-8	植松 盛夫	2	必	理IES-B	
			木5-6	渡辺 雅之	2	必	理IEI-A	
			木7-8	都丸 正	2	必	理IEI-B	

専
門

〔専門教育科目〕

科目区分：基礎的な専門教育科目

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 目 標 ・ 内 容 な ど
数物系科目	力 学	後	月3－4	青木 利澄	2	必	理工 CB-A	物理学の基礎である力学の講義と演習を行う。力学の学習を通じて、物理学の基本概念や原理の理解を目的とする。運動、力、仕事、エネルギーを中心に講義し、演習問題で理解度を確認しながら学習を進める。現象をモデル化し、統一的な理解を目指すという自然科学一般で有効な考え方を身に付ける。前期の物理学概論の力学分野の復習から始め、高校で学習した微分積分を使用して、力学現象の解析的な取り扱いへと進んでいく。
	力 学	後	月3－4	松岡 昭男	2	必	理工 CB-B	物理学の基礎である力学の講義を行う。力学の学習を通じて、物理学の基本概念や原理の理解を目的とする。運動、力、仕事、エネルギーを中心に講義し、演習問題で理解度を確認しながら学習を進める。現象をモデル化し、統一的な理解を目指すという自然科学一般で有効な考え方を身に付ける。前期の物理学概論の力学分野の復習から始め、高校で学習した微分積分を使用して、力学現象の解析的な取り扱いへと進んでいく。
	力 学	後	月3－4	後藤 民浩	2	必	理工 CB-C	物理学の基礎である力学の講義を行う。力学の学習を通じて、物理学の基本概念や原理の理解を目的とする。運動、力、仕事、エネルギーを中心に講義し、演習問題で理解度を確認しながら学習を進める。現象をモデル化し、統一的な理解を目指すという自然科学一般で有効な考え方を身に付ける。前期の物理学概論の力学分野の復習から始め、高校で学習した微分積分を使用して、力学現象の解析的な取り扱いへと進んでいく。
	力 学	後	月5－6	座間 淑夫 モハメド・アブドス・サマド・カマル 矢野 絢子	2	必	理工 MS-A MS-B	高校で学んだ物理（力学）と機械系学部で必要な力学の橋渡しとなる講義を行う。内容としては、質点・質点系の力学、振動、剛体の力学などとなる。同時期（1年後期）に開講される「工業力学」との連携も図る。
	力 学	後	水1－2	河井 貴彦	2	必	理工 ES-A	ニュートン力学の基礎的な部分を講義する。この講義を通して、自然科学・技術の全分野で有効な、現象をモデル化し数学的に解析する手法や、エネルギーといった物理特有な考え方を習得することを目指す。運動状態の記述、運動の三法則、簡単な問題への運動法則の適用、質点系・剛体の力学の初歩等を学ぶ。前期の物理学概論の力学分野の復習から始め、高校で学習した微分積分を使用して、力学現象の解析的な取り扱いへと進んでいく。
	力 学	後	木5－6	土橋 敏明	2	必	理工 ES-B	前期の物理学概論で学修したことを基礎に、具体的な問題の分析を通して力学を学ぶ。目標は、力学の学修を通して、科学・技術の全分野で有効な方法論・考え方を身につけることである。現象のモデル化やエネルギーといった抽象概念の使い方を理解することを目指す。質点および質点系の力学を学んだ後、剛体の取り扱いの初歩についても学ぶ。
	力 学	後	水1－2	長尾 辰哉	2	必	理工 EI-A	物理学は自然科学の基礎であり、物理学の基礎が力学である。力学を中心に講義するが、電磁気学、量子力学のエッセンスにも少しふれる。論理的な考え方を養うと同時に、物理数学の実際の計算手法も身に付けることを目標とする。
	力 学	後	水1－2	高橋 佳孝	2	必	理工 EI-B	前期の物理学概論で学習した力学分野を復習し、より詳細に学びながらこれに関する問題の演習を行うことで、力学の諸問題が解けるようになることを目標とする。また、単に力学の知識を得るだけでなく、様々な専門科目を今後学ぶにあたっての基礎を身につけることも目標とする。

[専門教育科目]

科目区分：基礎的な専門教育科目

初
年
次
收

授業科目	授業題目	学期	曜日・時間	担当教員	単位数	選必修	授業クラス	授業目標・内容など
実験系科目	基礎物理実験	前	木7-9	青木 利澄 後藤 民浩	1	必	理ICB1	工学の基礎となる自然現象の理解の妥当性は、実験的検証により保証され、実験における発見が新たな発展を促す原動力であることを理解させる。力学、光学、熱学、電磁気学等に関する実験課題の中からいくつかを取り上げ、協同作業の重要性を認識させるために原則2名1組で実験を遂行させる。内容理解のために口頭試問による指導を行う。課題には未習分野も含まれるが、これは自習する姿勢も身に付けさせることも意図したためである。
			金5-7	平井 光博 松岡 昭男	1	必	理ICB4	
		後	月5-7	高橋 浩 箱田 優 星 和志	1	必	理IES-B	
			火2-4	松岡 昭男 小野 里好邦	1	必	理ICB3	
			木7-9	後藤 民浩 青木 利澄	1	必	理ICB2	
			金5-7	平井 光博 松岡 昭男	1	必	理IES-A	
	基礎化学実験	前	月5-10	工藤 貴子 箱田 優	1	必	理IEI2	化学実験を通じて、科学的なものの考え方、実験の進め方及び結果のまとめ方を習得する。実験では薬品の取り扱い方、基本的器具の操作法、実験室での安全の考え方を学ぶ。A、Bグループに分かれて、隔週で実験を行う。実験のない週は、実験レポートの提出と次回実験の予習を行う。内容は、①定性分析、②定量分析、③化学反応を理解する実験、④計測機器を使用する実験から成る。
			月5-10	尾崎 広明 山田 圭一	1	必	理IEI3	
			木5-10	京免 徹 星 和志	1	必	理IES-B	
			金5-10	住吉 吉英 箱田 優	1	必	理IES-A	
			金5-10	尾崎 広明 進藤 修光	1	必	理IEI1	
		後	金5-10	京免 徹 住吉 吉英 星 和志 箱田 優 進藤 修光	1	必	理IMS	

専
門

[専門教育科目]

科目区分：基礎的な専門教育科目

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 目 標 ・ 内 容 な ど
物理学入門	物理学入門	前	水 9－10	猪熊 仁	2	選	理工	物理学の基本概念を力学および電磁気学分野について学習する。高校程度の内容を中心に講義、演習実験、演習を行う。身近な現象から規則性を見だし科学的に考える能力を育てる。新たな発見や現象を深く理解することの喜びをとおして主体的に学習する態度を育てる。
数学入門	数学入門	前	火 9－10	渡辺 秀司	2	選	理工	高校の数学の微分積分を中心とした内容を復習する。授業では演習によって理解を深める。具体的な内容は、式の計算、2次関数、三角関数、指数関数、対数関数、微分、積分。

[専門教育科目]

科目区分：専門科目

初
荒
年
次
牧

授 業 科 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 目 標 ・ 内 容 な ど
基礎生物学	前	金 1 - 2	粕谷 健一 武田 茂樹 若松 馨	2	㊤	理工 CB	生物学を学ぶために必要な化学的概念を理解できるようになる。また、分野統合科目化学・生物化学基礎Ⅳ、理学系展開科目のうち生物系列科目（主として生化学、微生物学、細胞生物学）を理解するための基礎知識を身につける。
化学・生物化学原論Ⅰ	前	木 1 - 2	山延 健 武田 茂樹 大澤 研二	2	必	理工 CB	大学生として学習、生活する上で必要な事柄、考え方を身につけ、卒業後の進路まで見据え計画的に学習することが重要である。大学生活、社会生活、学科での学習に必ず身に付ける必要のある事柄について講義する。これにより、円滑な学習、計画的な大学生活を送ることができ、将来設計をすることが可能となる。
化学・生物化学原論Ⅱ	前	月 9 - 10	化学・生物 化学科教員	2	必	理工 CB	化学、生物化学の分野のトピックスについて講義し、専門知識、技術についての興味を喚起することで教養科目、理学的基礎の重要性を認識し、理学系展開科目、専門科目への学習意欲を引き出す。講義はオムニバス形式で実施する。
化学・生物化学基礎Ⅰ	後	火 5 - 6	京免 徹	2	必	理工CB-A	物質を構成する基本要素である元素、原子、分子の基本的概念を系統的に修得することを目的として、元素や原子を特徴づけるパラメーターと周期律の関係、結合と分子の電子状態および構造について学習する。
				2	必	理工CB-B	
		木 1 - 2	花屋 実	2	必	理工CB-C	
化学・生物化学基礎Ⅱ	後	木 1 - 2	住吉 吉英	2	必	理工 CB-A	本講義では気体の状態方程式の理解から学習を始め、熱力学第一法則、第二法則、ギブズ自由エネルギー変化および化学平衡について学ぶ。これにより、化学変化の方向を決定している原理を修得し、また反応によりエネルギーが系に出入りする方向と大きさを理解する。さらに化学平衡を理解し、平衡定数を支配する因子について学ぶ。熱力学を学ぶことにより、物質の個々の特性に依らず化学変化の向きを支配する原理を理解することを目標とする。
			奥津 哲夫	2	必	理工 CB-B	
		火 5 - 6	上原 宏樹	2	必	理工 CB-C	
化学・生物化学基礎Ⅲ	後	金 1 - 2	網井 秀樹	2	必	理工 CB-A	大学における有機化学の入門の講義である。有機化合物の構造がどのように機能や反応に関係しているかを理解するため、有機化学の基本概念を学習する。化学結合のなりたち、分子のかたちと混成軌道、立体配座と分子のひずみ、有機化合物の分類、共役、芳香族性、酸と塩基などについて講義する。
			山田 圭一	2	必	理工 CB-B	
			武田 亘弘	2	必	理工 CB-C	
化学・生物化学基礎Ⅳ	後	金 7 - 8	松尾 一一郎	2	必	理工CB-A	生体を構成する物質の基礎を学ぶ。本講義は、生化学、分子生物学、細胞生物学、微生物学の基礎となる。具体的には、生体構成物質（アミノ酸・糖質・脂質・ヌクレオチド）、生体高分子（タンパク質・炭水化物・核酸）、脂質二重膜の化学構造と基本的性質について学習する。
			園山 正史	2	必	理工CB-B	
			尾崎 広明	2	必	理工CB-C	
基礎微分方程式	後	火 3 - 4	山田 正人	2	必	理工 MS	目標：微分方程式の基本的な解法と理論、応用を学ぶ。 内容：(1) 1階および2階常微分方程式の求積法 (2) 現象を表す微分方程式と解析 (3) 近似解法
機械知能システム概論	前	水 1 - 2	莊司 郁夫 相原 智康 天谷 賢児 荒木 幹也 半谷 禎彦 安藤 嘉則	2	必	理工 MS	機械知能システム理工学が取り扱う学問分野を学ぶ上で必要となる理学的知識を整理し、理学系基盤教育科目や理学系展開科目と機械知能システム理工学との関連性を理解する。様々な専門科目とのつながりも示し、今後学ぶ分野を深く理解する。

専
門

[専門教育科目]

科目区分：専門科目

授 業 科 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 目 標 ・ 内 容 な ど
工業力学	後	月 1 - 2	莊 司 郁 夫	2	必	理工 MS	力とそのつり合い、重心、質点と運動、運動と力、剛体の運動、衝突、仕事とエネルギー、摩擦などを取り上げ、これらの概念に対する詳しい講義を行う。
環境創生理工学概論	前	水 1 - 2	中 川 紳 好 桂 進 司 鳶 島 真 一 清 水 義 彦	2	必	理工 ES	本学科の専門教育の理解と学習意欲を高めることを目的として、人と自然の調和が取れた持続可能で豊かな社会・環境の創生に果たす、①環境調和型の革新的工業プロセスや新エネルギー・新材料等の要素技術、②自然災害からの脅威を克服し、環境への負荷が小さい安全・安心な地域づくりをデザインする社会技術および③それらを統合技術を平易に解説し、講義する。
環境創生のための 基礎化学工学	後	火 3 - 4	板 橋 英 之 尾 崎 純 一 佐 藤 和 好	2	必	理工 ES	物質とエネルギーに対する深い理解が、自然と調和する持続可能な社会を構築するためには必要不可欠である。本講義では、環境創生という新たな体系について複数の教員が、物質理解の手段としての化学と、物質変換とエネルギー変換の定量的把握手段である化学工学の基礎から、専門的トピックスまで易しい言葉で講義する。
環境創生のための 基礎力学	後	木 7 - 8	若 井 明 彦 齋 藤 隆 泰 松 本 健 作	2	必	理工 ES	構造力学、地盤力学、水理学等の分野で扱う力学の基礎的な部分を統一的に説明する。応力とひずみの概念や弾性論等、環境創生に必要な力学の基礎知識を習得する。また、力学が、社会基盤施設の設計や防災対策等に、どのように活かされてきたかについても適宜紹介し、その知識の習得の重要性についても理解することを目標とする。
電子情報理工学入門	前	木 9 - 10	電子情報理 工学科教員 (太田 直哉 他)	2	必	理工 EI	電子情報理工学を構成する「計算機科学」、「電子デバイスシステム」、「計測制御エネルギー」、および「情報通信システム」の4つの領域において、必要な知識・技術を概説する。導入的科目であるため簡易に講義・解説し、研究開発に向けた動機付けを行う。
基礎電子情報理工学Ⅰ	後	金 1 - 2	花 泉 修 石 川 赴 夫 小 林 春 夫 山 越 芳 樹	2	必	理工 EI	電子情報理工学のうち、主に電気電子工学分野の専門科目を学ぶ上で必要となる基礎的な知識や技術について解説する。電磁気学、電気回路、電子回路、医用電子工学、信号処理などに関して、入門的な内容を、具体例を示しながら平易に講義する。
基礎電子情報理工学Ⅱ	後	金 7 - 8	荒 木 徹 也 藤 田 憲 悦 河 西 憲 一	2	必	理工 EI	実社会で利用されている電子情報技術のうち、情報通信技術の基礎となる考え方を学ぶ。各分野を専門とする教員が入門的事項から開始して、専門的な話題への橋渡しとなる講義を行う。これにより、情報および情報通信技術の理学的・工学的把握のための基盤を修得することができる。
国際コミュニケーション 実習Ⅰ	後	集 中	海 野 雅 史 石 間 経 章 中 川 紳 好 関 庸 一	1	選	学部共通 科 目	国際語である英語のコミュニケーション能力向上および異文化知識の習得を目的とし、一定期間以上（1週間程度以上）の海外の群馬大学協定校における研修又は専任教員が引率する海外における研修又は国内における専任教員が引率する英語を使用する研修を行い、さらに研修終了後、研修内容の発表会を行う。

荒 牧 地 区

授 業 案 内

(高 年 次)

目 次（荒牧地区）

高 年 次

（注）：（非）は非常勤講師

[教養教育科目]

教養基盤科目

英 語

【教育学部】

英語ⅠⅠ

飯島 睦美 …85
山田 敏幸 …85
渡部 孝子 …85
（非）キメル・キアナ …85
（非）春山デュアンサモン …85
（非）藤枝 豊 …85
上原 景子 …85
ベルジュロン・
シルバン …85
山田 敏幸 …85
渡部 孝子 …85
（新規採用）
（非）春山デュアンサモン …85
（非）藤枝 豊 …85

【社会情報学部】

英語Ⅱ年

井門 亮 …86
ネウパネ・プラミラ …86
（非）ソーバー・ティモシー・
ロドリック …86

【全学部】

英語（再履修）（非）遠藤真知子 …87
（非）小野澤千恵子 …87

[専門教育科目]

専門基礎

医系の数理科学

【医学部医学科】

医系の数理科学

鯉淵 典之 …88
京免 徹 …88
住吉 吉英 …88
高橋 浩 …88
（非）都丸 正 …88
尾崎 広明 …88
山田 圭一 …88

基礎化学実験
（化学実験再履修）

[教養教育科目]

科目区分：教養基盤科目／授業科目：英語

授業科目	授 業 題 目	学期	曜日・時限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
英 語	英語 L I	前	月 3－4	キメル・キアナ	1	必	教2E1	リスニング基礎コースです。浴びるように英語を聞きましょう。身近な話題についてのニュース、会話、講義などを聞いて、基本的な語彙と文法などを学習し、頻繁に使われる語で話されるメッセージを理解できるようにします。また、多読を継続し、多角的な視点で文化や社会について考え、発展的な英語表現で自分の考えを伝えられるようにします。 This is a basic listening course full of aural and oral activities. By listening to news, conversations, and lectures on familiar topics and learning basic vocabularies and grammar, you will be able to understand English spoken in everyday situations. You are also required to pursue extensive reading outside of the classroom, by which you will be able to think of culture and society from various viewpoints and convey your own ideas in natural English.
			月 3－4	藤 枝 豊	1	必	教2E2	
			月 3－4	飯 島 睦美	1	必	教2E3	
			月 5－6	春山 デュアンサモン	1	必	教2E4	
			月 5－6	渡 部 孝子	1	必	教2E5	
			月 5－6	山 田 敏幸	1	必	教2E6	
			月 5－6	飯 島 睦美	1	必	教2E7	
	英語 L II	後	月 3－4	藤 枝 豊	1	必	教2E1	リスニング応用コースです。前期と同様にインプットを続けながら、アウトプットを目指します。より広範囲の話題についてのニュース、会話、講義などを聞いて、発展的な語彙と文法などを学習し、頻繁に使われる語で話されるメッセージを理解できるようにします。また、多読を継続し、多角的な視点で文化や社会について考え、より発展的な英語表現で自分の考えを伝えられるようにします。 This is an advanced listening course, focusing more on improving the ability to express your own ideas in English. By listening to news, conversations, and lectures on a wide range of topics and learning various vocabularies and grammar, you will be able to understand English spoken in everyday situations. You are also required to pursue extensive reading outside of the classroom, by which you will be able to think of culture and society from various viewpoints and convey your own ideas in natural English.
			月 3－4	(新規採用)	1	必	教2E2	
			月 3－4	ベルジェロン・ シルバン	1	必	教2E3	
			月 5－6	山 田 敏幸	1	必	教2E4	
			月 5－6	春山 デュアンサモン	1	必	教2E5	
			月 5－6	渡 部 孝子	1	必	教2E6	
			月 5－6	上 原 景子	1	必	教2E7	

高
荒
年
次
牧

[教養教育科目]

科目区分：教養基盤科目／授業科目：英語

高
年
次
牧

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
英 語	英語２年	前	火３－４	井門 亮	1	必	社2A	この授業は、受講者の英語運用能力が向上することを目的としており、基本的な事項の確認に留意しつつ進められる。 なおテキストは、上述の主旨に沿った形のものをを用いる。
	英語２年	前	火３－４	ネウパネ・プラミラ	1	必	社2B	This class will allow students to develop their communicative English skills in both spoken and written English. Students will read, watch, and listen to a variety of authentic media for in class discussion and write short reflections and homework assignments based on work done in class. (There is no textbook for this class, teacher will provide materials)
	英語２年	前	火３－４	ソーパー・ティモシー・ロドリック	1	必	社2C	リスニング力養成を主体に、総合的な英語の運用能力向上を図る。リスニング・スキル、発音、語彙とフレーズ、文法等の学習を通して、身近な話題に関するメッセージやアナウンスメントを理解できるようにする。また、ミニ・プロジェクトを通して、身近な事柄から文化や社会について考え、英語で伝えることができることを目指す。 This course focuses on improving listening skills while also developing students' overall English ability. Through practicing listening skills, pronunciation, vocabulary and phrases, students become able to understand spoken messages, announcements, and talks about immediate concrete things in their surroundings. In addition, this course aims to develop students' ability to express themselves in English while exploring culture and society through small-scale projects.
	英語２年	後	火３－４	ソーパー・ティモシー・ロドリック	1	必	社2A	リスニング力養成を主体に、総合的な英語の運用能力向上を図る。リスニング・スキル、発音、語彙とフレーズ、文法等の学習を通して、身近な話題に関するメッセージやアナウンスメントを理解できるようにする。また、ミニ・プロジェクトを通して、身近な事柄から文化や社会について考え、英語で伝えることができることを目指す。 This course focuses on improving listening skills while also developing students' overall English ability. Through practicing listening skills, pronunciation, vocabulary and phrases, students become able to understand spoken messages, announcements, and talks about immediate concrete things in their surroundings. In addition, this course aims to develop students' ability to express themselves in English while exploring culture and society through small-scale projects.
	英語２年	後	火３－４	井門 亮	1	必	社2B	この授業は、受講者の英語運用能力が向上することを目的としており、基本的な事項の確認に留意しつつ進められる。 なおテキストは、上述の主旨に沿った形のものをを用いる。
	英語２年	後	火３－４	ネウパネ・プラミラ	1	必	社2C	This class will allow students to develop their communicative English skills in both spoken and written English. Students will read, watch, and listen to a variety of authentic media for in class discussion and write short reflections and homework assignments based on work done in class. (There is no textbook for this class, teacher will provide materials)

[教養教育科目]

科目区分：教養基盤科目／授業科目：英語

授業科目	授業題目	学期	曜日・時限	担当教員	単位数	選必修	授業クラス	授業目標・内容など
英語	英語（再履修）	前	月9-10	遠藤真知子	1	㊤		英語のニュースをききとり、内容を理解することを通して、総合的な英語運用能力の向上を図る。文法の知識の補強も行う。
		前	木3-4	小野澤千恵子	1	㊤		speaking・listening中心の教科書を使用し、さらに補助教材を通しreading・writingと4技能の基礎的英語力を養うことを目指す。読解力や発信力など運用能力を育成するためにも、語彙・文法・構造などに注意を向けながら総合的な学習をしていく。簡単な英語を使い、ペアやグループで話す、聞く力を高める。また時事英語や物語などを読み、自分の感想や考えを文章にしていく。
		後	月9-10	遠藤真知子	1	㊤		英語のニュースをききとり、内容を理解することを通して、総合的な英語運用能力の向上を図る。文法の知識の補強も行う。
		後	木3-4	小野澤千恵子	1	㊤		speaking・listening中心の教科書を使用し、さらに補助教材を通しreading・writingと4技能の基礎的英語力を養うことを目指す。読解力や発信力など運用能力を育成するためにも、語彙・文法・構造などに注意を向けながら総合的な学習をしていく。簡単な英語を使い、ペアやグループで話す、発表する、聞く力を高める。また時事英語や物語などを読み、自分の感想や考えを文章にしていく。総合的学習のまとめとして、TOEIC問題などを使い、解いていく。

高
年
次
牧

[専門教育科目]

科目区分：専門基礎

高
年
次
牧

授業科目	授 業 題 目	学期	曜日・時限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
医系の数理科学	医系の数理科学	前	月 7－8	鯉淵 典之 住吉 吉英 都丸 正浩 高橋 浩	1	必	医2	医学科での専門教育に不可欠な数学、物理学、化学の内容を取り上げ、医学分野の具体的内容に触れながら講義をおこなう。
専門基礎科目	基礎化学実験 (化学実験再履修)	前	月 5－10	尾崎 広明 山田 圭一	1	必	医	化学実験を通じて、科学的なものの考え方、実験の進め方及び結果のまとめ方を習得する。実験では薬品の取り扱い方、基本的器具の操作法、実験室での安全の考え方を学ぶ。実験のない週は、実験レポートの提出と次回実験の予習を行う。内容は①定性分析②定量分析③化学反応を理解する実験④計測機器を使用する実験からなる。

昭 和 地 区

授 業 案 内

目 次（昭和地区）

（注）：（非）は非常勤講師

〔教養教育科目〕

【医学科・高年次】

教養基盤科目

英 語

英語 2 年 （非）クローズ・ディアナ …91
英語（再履修） （非）川島 智幸 …91

〔専門教育科目〕

【医学科・初年次】

専門基礎

自然科学演習・実験

自然科学演習・実験 鯉淵 典之 …※
（他）

学びのリテラシー(3)

学びのリテラシー(3) 鯉淵 典之 …※
（他）

※昭和地区開講の専門基礎科目の詳細はシラバスを参照すること。

〔教養教育科目〕

【保健学科・初年次】

教養基盤科目

学びのリテラシー (1)

学びのリテラシー (1) 近藤 由香 …92
（他）
学びのリテラシー (1) 柴田 孝之 …92
（他）
学びのリテラシー (1) 山上 徹也 …92
（他）
学びのリテラシー (1) 田中 浩二 …92
（他）

【保健学科・高年次】

教養基盤科目

英 語

英語 2 年 川島 智幸 …92
キメル・キアナ …92
英語（再履修） 川島 智幸 …92

[教養教育科目]

科目区分：教養基盤科目／授業科目：英語

授業科目	授 業 題 目	学期	曜日・時限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
英 語	英語2年	前	火1-2	クローズ・ ディアナ	1	必	医2A	Overall, this class is designed to provide an interactive and interesting introduction to vital medical English that will help give you the basis of medical English that you will need to succeed in school and your career.
			火3-4		1	必	医2B	The main focus of this class is on learning basic anatomical terminology in English. Students will work in groups to create muscles using clay on a skeletal model.
		後	月3-4		1	必	医2A	Primary emphasis will be on basic bone names and landmarks and major skeletal muscles. Students will be expected to learn the name, location and function of the muscles.
			月1-2		1	必	医2B	This class will also focus on learning the fundamentals of medical English. We will learn basic Latin and Greek roots which form the basis of a majority of the medical English that students will later encounter in medical textbooks and journals.
	英語（再履修）	前	月9-10	川島 智幸	1	㊤	医・保	Fall Semester This class will provide a continuation of learning the fundamentals of medical English through the study of Latin and Greek roots from Spring semester. Students will progress to reading medical articles, both scientific and narrative, in English. Students will practice basic communication skills via two main activities. First, in simulated doctor-patient scenarios students will have the opportunity to ask and respond to typical patient history questions. Secondly, students will be expected to present an original poster in English to their classmates. Students will have regular opportunities to listen to authentic recordings of native speakers talking about health and illness and will improve basic listening comprehension.
								英文読解や聞きとり、音読・暗唱を通して、英語力を高めるための基礎的な力を養う。

昭
和

[教養教育科目]

科目区分：教養基盤科目／授業科目：学びのリテラシー（１）

授業科目	授 業 題 目	学期	曜日・時限	担 当 教 員	単位数	選 必 別	授 業 クラス	授 業 目 標 ・ 内 容 な ど
学びのリテラシー（１）	学びのリテラシー（１）	前	金３－４	近藤 由香 （他）	2	必	保AB/ 看護	論理的思考能力とコミュニケーション能力の基本的姿勢を習得し、将来的にこの能力を向上させることを目標とする。具体的には、まず講義・演習を通じて文献を活用したレポートの書き方について学習する。最後に、学生自身が自分でテーマを決め、それについて情報収集、情報の理解・吟味、情報のまとめを行い、発表と討論を行う。
	学びのリテラシー（１）	前	金９－10	柴田 孝之 （他）	2	必	保C/ 検査技術1 保C/ 検査技術2	学びのリテラシーを高めるため、レポート作成及びプレゼンテーション力の育成と、コミュニケーション能力の育成を主眼として、実践的な演習を交えた授業とする。
	学びのリテラシー（１）	前	金１－２	山上 徹也 中澤 理恵 朝倉 智之	2	必	保D/ 理 学	将来臨床や研究の場において、自分の考えを発表する時に必要な日本語能力を修得する。各自がテーマを設定し、資料を収集・分析、論点を整理し他者に伝える。また、他者の発表を聞き、自分の考えを伝える過程を経験する。
	学びのリテラシー（１）	前	金１－２	田中 浩二 土屋 謙仕	2	必	保D/ 作 業	将来臨床や研究の場において、自分の考えを発表する時に必要な日本語能力を修得する。各自がテーマを設定し、資料を収集・分析、論点を整理し他者に伝える。また、他者の発表を聞き、自分の考えを伝える過程を経験する。

[教養教育科目]

科目区分：教養基盤科目／授業科目：英語

授業科目	授 業 題 目	学期	曜日・時限	担 当 教 員	単位数	選 必 別	授 業 クラス	授 業 目 標 ・ 内 容 な ど
英 語	英語２年	前	火３－４	川島 智幸	1	必	保2A	医療や健康に関する基本的な表現を身につけるとともに、英語を聞いたり、話す、書く力を伸ばす。
			木５－６		1	必	保2C	
			火７－８		1	必	保2D	
	英語２年	前	火３－４	キメル・キアナ	1	必	保2B	医療関連の英文を読み、読む、書く力を中心に伸ばす。
		後	火３－４	キメル・キアナ	1	必	保2A	
	英語２年	後	火３－４	川島 智幸	1	必	保2B	医療や健康に関する基本的な表現を身につけるとともに、英語を聞いたり、話す、書く力を伸ばす。
			火５－６		1	必	保2C	
			火７－８		1	必	保2D	
	英語（再履修）	前	月９－10	川島 智幸	1	㊤	医・保	英文読解や聞きとり、音読・暗唱を通して、英語力を高めるための基礎的な力を養う。

桐 生 地 区

授 業 案 内

(高年次)

目 次（桐生地区）

高 年 次

（注）：（非）は非常勤講師

[教養教育科目]

教養基盤科目

英 語

英語 C I

コントラス・ジェフリー …95
 ワーゲンブーム・レイモンド …95
 飯田 敦史 …95
 飯島 睦美 …95
 ペルジュロン・シルバン …95
 ネウパネ・プラミラ …95
 （非）マツカラク・ヘザー …95
 （非）飛田 ルミ …95
 （非）岡田 和子 …95
 （非）正田久実子 …95

英語 C II

コントラス・ジェフリー …96
 ワーゲンブーム・レイモンド …96
 飯田 敦史 …96
 飯島 睦美 …96
 ペルジュロン・シルバン …96
 ネウパネ・プラミラ …96
 （非）マツカラク・ヘザー …96
 （非）飛田 ルミ …96
 （非）岡田 和子 …96
 （非）正田久実子 …96

教養基盤科目

英 語

英語（再履修）（非）前原 由幸 …97

教養育成科目

人文科学科目群

倫理学（非）佐藤 雅男 …97
 哲学（非）根田 隆平 …97

社会科学科目群

社会学（非）石井 幸夫 …97

自然科学科目群

地球科学（非）中村 庄八 …98

外国語教養科目群

選択英語 A⑤（非）前原 由幸 …98
 選択英語 A⑥（非）前原 由幸 …98

総合科目群

技術者原論 各学科教員 …98
 （非）大竹 雅久 …98
 （非）神林 茂実 …98
 （非）永江 公二 …98
 （非）岡崎 方紀 …98
 次世代交通機関としての電気自動車と設計技術、自動運転技術（非）白石 洋一 …98

[日本語・日本事情]

（留学生対象）

日本語

桐生日本語中級 I 大和 啓子 …99
 桐生日本語中級 II 船橋 瑞貴 …99
 桐生日本語上級 I 大和 啓子 …99
 桐生日本語上級 II 船橋 瑞貴 …99

高桐
年
次生

[教養教育科目]

科目区分：教養基盤科目／授業科目：英語

授業科目	授 業 題 目	学期	曜日・時限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
英 語	英語CⅠ	前	水5-6	コントレラス・ジェフリー	1	必	理工2 CB/ES-1	1年次に修得した知識を使い、「聞く」「読む」「話す」「書く」能力をバランスよく向上することを目標とします。プロジェクト型学習（Project-Based Learning）を導入し、日常生活に関する内容を英語で説明できる実践的運用能力を習得します。また、各自のレベルや関心に合わせた本を読む「多読プロジェクト」を通して、英語力を向上させつつ読書を楽しみ、人間や社会についてより深く考え、英語で伝えることができることを目指します。 This is a course aiming to foster well-balanced four skills-listening, reading, speaking and writing-based on the knowledge and skills acquired in the first year. You will be able to explain various matters in everyday life in English through learning by the project-based learning. You are also required to pursue extensive reading outside of the classroom, by which you will be able to think of culture and society from various points and convey your own ideas in English.
			水5-6	フーゲンブーム・レイモンド	1	必	理工2 CB/ES-2	
			水5-6	ベルジュロン・シルバン	1	必	理工2 CB/ES-3	
			水5-6	飯田 敦史	1	必	理工2 CB/ES-4	
			水5-6	岡田 和子	1	必	理工2 CB/ES-5	
			水5-6	マッカラク・ヘザー	1	必	理工2 CB/ES-6	
			水5-6	春山 デュアンサモン	1	必	理工2 CB/ES-7	
			水5-6	飛田 ルミ	1	必	理工2 CB/ES-8	
			水5-6	正田久実子	1	必	理工2 CB/ES-9	
			水5-6	飯島 睦美	1	必	理工2 CB/ES-10	
			水3-4	コントレラス・ジェフリー	1	必	理工2 MS/EI-1	
			水3-4	フーゲンブーム・レイモンド	1	必	理工2 MS/EI-2	
			水3-4	ベルジュロン・シルバン	1	必	理工2 MS/EI-3	
			水3-4	飯田 敦史	1	必	理工2 MS/EI-4	
			水3-4	岡田 和子	1	必	理工2 MS/EI-5	
			水3-4	マッカラク・ヘザー	1	必	理工2 MS/EI-6	
			水3-4	春山 デュアンサモン	1	必	理工2 MS/EI-7	
			水3-4	飛田 ルミ	1	必	理工2 MS/EI-8	
			水3-4	正田久美子	1	必	理工2 MS/EI-9	
			水3-4	飯島 睦美	1	必	理工2 MS/EI-10	

高
桐
年
次
生

[教養教育科目]

科目区分：教養基盤科目／授業科目：英語

授業科目	授 業 題 目	学期	曜日・時限	担 当 教 員	単位数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
英 語	英語CⅡ	後	水5-6	コントレラス・ジェフリー	1	必	理工2 CB/ES-1	英語CⅠで習得した実践的運用能力のさらなる定着を目指します。3年次に履修することとなる「専門英語」の科目で必要な科学的テキストの理論的読解力、また4年次における卒業研究において必要となるアウトプットする力の養成につながるように、さらに高度なリーディング力と発表する力を養成することを目指します。ここまでの1年半継続してきた「多読プロジェクト」の一応の集大成として、合計60万語の読破を目指します。 This is an advanced course, focusing more on improving practical English competency based on abilities you acquire in CⅠ. By learning in this course, you will be able to read a higher-level scientific text in a technical English course at the 3rd year, and to convey your ideas on your graduate thesis in English at the 4th year. You are also required to pursue extensive reading outside of the classroom, by which you will be able to think of culture and society from various viewpoints and convey your own ideas in natural English. You will have read 600,000 words at the end of the 2nd year.
			水5-6	フーゲンブーム・レイモンド	1	必	理工2 CB/ES-2	
			水5-6	ベルジュロン・シルバン	1	必	理工2 CB/ES-3	
			水5-6	新規採用	1	必	理工2 CB/ES-4	
			水5-6	岡田 和子	1	必	理工2 CB/ES-5	
			水5-6	マッカラク・ヘザー	1	必	理工2 CB/ES-6	
			水5-6	春山 デュアンサモン	1	必	理工2 CB/ES-7	
			水5-6	飛田 ルミ	1	必	理工2 CB/ES-8	
			水5-6	正田久実子	1	必	理工2 CB/ES-9	
			水5-6	飯島 睦美	1	必	理工2 CB/ES-10	
			水3-4	コントレラス・ジェフリー	1	必	理工2 MS/EI-1	
			水3-4	フーゲンブーム・レイモンド	1	必	理工2 MS/EI-2	
			水3-4	ベルジュロン・シルバン	1	必	理工2 MS/EI-3	
			水3-4	新規採用	1	必	理工2 MS/EI-4	
			水3-4	岡田 和子	1	必	理工2 MS/EI-5	
			水3-4	マッカラク・ヘザー	1	必	理工2 MS/EI-6	
			水3-4	春山 デュアンサモン	1	必	理工2 MS/EI-7	
			水3-4	ネウパネ・プラミラ	1	必	理工2 MS/EI-8	
			水3-4	正田久実子	1	必	理工2 MS/EI-9	
			水3-4	飯島 睦美	1	必	理工2 MS/EI-10	

高
桐
年
次
生

[教養教育科目]

科目区分：教養基盤科目／授業科目：英語

授業科目	授 業 題 目	学期	曜日・時限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
英 語	英語（再履修）	前	水11－12	前原 由幸	1	㊥		語彙の増強、重要構文の復習、平易な英文の読解、聞き取りを行います。英語運用力の基礎を固めることを目標とします。
		後	月11－12		1	㊥		

[教養教育科目]

科目区分：教養育成科目／授業科目：人文科学科目群

授業科目	授 業 題 目	学期	曜日・時限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
人 文 科 学 科 目 群	倫理学	前	月 7－8	佐藤 雅男	2	選	理工2	紀元前5世紀頃に、人類は人間としての意識に目覚めた。それは自然や神々、あるいは、自己自身について思想を始めたのであり、この時代に歴史が大転換を遂げたのである。ギリシアにソクラテスやプラトン、インドにブッダ、そして中国に孔子などが現れ、彼らの人間に関する思想は、現代でも全く古びることがない。 我々は如何なる人間像を抱くべきなのか、そのことを、倫理想史の観点から考えてみる。
	哲 学	後	月 7－8	根田 隆平	2	選	理工2	死はすなわち無か、否か。例えばこのような問いから、哲学の根幹としての存在論が立ち上がる。存在論とは「ものが在る」とはいかなることかを「論じる」ことであり、そこから、「もの」と、それについて語る「ことば」についての省察が要請される。自明性の地盤を掘り崩す哲学的思索とはいかなるものかを「体験」することが、この講義の目的である。

[教養教育科目]

科目区分：教養育成科目／授業科目：社会科学科目群

授業科目	授 業 題 目	学期	曜日・時限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
社 会 科 学 科 目 群	社会学	前	月 7－8	石井 幸夫	2	選	理工2	戦後日本社会において、女性にとっての労働の意味がどう変遷してきたかを明らかにし、これによって人間にとっての労働とは何か、そしてこの問題に社会学はどのようにアプローチするかを明らかにする。具体的には、戦後高度経済成長期（5,60年代から70年代半ばまで）における女性の社会的あり方から説き起こして、これが高度経済成長期以降（70年代半ばから90年代半ばまで）、さらにバブル期以降（90年代半ば以降）の現代、どのように変化していくのかを、その時代の社会状況、および人々の（職業意識を含む）様々な意識のあり方などを踏まえて講義する。

[教養教育科目]

科目区分：教養育成科目／授業科目：自然科学科目群

授業科目	授 業 題 目	学期	曜日・時限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
自然科学科目群	地球科学	前	水7-8	中村 庄八	2	選	理工2	46億年前に誕生した地球が今日までたどってきた地球史を学ぶとともに、日本列島や群馬の地質の生い立ちも理解し、その上で、私たちの生活地盤となり、避けることが不可能な地震・火山・台風・竜巻・地すべり・斜面崩壊などの自然災害と生涯うまくつき合っていく科学的技能を身につけ、自ら実践できるようになることを目的とする。

[教養教育科目]

科目区分：教養育成科目／授業科目：外国語教養科目群

授業科目	授 業 題 目	学期	曜日・時限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
外国語教養科目群	選択英語A⑤	前	水9-10	前原 由幸	1	選		TOEIC 試験の対策を行うと同時に全体的な学力の向上をめざします。TOEIC の試験形式に応じた問題演習を行います。問題を解きながら、語彙を増強し、聞き取り、読解力の向上をはかります。50点以上の向上を目指します。
	選択英語A⑥	後	月9-10	前原 由幸	1	選		TOEIC 試験の対策を行うと同時に全体的な学力の向上をめざします。TOEIC の試験形式に応じた問題演習を行います。問題を解きながら、語彙を増強し、聞き取り、読解力の向上をはかります。50点以上の向上を目指します。

[教養教育科目]

科目区分：教養育成科目／授業科目：総合科目群

授業科目	授 業 題 目	学期	曜日・時限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
総合科目群	技術者原論	後	水7-8	各学科教員 大竹 雅久 神林 茂実 永江 公二 岡崎 方紀	2	選	理工3	工業製品が社会や自然に及ぼす効果や影響、および技術者が社会に対して負っている責任に関する理解、すなわち技術者倫理の基礎を学ぶ。また専門分野の技術倫理についても学ぶ。さらに、技術経営、地球環境保全などに関する基礎知識を習得することにより、総合的な視点で問題発見、問題解決に取り組める技術者になることの価値・重要性を学習していく。
	次世代交通機関としての電気自動車と設計技術、自動運転技術	後	水7-8	白石 洋一	2	選	理工2	電気自動車は環境問題の観点からガソリンエンジン車に代わるべき交通手段として、近年特に注目されているが歴史的にはガソリンエンジン車よりも古い。本授業では電気自動車の歴史から始め、現状の課題や今後の発展性について学ぶ。また、一人乗りの小さな電気自動車を設計製作した事例を紹介し、グループ討議を交えながら理解を深めてもらう。

[日本語・日本事情科目]

科目区分：日本語・日本事情

授業科目	授 業 題 目	学期	曜日・時限	担 当 教 員	単位数	選 必 別	授 業 クラス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
日本語	桐生日本語中級Ⅰ	前	水9-10	大和 啓子	1		留学生	理工学部留学生を対象に、桐生キャンパスで開講する日本語クラスです。中級レベルの学習者を対象に、大学での研究、学習活動に必要な総合的な日本語能力の育成を図ります。できるだけ、桐生日本語中級Ⅱと合わせて通年で履修してください。
	桐生日本語中級Ⅱ	後	水11-12	船橋 瑞貴	1			理工学部留学生を対象に、桐生キャンパスで開講する日本語クラスです。中級レベルの学習者を対象に、大学での研究、学習活動に必要な総合的な日本語能力の育成を図ります。できるだけ、桐生日本語中級Ⅰと合わせて通年で履修してください。
	桐生日本語上級Ⅰ	前	水3-4	大和 啓子	1			理工学部留学生を対象に、桐生キャンパスで開講する日本語クラスです。上級レベルの学習者を対象に、専門的な学習に必要な日本語の技能をさらに伸ばします。また、将来の進路に視野をおき、日本企業への就職に必要な高度な日本語能力の育成を図ります。できるだけ、桐生日本語上級Ⅱと合わせて通年で履修してください。
	桐生日本語上級Ⅱ	後	水3-4	船橋 瑞貴	1			理工学部留学生を対象に、桐生キャンパスで開講する日本語クラスです。上級レベルの学習者を対象に、専門的な学習に必要な日本語の技能をさらに伸ばします。また、将来の進路に視野をおき、日本企業への就職に必要な高度な日本語能力の育成を図ります。できるだけ、桐生日本語上級Ⅰと合わせて通年で履修してください。

高
桐
年
次
生

桐 生 地 区

授 業 案 内

(理工学部 総合理工学科)

目 次（桐生地区 理工学部 総合理工学科）

（注）：（非）は非常勤講師

【教養教育科目】

【初年次】

教養基盤科目

学びのリテラシー（1）

学びのリテラシー（1） 網井 秀樹…103
上原 宏樹

学びのリテラシー（2）

学びのリテラシー（2） 天谷 賢児…103

英 語

英語 （非）前原 由幸…103
英語 （非）前原 由幸…103

教養育成科目

自然科学科目群

物理の考え方 高橋 学…103

【高年次】

教養育成科目

総合科目群

環境と科学と技術 若井 明彦…104
中川 紳好

[教養教育科目]

科目区分：教養基盤科目／授業科目：学びのリテラシー（１）

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 クラス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
学びのリテラシー（１）	学びのリテラシー（１）	前	月13－14	網井 秀樹 上原 宏樹	2	選	総合理工学科	最初に、大学生に必要とされる日本語について講義や演習を通して学ぶ。その後、自ら選んだテーマについて、情報を集め、吟味し、他者と議論することにより様々なものの見方に出会い、さらに得た情報を体系化して自らの考えを確立するという過程を体験する。これらを通じ、論理的思考能力とコミュニケーション能力の重要性を理解し、その能力を向上させることの必要性を認識できるようにする。

[教養教育科目]

科目区分：教養基盤科目／授業科目：学びのリテラシー（２）

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 クラス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
学びのリテラシー（２）	学びのリテラシー（２）	後	火11－12	天谷 賢児	2	選	総合理工学科	理工学を学ぶ上で必要になる、ものの仕組みや性能を正しく理解する能力を養うために、興味のある機械や製品を各自取り上げ、その仕組みの調査、分解や組立を行うとともに、性能の評価や解析を行う。また、調査結果についてのプレゼンテーションを行い、調査結果をうまく伝える方法を学ぶ。 〔受人数：30名〕

総理桐
合理工
学工学
科部生

[教養教育科目]

科目区分：教養基盤科目／授業科目：英語

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 クラス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
英 語	英 語	前	水11－12	前原 由幸	1	選	総合理工学科	語彙の増強、重要構文の復習、平易な英文の読解、聞き取りを行います。英語運用力の基礎を固めることを目標とします。
		後	月11－12		1	選		

[教養教育科目]

科目区分：教養育成科目／授業科目：自然科学科目群

授業科目	授 業 題 目	学 期	曜 日 ・ 時 限	担 当 教 員	単 位 数	選 必 別	授 業 クラス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
自然科学科目群	物理の考え方	後	水11－12	高橋 学	2	選	総合理工学科	物理学の発展、自然観の変遷に関する話から始め、様々な物理法則の意味について具体例を挙げながら考察する。現代物理学全体を概観することで、現代的な自然観に立って自然現象を考察できる能力を身に付ける。

[教養教育科目]

科目区分：教養育成科目／授業科目：総合科目群

授業科目	授 業 題 目	学期	曜日・時限	担 当 教 員	単位数	選 必 別	授 業 ク ラ ス	授 業 日 標 ・ 内 容 な ど
総合科目群	環境と科学と技術	後	月11－12	若井 明彦 中川 紳好	2	選	総合理工学科2年 夜間用	地球環境、社会環境など人類が関わる環境と、科学、技術との関わりについて、様々な事例および観点を紹介する。関連知識を広め、広い視野を得ることを目的とする。

開放專門科目

令和2年度 開放専門科目一覧

[共同教育学部・教育学部]

授業科目	授業題目	学期	曜・時限	担当教員	単位数	選 必 別	ク授 ラ ス業	授業目標・内容など	区分	開講地区
人文科学科目群	英語学入門	前	木9-10	山田 敏幸	2	必		現代言語学・英語学の基本的な考え方、英語の音声の仕組み（音声学、音韻論）、英文法（形態論／語形成論、統語論、意味論、語用論）、英語の歴史の変遷（英語史）、国際共通語としての英語（社会言語学）、ことばの獲得と学習（第一言語獲得論、第二言語習得・学習論）の基礎概念を概観し、ことばの様々な側面に対する理解を深め、将来授業を行う際に役立つ知識・技能を修得することである。到達目標は、①現代言語学・英語学の基本的な考え方、取り上げる各分野の基礎概念を理解できている、②言語現象の観察から得られた洞察を、将来の授業実践にどのように応用できるか自ら考えることができる、③物事を科学的に分析できる思考力を養い、自ら考えたアイデアを明快にプレゼンテーションできることである。 履修条件：ヒトのことば一般に興味があること。要は、「なぜ？（Why?）」を知りたい知的好奇心があること。 受入数：5名 ※本講義は、教育学部の専門科目と同じなので、教育学部の学生は教養教育科目としては履修できません。	初年次用	荒牧
人文科学科目群	ドイツ語とその文化	前	月5-6	田中 一嘉	2	選		1年次に習得した基礎的なドイツ語力を基に、ドイツ語とその文化圏についての諸事情を、ドイツ語で書かれた簡単なテキストを用いて読み解く。同時に、ドイツ語運用能力の向上も図る。 履修条件：1年次のドイツ語の単位を2単位以上取得している、あるいはそれと同等のドイツ語力を有していること。 受入数：15名 ※本講義は、教育学部の専門科目と同じなので、教育学部の学生は教養教育科目としては履修できません。	高年次用	荒牧
自然科学科目群	電磁気回路理論Ⅰ	前	月7-8	片柳 雄大	2	選		直流および正弦波交流の電気回路について基礎的な法則等について理解する。（オームの法則、合成抵抗、単位電流法による合成抵抗の求め方、重ね合わせの理、テブナンの定理、倍率器、分流器、 Δ -Y変換、実効値、波高率、インピーダンス、力率など。） 履修条件：高等学校の物理を履修していることが望ましい。 受入数：10人程度 ※本講義は、教育学部の専門科目と同じなので、教育学部の学生は教養教育科目としては履修できません。	初年次用	荒牧

科開
放専
門

[社会情報学部]

授 業 科 目	授 業 題 目	学 期	曜・時限	担当教員	単 位 数	選 必 別	ク授 ラ ス業	授業目標・内容など	区 分	開 講 地 区
人文科学科目群	社会倫理Ⅰ	前	月3-4	山内 春光	2	選		社会情報学において倫理問題（人はどうあるべきか、どのように生きるのが善いか・正しいか・幸せか、という問い）は、どう成り立ちどのようにそこに位置づけるかをさぐる。すなわち、社会情報研究と倫理思想研究の関連の仕方、そこでの倫理問題へのアプローチの方法を考察し、その上で、社会情報学において問題とされるべき実際の社会的事件について、倫理的視点からの考察を試みる。 履修条件：3年生以上 受入数：10名 ※本講義は、社会情報学部の専門科目と同じなので、社会情報学部の学生は教養教育科目としては履修できません。	高年 次用	荒牧
自然科学科目群	環境アセスメント	前	月9-10	石川 真一 西村 尚之	2	選		環境科学のthird step科目として、環境政策や企業活動における意思決定の基盤を提供する環境アセスメントの理論的根拠、法的しくみおよび手法について学ぶ。 履修条件：3年生以上 受入数：10名 ※本講義は、社会情報学部の専門科目と同じなので、社会情報学部の学生は教養教育科目としては履修できません。	高年 次用	荒牧
社会科学科目群	憲法Ⅰ	前	月9-10	藤井 正希	2	選		憲法の基本的人権は、国民生来の権利・自由を学ぶ法分野である。国民の幸福を実現するために、日本国憲法がどのような権利・自由を保障しているのかについて、憲法体系に沿って概観していく。この点、まず立憲主義、個人の尊厳（個人主義）、人権の概念、人権の国際化等の人権の基本原則を学習した上で、平等権、自由権、社会権を理解することが最大のテーマとなる。人権の分野では、とりわけ自由権と社会権の異同を理解することが重要となる。さらに、幸福追求権や受益権、参政権等が考察の対象となる。必要に応じて、アメリカやイギリスの憲法にもふれていく。 受入数：10名程度 ※本講義は、社会情報学部の専門科目のため、社会情報学部生は教養教育科目としては履修できません。	高年 次用	荒牧
人文科学科目群	社会倫理Ⅱ	後	火5-6	山内 春光	2	選		社会倫理Ⅰの考察をふまえ、倫理思想史の実践的研究に入る。すなわち倫理思想史は、社会情報学における倫理問題研究の方法的な基礎でもあり、同時にその実践的な発展形態とも位置づけられる。そうした倫理思想史についての知見を深めるべく、その古典的文献の読解を行うとともに、そのことを通じ、具体的・実践的にどのような倫理研究がより深い形で我々に可能であるのかを考えたい。 履修条件：3年生以上 受入数：10名 ※本講義は、社会情報学部の専門科目と同じなので、社会情報学部の学生は教養教育科目としては履修できません。	高年 次用	荒牧
人文科学科目群	異文化コミュニケーション論	後	金9-10	結城 恵	2	選		少子高齢化による人口減少社会において、生まれ育った文化や社会が異なる人々の活用が地域活性化に貢献するという前提をもとに、ダイバーシティ状況におけるコミュニケーションに関する基礎的知識と技能を、①互いにとって必要な内容を誤りなくかつ過不足なく伝え合う「ふさわしさ」、②互いが十分に内容を理解できるように、表現を工夫して伝え合う「敬意と親しさ」に焦点をあてて、理解することを目的とする。そのうえで、自分とは異なる文化的背景や価値観を持つ集団や個人と接触した際に、どのようにすればコミュニケーション上での障害や誤解が解消され、円滑な意思疎通が可能になるのかを検討する。 履修条件：3年生以上 受入数：5名程度 ※本講義は、社会情報学部の専門科目と同じなので、社会情報学部の学生は教養教育科目としては履修できません。	高年 次用	荒牧
総合科目群	集合的選択論	後	水1-2	岩井 淳	2	選		フランス革命等の集合的意思決定の歴史を概観したうえで、様々な個人の選好の集約を考える「社会的選択理論」を中心に学ぶ。講義内容の多くは数理的な議論であり、アローのいわゆる「不可能性定理」の理解が主要な目標の一つである。 履修条件：3年生以上 受入数：若干名 ※本講義は、社会情報学部の専門教育科目のため、社会情報学部生は教養教育科目としては履修できません。	高年 次用	荒牧

[医学部保健学科]

授 業 科 目	授 業 題 目	学 期	曜・時限	担当教員	単 位 数	選 必 別	ク授 ラ ス業	授業目標・内容など	区 分	開 講 地 区
自然科学科目群	分子生物学	前	金 3 - 4	大西 浩史	2	選		分子生物学は、量子力学と並び20世紀最大の成果を上げた学問である。この学問は、遺伝子の本体を分子レベルで探ることから出発し、その実態を明らかにしてきた。途中で生化学と結びつき、さらに、今では医学、農学、免疫学、発生学、神経科学等の研究に不可欠なものとなってきた。本講義では、分子生物学の歴史からまず始めて、次に基本的な事柄の教授を行う。 履修条件：2年生以上〔受入数：5名以下〕 ※本講義は、医学部保健学科の専門科目のため、保健学科生は教養教育科目としては履修できません。	高年 次用	昭和
健康科学科目群	医療統計学	後	月 3 - 4	大庭 志野	2	選		医療統計学について入門的な講義を行う。記述統計及び推測統計の基本的な理論について学び、医療や保健の研究でどのように用いられるかを考える。 変数の型、尺度、代表値、SD、Zスコア、SE、仮説検定と95%信頼区間、仮説検定の過誤、t検定、 χ^2 検定、ピアソンの相関係数などについて、その理論と医療や保健における応用を学ぶ。 受入数：10名 ※本講義は、医学部保健学科の専門教育科目のため、保健学科の学生は教養教育科目としては履修できません。	初年 次用	昭和

[理工学部]

授業科目	授業題目	学 期	曜・時限	担当教員	単 位 数	選 必 別	授業クラス	授業目標・内容など	区 分	地 区 講
自然科学科目群	化学・生物化学基礎Ⅰ	後	火 5-6	京免 徹	2	選	化学・生物化学AB	無機化学の基礎理解 (受入数：若干名) 履修条件：高校卒業程度 ※本講義は、理工学部の専門科目のため、理工学部生及び工学部生は 教養教育科目としては履修できません。	初年 次用	荒牧
		後	木 1-2	花屋 実			化学・生物化学C			
	化学・生物化学基礎Ⅱ	後	火 5-6	上原 宏樹	2	選	化学・生物化学C	熱力学の基本概念の理解と応用 (受入数：若干名) 履修条件：前期に開講される化学概論を受講していることが望ましい。 ※本講義は、理工学部の専門科目のため、理工学部生及び工学部生は 教養教育科目としては履修できません。	初年 次用	荒牧
		後	木 1-2	住吉 吉英 奥津 哲夫			化学・生物化学AB			
	化学・生物化学基礎Ⅲ	後	金 1-2	網井 秀樹 武田 亘弘 山田 圭一	2	選	化学・生物化学全クラス	炭化水素の構造と性質を理解する。 (受入数：若干名) 履修条件：高校で有機化学の一応のレベルまで履修していること ※本講義は、理工学部の専門科目のため、理工学部生及び工学部生は 教養教育科目としては履修できません。	初年 次用	荒牧
	化学・生物化学基礎Ⅳ	後	金 7-8	松尾 一郎 園山 正史 尾崎 広明	2	選	化学・生物化学全クラス	生体を構成している基本的物質（アミノ酸・単糖・脂質・ヌクレオチド）の化学構造と基本的性質、及びそれらが脱水縮合・集合してできるタンパク質・炭水化物・脂質二重膜・核酸の機能・構造について学ぶ。 (受入数：若干名) 履修条件：高校の化学、生物を履修していることが望ましい。 ※本講義は、理工学部の専門科目のため、理工学部生及び工学部生は 教養教育科目としては履修できません。 高校の化学、生物を履修していることが望ましい。	初年 次用	荒牧
総合科目群	国際コミュニケーション実習Ⅱ	通	—	海野、石間 中川、関	2	選	機械知能	機械知能システム理工学が取り扱う学問分野について入門的な講義を行う。特に、機械知能システム理工学を学ぶ上で必要となる理学的知識を整理し、理学系基盤教育科目や理学系展開科目と機械知能システム理工学との関連性を理解する。 (受入数：若干名) 履修条件：特になし ※本講義は、理工学部の専門科目のため、理工学部生及び工学部生は 教養教育科目としては履修できません。	初年 次用	荒牧
								国際語である英語のコミュニケーション能力向上及び異文化知識の習得を目的とし、一定期間以上（2週間程度以上）の海外の群馬大学協定校における研修又は海外における専任教員が引率する研修又は国内における専任教員が引率する英語を使用する研修を行い、さらに研修終了後、研修内容の発表会を行う。 (受入数：5) 履修条件：GFLコース用に開講するものに限る。 ※本講義は、理工学部の専門科目のため、理工学部生及び工学部生は 教養教育科目としては履修できません。		

[理工学部]

授業科目	授業題目	学 期	曜・時限	担当教員	単 位 数	選 必 別	授業クラス	授業目標・内容など	区 分	地開 区講
総合科目群	交通・都市開発工学	前	火1-2	森田 哲夫	2	選	環境創生 社会基盤・防災	交通工学発展の歴史を踏まえて、まず総合交通体系としての交通理論について述べる。次に各論として、道路、公共交通そして結節点などの交通理論について述べる。都市計画理論の歴史的発展の推移と現状における理論体系を、実例を紹介しながら述べる。 (受入数:20) 履修条件:特になし ※本講義は、理工学部の専門科目のため、工学部生及び理工学部生は教養教育科目としては履修できません。	高年 次用	桐生
	環境水質工学	後	木3-4	渡邊 智秀	2	必	環境創生 社会基盤・防災	環境水質の特性を把握するための基礎ならびに、水質変換プロセスの基礎を理解する。 (受入数:10) 履修条件:特になし ※本講義は、理工学部の専門科目のため、工学部生及び理工学部生は教養教育科目としては履修できません。	高年 次用	桐生
	分子生物学	後	火3-4	行木 信一	2	選	化学・生物化学 全クラス	細胞内での蛋白質合成の仕組みを解説し、さらに遺伝子操作技術について学ぶ。これらを組み合わせて理解し、蛋白質の構造を改変して天然に存在しない新しい蛋白質を作成する「タンパク質工学」の技術とその利用について理解を深める。さらにバイオテクノロジーの現状と将来の可能性について解説する。 (受入数:若干名) 履修条件:学部2年終了程度 ※本講義は、理工学部の専門科目のため、工学部生及び理工学部生は教養教育科目としては履修できません。	高年 次用	桐生
自然科学科目群	防災工学	前	木5-6	鶴崎 賢一	2	選	環境創生 社会基盤・防災	自然災害に対する認識を深める。 (受入数:30) 履修条件:特になし ※本講義は、理工学部の専門科目のため、工学部生及び理工学部生は教養教育科目としては履修できません。	高年 次用	桐生
	耐震工学	後	火1-2	若井 明彦	2	選	環境創生 社会基盤・防災	地震に関する一般的な知識、並びに建設構造物の耐震設計法と振動に関する基礎知識を習得する。 (受入数:30) 履修条件:剛体の力学、質点の力学、バネの振動について、教養課程の「物理」で習う程度の基礎知識を必要とする。 ※本講義は、理工学部の専門科目のため、工学部生及び理工学部生は教養教育科目としては履修できません。	高年 次用	桐生
	生化学	前	火5-6	若松 馨 粕谷 健一 武田 茂樹	2	選	化学・生物化学 全クラス	生化学、分子生物学、細胞生物学に関する基礎的な知識を学ぶ。特に細胞のエネルギー代謝については時間をかけて扱う。 (受入数:若干名) 履修条件:化学・生物化学基礎Ⅲ、化学・生物化学基礎Ⅳを履修していることが望ましい。 ※本講義は、理工学部の専門科目のため、工学部生及び理工学部生は教養教育科目としては履修できません。	高年 次用	桐生
	離散数学Ⅰ	前	水5-6	荒木 徹	2	選	電子情報 情報科学	集合、関数、命題、関係など離散系の数学について理解する。 (受入数:10) 履修条件:解析学、線形代数学を履修していること ※本講義は、理工学部の専門科目のため、工学部生及び理工学部生は教養教育科目としては履修できません。	高年 次用	桐生
	画像処理	後	火5-6	太田 直哉	2	選	電子情報 情報科学	画像処理、コンピュータビジョンの基礎的な事項を知る。 (受入数:5) 履修条件:線形代数およびC言語に関する知識があること ※本講義は、理工学部の専門科目のため、工学部生及び理工学部生は教養教育科目としては履修できません。	高年 次用	桐生
	コンピュータネットワー ク	後	月7-8	河西 憲一	2	選	電子情報 情報科学	コンピュータネットワークの目的、原理、構成を理解する。 (受入数:20) 履修条件:計算機の使用経験済。プログラミングの経験有 ※本講義は、理工学部の専門科目のため、工学部生及び理工学部生は教養教育科目としては履修できません。	高年 次用	桐生
	離散数学Ⅱ	後	木5-6	天野 一幸	2	選	電子情報 情報科学	離散数学Ⅰに引き続き、グラフ、述語、数え上げなど離散系の数学について理解する。 (受入数:10) 履修条件:離散数学Ⅰを履修していること ※本講義は、理工学部の専門科目のため、工学部生及び理工学部生は教養教育科目としては履修できません。	高年 次用	桐生

[理工学部]

授業科目	授業題目	学 期	曜・時限	担当教員	単 位 数	選 必 別	授業クラス	授業目標・内容など	区 分	地開 区講
自然科学科目群	無機化学Ⅰ	前	火3-4	浅野 素子 藤沢 潤一	2	選	化学・生物化学全クラス	酸化還元反応、酸塩基反応、さらに金属元素及び水素の化合物の化学を理解する。 (受入数：若干名) 履修条件：少なくとも化学・生物化学基礎Ⅰを履修していること ※本講義は、理工学部の専門科目のため、工学部生及び理工学部生は教養教育科目としては履修できません。	高年 次用	桐生
	物理化学Ⅰ	前	水1-2	浅川 直紀 吉原 利忠 堀内 宏明	2	選	化学・生物化学全クラス	主に気体分子運動論と反応速度論を修得してもらう。 (受入数：若干名) 履修条件：化学・生物化学基礎Ⅱを履修していることを前提とする。 ※本講義は、理工学部の専門科目のため、工学部生及び理工学部生は教養教育科目としては履修できません。	高年 次用	桐生
	固体化学	前	木5-6	岩本 伸司	2	選	化学・生物化学全クラス	固相の凝集機構や結晶の性質の基礎的理解 (受入数：若干名) 履修条件：物理化学の基礎を履修していること ※本講義は、理工学部の専門科目のため、工学部生及び理工学部生は教養教育科目としては履修できません。	高年 次用	桐生
	有機化学Ⅰ	前	木1-2	海野 雅史 中村 洋介 網井 秀樹	2	選	化学・生物化学全クラス	官能基の性質の理解 (受入数：若干名) 履修条件：化学・生物化学基礎Ⅲの内容を理解していること ※本講義は、理工学部の専門科目のため、工学部生及び理工学部生は教養教育科目としては履修できません。	高年 次用	桐生
	高分子化学Ⅰ	後	木3-4	米山 賢	2	選	化学・生物化学全クラス	高分子の特性、合成方法、物理化学的性質などの基礎知識の習得 (受入数：若干名) 履修条件：有機化学、物理化学の基礎 ※本講義は、理工学部の専門科目のため、工学部生及び理工学部生は教養教育科目としては履修できません。	高年 次用	桐生
	分離工学Ⅰ	後	木1-2	原野 安士	2	必	環境創生 環境エネルギー	蒸留、吸収、吸着、膜分離の原理の修得と工学への応用 (受入数：若干名) 履修条件：高校程度の微分・積分を修得したもの ※本講義は、理工学部の専門科目のため、工学部生及び理工学部生は教養教育科目としては履修できません。	高年 次用	桐生
	熱力学Ⅰ	前	水5-6	座間 淑夫	2	必	機械知能	熱力学の基本則を理解させる。 (受入数：10) 履修条件：物理学の単位をとっていること。偏微分方程式を学んでいること ※本講義は、理工学部の専門科目のため、工学部生及び理工学部生は教養教育科目としては履修できません。	高年 次用	桐生
	熱力学Ⅱ	後	水5-6	荒木 幹也	2	必	機械知能	熱機関の原理を学ぶ。(内熱機関、蒸気タービン、超音速ノズル等) (受入数：10) 履修条件：熱力学Ⅰを履修していること ※本講義は、理工学部の専門科目のため、工学部生及び理工学部生は教養教育科目としては履修できません。	高年 次用	桐生
	建設材料学	前	木3-4	小澤満津雄	2	選	環境創生 社会基盤・防災	コンクリート、鋼などの建設材料の特徴、製造方法、用途などの一般的な知見を習得する。 (受入数：20) 履修条件：特になし ※本講義は、理工学部の専門科目のため、工学部生及び理工学部生は教養教育科目としては履修できません。	高年 次用	桐生
	構造力学Ⅰ	前	月3-4	斎藤 隆泰	2	必	環境創生 社会基盤・防災	荷重に対するはりや柱、トラスの静定構造部材の簡単な設計が行えるようにする。 (受入数：20) 履修条件：特になし ※本講義は、理工学部の専門科目のため、工学部生及び理工学部生は教養教育科目としては履修できません。	高年 次用	桐生
	水理学Ⅰ	前	水3-4	清水 義彦	2	必	環境創生 社会基盤・防災	静水圧、浮体の安定、ベルヌーイの定理、運動量の法則を学ぶ。 (受入数：10) 履修条件：特になし ※本講義は、理工学部の専門科目のため、工学部生及び理工学部生は教養教育科目としては履修できません。	高年 次用	桐生

[理工学部]

授業科目	授業題目	学期	曜・時限	担当教員	単位数	選別	授業クラス	授業目標・内容など	区分	地開区講
自然科学科目群	機械力学Ⅱ	前	金3-4	丸山 真一	2	選	機械知能	機械構造の変形や振動問題をエネルギーの最小原理を用い解析する方法を修得する。 (受入数:10) 履修条件:初等の力学、簡単な微積分と行列の基礎知識 ※本講義は、理工学部の専門科目のため、工学部生及び理工学部生は教養教育科目としては履修できません。	高年次用	桐生
	基礎計測学	前	火3-4	藤井 雄作	2	選	機械知能	計測の基礎を理解し、実践において失敗しない計測法が習得できます。 (受入数:10) 履修条件:特になし ※本講義は、理工学部の専門科目のため、工学部生及び理工学部生は教養教育科目としては履修できません。	高年次用	桐生
	電子回路Ⅰ	後	火5-6	小林 春夫	2	選	電子情報 電気電子	トランジスタ回路など電子回路に関する基礎知識を習得させる。 (受入数:5) 履修条件:特になし ※本講義は、理工学部の専門科目のため、工学部生及び理工学部生は教養教育科目としては履修できません。	高年次用	桐生
	電気機器	前	水5-6	石川 赴夫	2	選	電子情報 電気電子	電気から運動エネルギーに変換する機器を理解する。 (受入数:5) 履修条件:電磁気学、電気回路を修得していることが望ましい ※本講義は、理工学部の専門科目のため、工学部生及び理工学部生は教養教育科目としては履修できません。	高年次用	桐生
	光工学	前	月1-2	高橋 佳孝	2	選	電子情報 電気電子	オプトエレクトロニクスの基礎を習得する。 (受入数:10) 履修条件:高校の物理、あるいはそれに相当する科目を修得していること ※本講義は、理工学部の専門科目のため、工学部生及び理工学部生は教養教育科目としては履修できません。	高年次用	桐生
	電子物理計測	後	火1-2	曾根 逸人	2	選	電子情報 電気電子	電子をプローブとして用いる計測技術について、電子の持つ物理的性質から計測原理とその応用まで習得させる。 (受入数:5) 履修条件:高校の物理・数学を修得していることが望ましい ※本講義は、理工学部の専門科目のため、工学部生及び理工学部生は教養教育科目としては履修できません。	高年次用	桐生
	電子回路Ⅱ	前	木5-6	山越 芳樹	2	選	電子情報 電気電子	増幅や変復調回路など電子回路の基礎知識を習得させる。 (受入数:5) 履修条件:特になし ※本講義は、理工学部の専門科目のため、工学部生及び理工学部生は教養教育科目としては履修できません。	高年次用	桐生
	計算機工学	前	火3-4	弓仲 康史	2	選	電子情報 電気電子	コンピュータの基本構造について習得させる。 (受入数:5) 履修条件:特になし ※本講義は、理工学部の専門科目のため、工学部生及び理工学部生は教養教育科目としては履修できません。	高年次用	桐生
総合科目群	国際コミュニケーション実習Ⅱ	通	—	海野、石間 中川、関	2	選	化学・生物、機械知能、 環境創生、電子情報	国際語である英語のコミュニケーション能力向上及び異文化知識の習得を目的とし、一定期間以上(2週間程度以上)の海外の群馬大学協定校における研修又は海外における専任教員が引率する研修又は国内における専任教員が引率する英語を使用する研修を行い、さらに研修終了後、研修内容の発表会を行う。 (受入数:5) 履修条件:GFLコース用に開講するものに限る。 ※本講義は、理工学部の専門科目のため、工学部生及び理工学部生は教養教育科目としては履修できません。	高年次用	桐生

